内堀遺跡群 XI

—大室公園整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査概報—

1999

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

内堀遺跡群 XI

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

遺跡地に立ち、北に目を向ければ赤城山が雄々しくそびえています。周辺を見渡すと大室公園が次第に全貌を現しはじめ、休祭日には遺跡周辺から家族連れの華やかな声が聞こえてきます。一部公開された公園の芝ではボール遊びや芝滑り、水時計周辺では水遊びの子供たちが歓声を上げ、親達はワイルドフラワーの美しさに見とれています。

また、古墳群に目を転じれば整備中の後二子古墳をはじめとする大室４古墳の姿が大きくどっしりと浮かび上がっています。

ここ、内堀遺跡群に居住した古代の人々は毎朝、毎夕、自然の恵みや自然の驚異を与えてくれる赤城山の姿と自分たちの支配者やご先祖の雄大な墓を拝み、その姿に畏敬の念をもったことでしょう。

本年度の発掘調査は大室公園の東から五料沼北側、五料沼西側の４カ所です。

中でも特に注目されるのは、さくら草の湿原予定地から発見された一辺10mを越す住居址です。この時期の住居址としましては県内最大級を誇ります。また、古墳時代の竪穴住居址16軒と掘立柱建物跡２軒も発見されており、この巨大住居との位置づけや古墳の築造者との関連等、古代へのロマンが広がってきました。

この巨大住居址は、将来の活用を見据えて前橋市公園緑地課のご厚意と協力を受け、現位置に保存されることになりました。関係各位のご厚意に対し心より感謝申し上げる次第です。

本報告書を一読して内堀遺跡群解明のためにご指導、ご助言等をいただけるとともに、古代史の解明に少しでも役立てれば幸いです。

平成11年３月26日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団　長　渡　辺　勝　利

例　言

1　本報告書は、前橋市が整備する大室公園に係る内堀（うちぼり）遺跡群内堀遺跡、下縄引（しもなわびき）II遺跡、梅木（うめのき）遺跡の発掘調査報告書である。

　下縄引II遺跡…A区（さくら草の湿原）、梅木遺跡…B区（管理事務所）、C区（付替道路）
　内堀遺跡…D区（お祭り広場）

2　遺跡は群馬県前橋市西大室（にしおおむろ）町2517,2530,2545番地に所在する。

3　調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　渡辺勝利が前橋市長　萩原弥惣治と委託契約を締結して実施した。調査担当および調査期間は以下のとおりである。

　調 査 担 当 者　佐藤則和・安立聡（前橋市埋蔵文化財発掘調査団発掘調査係）
　発 掘 調 査 期 間　平成10年４月23日～平成10年12月９日
　報告書作成期間　平成10年12日10日～平成11年３月26日

4　本書の原稿執筆・編集は佐藤・安立が行った。なお、Ⅵ成果と問題の「２下縄引遺跡の集落について」は、井上唯雄（前橋市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係発掘調査指導員）が原稿執筆にあたった。整理作業をはじめ報告書の作成には、佐藤佳子・下境真由美・下境弥・高畑八栄子・内藤貴美子・峰岸あや子・吉田真理子の協力があった。

5　発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に、建設省国土地理院発行の１／20万地形図（長野・宇都宮）と１／５万地形図（前橋）を使用した。

3　本遺跡の略称は10E11である。

4　各遺構・住居址の施設名の略称は次のとおりである。

　H…古墳時代の住居址、D…土坑、F…炉址、P…柱穴・貯蔵穴、B…掘立柱建物跡

5　遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。

　遺構　　住居址・土坑…１/60、炉址・竈址…1/30、全体図1/300、1/500、1/5000
　遺物　　土器…1/3、石器…2/3、1/2、1/4、玉類…1/1

6　スクリーントーンの使用は次のとおりである。

　遺構平面図　　焼土…、炭化物…、粘土…
　遺構断面図　　焼土…、炭化物…、粘土…、構築面…
　遺物実測図　　須恵器断面…黒塗、石器使用痕…

7　遺物分布図のシンボルの使用は次のとおりである。

　赤…●土師器、▲須恵器
　青…●玉類、▲…砥石、■…紡錘車、○…鉄器、石器…△
　なお接合状態は実線で結んだ。

8　本文中の数値の（　）は現存値を示し、［　］は復原値を表す。

9　火山降下物の略称と年代は次のとおりである。

　As－B（Bテフラ：供給火山・浅間山、1108年）
　Hr－FA（FAテフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
　As－C（C軽石：供給火山・浅間山、４世紀中葉）

目　　次

序

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地…… 5

2　歴史的環境…… 5

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針…… 8

2　調査経過…… 8

Ⅳ　層　　序……10

Ⅴ　遺構と遺物

1　A区さくら草の湿原……11

2　B区管理事務所……19

3　C区付替道路……19

4　D区お祭り広場……20

Ⅵ　成果と問題点

1　H－12号住居址について……23

2　下縄引Ⅱ遺跡の集落について……28

図　版

口絵　1　A区さくら草の湿原全景

ＰＬ．1　A区H－1～5・9号住居址
2　A区H－6・8・9号住居址
3　A区H－8・10・11・14号住居址
4　A区H－12号住居址
5　A区H－12号住居址
6　A区H－12・13号住居址
7　A区H－13・15・16号住居址
8　A区B－1・2掘立柱建物跡、A区全景
B区全景、C区トレンチ
9　D区全景、D区H－1号住居址
10　D区H－2～5号住居址
11　A区H－2～4・6・8号住居址出土の土器

口絵　2　H－12号住居址出土遺物

ＰＬ．12　A区H－8号住居址出土の土器
13　A区H－8・10・12号住居址出土の土器
14　A区H－12号住居址出土の土器
15　A区H－12号住居址出土の土器
16　A区H－12号住居址出土の土器
17　A区H－12・13号住居址出土の土器
18　A区H－13・14・16号住居址出土の土器
19　A区H－16号住居址、表採、出土の土器
D区H－1・5号住居址出土の土器
20　D区H－5号住居址、グリッド出土の土器
21　A区H－6・12・16号住居址出土の石製品と鉄製品
A区H－8・12号住居址出土の玉類
22　A区出土の石器

挿　図

頁

Fig.　1　内堀遺跡群の位置……1
2　内堀遺跡群調査全体図……3・4
3　内堀遺跡群と周辺遺跡……7
4　平成10年度調査経過図……9
5　内堀遺跡群標準土層図……10
6　A区全体図……18
7　B区全体図……19
8　D区全体図……22
9　張り出し住居址分類……25
10　H－12号住居址空間区割図……27
11　下縄引II遺跡集落分布図……31・32
12　A区H－1・2号住居址……49
13　A区H－3・4号住居址……50
14　A区H－5・7号住居址……51
15　A区H－6号住居址……52
16　A区H－6号住居址……53
17　A区H－8号住居址……54
18　A区H－8号住居址……55
19　A区H－10号住居址……56

頁

Fig.　20　A区H－9・10・11号住居址……57
21　A区H－14・15号住居址……58
22　A区H－12号住居址……59・60
23　A区H－12号住居址……61・62
24　A区H－12号住居址炭化物分布図……63・64
25　A区H－12号住居址遺物分布図……65・66
26　A区H－13号住居址……67
27　A区H－16号住居址……68
28　A区H－16号住居址……69
29　D区H－1・2・3号住居址……70
30　D区H－4・6号住居址……71
31　D区H－5号住居址……72
32　D区H－5号住居址
A区B－1号掘立柱建物跡……73
33　A区B－2号掘立柱建物跡……74
34　A区H－2～4号住居址出土の土器……75
35　A区H－6・8号住居址出土の土器……76
36　A区H－8号住居址出土の土器……77
37　A区H－8号住居址出土の土器……78

頁

Fig. 38 A区H－8・10・12号住居址出土の土器……79
39 A区H－12号住居址出土の土器……80
40 A区H－12号住居址出土の土器……81
41 A区H－12号住居址出土の土器……82
42 A区H－12号住居址出土の土器……83
43 A区H－12号住居址出土の土器……84
44 A区H－12号住居址出土の土器……85
45 A区H－12号住居址出土の土器……86
46 A区H－12・13号住居址出土の土器……87
47 A区H－13号住居址出土の土器……88
48 A区H－13・14号住居址出土の土器……89

頁

Fig. 49 D区H－16号住居址出土の土器……90
50 A区表採
D区号H－1住居址出土の土器……91
51 D区H－1・5号住居址出土の土器……92
52 D区H－3・5号住居址出土の土器
D区グリッド出土の土器……93
53 A区H－12号住居址出土の玉類……94
54 A区H－12号住居址出土の玉類……95
55 A区H－6・12・16号住居址出土の
石製品と鉄製品……96
56 A区H－1・8・12・13号住居址・
D区グリッド出土の石器……97

表

頁

Tab. 1 内堀遺跡群下縄引II遺跡の
住居址名対照表……V
2 発掘調査報告書抄録……VI
3 下縄引II遺跡住居址時期別表……28
4 下縄引II遺跡住居址時期別大型住居址……29
5 張り出しピットをもつ住居址一覧表……33
6 下縄引II遺跡住居址一覧表……35
7 A区柱穴観察表……39

頁

Tab. 8 A区掘立柱建物柱穴物観察表……40
9 A区土坑観察表……41
10 B区土坑観察表……42
11 D区土坑観察表……42
12 A区遺物観察表……43
13 D区遺物観察表……46
14 玉類観察表……47
15 石・鉄製品観察表……48

Tab. 1 内堀遺跡群下縄引II遺跡の住居址名対照表

『内堀遺跡群XI』においては、便宜上H－1からH－16の名称を使用したが、
遺跡の住居址連番号は、以下の通りとする。

本報告名称	連番名称	本報告名称	連番名称
H－ 1	H－167	H－ 9	H－ 175
H－ 2	H－168	H－ 10	H－ 176
H－ 3	H－169	H－ 11	H－ 177
H－ 4	H－170	H－ 12	H－ 178
H－ 5	H－171	H－ 13	H－ 179
H－ 6	H－172	H－ 14	H－ 180
H－ 7	H－173	H－ 15	H－ 181
H－ 8	H－174	H－ 16	H－ 182

Tab. 2　発掘調査報告書抄録

ふりがな	うちぼりいせきぐん　じゅういち
書名	内堀遺跡群Ⅺ
副書名	大室公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報
巻次	第11巻
シリーズ名	―
シリーズ番号	―
編著者名	佐藤則和　安立　聡
編著機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編著機関所在地	〒371－0007 群馬県前橋市上泉町664－4
発行年月日	1999（平成11）年3月26日

ふりがな 所収遺跡群名	ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
内堀遺跡群（うちぼりいせきぐん）	内堀遺跡（うちぼり） 下縄引Ⅱ遺跡（しもなわびきに） 梅木遺跡（うめのき）	前橋市西大室町 2517番地 2530番地 2545番地	10201	10E11	36°23′15″	139°12′00″	19980423～ 19981209	4920	公園造成

所収遺跡群名 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内堀遺跡群 内堀遺跡	集落	古墳時代前期 古墳時代中期 時期不明	住居址1軒 住居址1軒 住居址4軒	土師器（樽式・赤井戸式系を含む。） 土師器 土師器、土製紡錘車	
内堀遺跡群 下縄引Ⅱ遺跡	集落	古墳時代中期 古墳時代後期 時期不明	住居址4軒 住居址6軒 住居址6軒	土師器（石田川式） 石器 土師器、須恵器、臼玉、管玉 ガラス玉、紡錘車、刀子 土師器	H－12号大型住居址を中心とする集落
内堀遺跡群 梅木遺跡		時期不明	土坑　1基		

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市の「大室公園整備事業」に先立って行われたものである。この調査は昭和62年度に始まり今年度で12年目になるが、公園建設予定地の埋蔵文化財を調査し公園設計の基礎資料にすることが目的である。

昭和62年度は、公園予定地約369000㎡のうち国指定史跡である前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳や山林、沼などを除く約200000㎡について、東西に10m間隔でトレンチを入

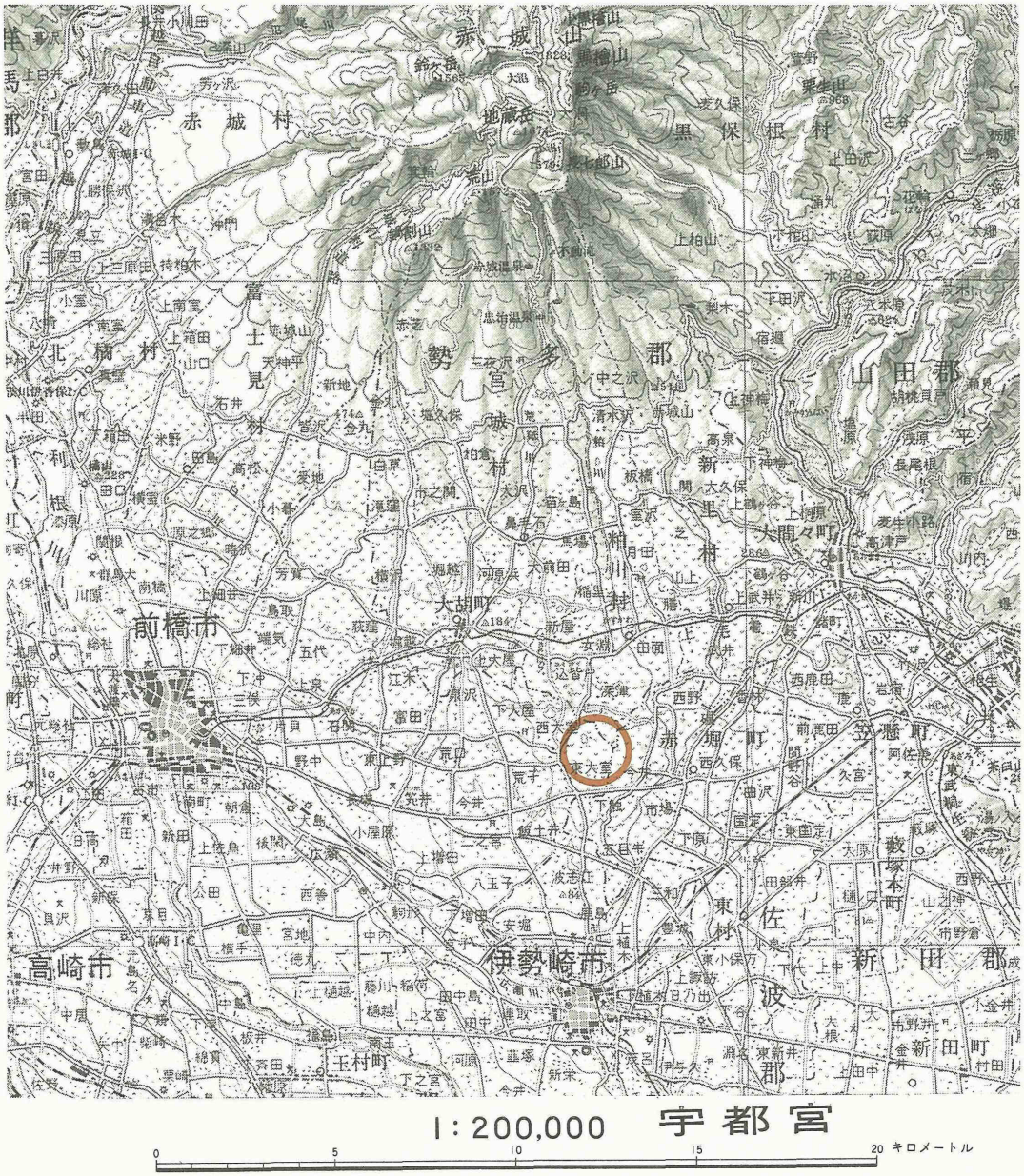


Fig. 1　内堀遺跡群の位置

れる方法で確認調査を行い、予定地全域についての埋蔵文化財の分布状況を知るとともに、その結果を踏まえ（内堀遺跡群Ⅰに収録）、昭和63年度には予定地の北西部約10000㎡についての発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅱ）。また、平成元年度は、昭和63年度調査区の西側を中心に約12600㎡について発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅲ）。平成２年度は、昭和63年度と平成元年度の調査区を取り囲む範囲の発掘調査と確認調査を実施した。発掘調査の面積は約9000㎡・確認調査の面積は約2500㎡で合計11500㎡である（内堀遺跡群Ⅳ）。

平成３年度は、平成元年度第5調査区の南および西側に隣接したＬ字形の区域約4000㎡について、後二子古墳・小二子古墳範囲確認調査とともに発掘調査を実施した。平成４年度は公園予定地の北西部にある自然丘陵の東側と西側の部分約9400㎡について、前二子古墳の範囲確認調査と並行して発掘調査を実施した。また、Ｍ－６号墳の範囲確認調査や一部試掘調査も行った（内堀遺跡群Ⅴ）。

平成５年度は、五料沼の北側の部分3130㎡について、２カ年計画の２年次の中二子古墳範囲確認調査の前に発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅵ）。

平成６年度の調査は、平成５年度の調査区（Ａ区）の水路をはさんだ東側の部分1200㎡について、２カ年計画の２年次の中二子古墳範囲確認調査と一部並行して発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅶ）。

平成７年度は、前橋市の指定文化財「関根家住宅（赤城型民家）」の移設予定地とその周囲道路部分の併せて3000㎡について、小二子古墳の範囲確認調査と一部並行して発掘調査を実施した（内堀遺跡群Ⅷ）。

平成８年度は、後二子古墳北側の管理用道路、赤城型民家の南側、内堀４号墳のトレンチ調査等を小二子古墳の調査の前後に実施した。（内堀遺跡群Ⅸ）

平成９年度は、内堀４号墳の全面調査、管理用道路、平成６年度の南側で五料沼に流れ込む水路の東側の調査を実施した。調査面積は確認・発掘調査で約3881㎡である。（内堀遺跡群Ⅹ）

本年度は、９年度に行われた水路東の対岸、約1580㎡と、公園管理事務所約400㎡、桂川に沿った付替道路約2500㎡、五料沼西のお祭り広場約440㎡の計4920㎡の調査を実施した。

調査した部分は、公園整備が予定されている地域で、記録保存を目的とした調査である。なお、初年度以前の経緯については『内堀遺跡群Ⅰ』に詳しく述べられているので本書では省略する。

Fig. 2 内堀遺跡群調査全体図

II　遺跡の位置と環境

1　遺 跡 の 立 地

内堀遺跡群が所在する前橋市西大室町は、前橋市の中心市街地から東へ約15kmの所にある。遺跡は国道50号線東大室十字路より北へ２kmで、県道前橋・今井線と県道伊勢崎・深津線の交差点から北東１kmに位置している。またＪＲ両毛線伊勢崎駅から遺跡は北約７kmにあり、上毛電鉄新屋駅から近い。東側は多田山と呼ばれる火山泥流による丘陵地形があり、赤堀町との境となっている。また、北に接する粕川村とは、七ツ石とよばれる信仰の対象となっている巨石のある丘陵とそれに連なる丘陵地形を行政上の境界としている。

平成10年度の調査区は、内堀遺跡群（公園予定地）の中において、Ａ区(さくら草の湿原)は五料沼北側に、Ｂ区(管理事務所)は公園予定地の南東部に、Ｃ区(付替道路)は公園予定地東を流れる桂川の西岸に沿って、Ｄ区(お祭り広場)は後二子古墳の東側に位置している。

本遺跡群の東端には五料山とよばれる自然丘陵があり、また、後二子古墳の南側、さらには前二子古墳が造られた所も丘陵地形となっている。この地区の丘陵地形の基盤は、すべて粗粒安山岩よりなる火山泥流によって形成されており、それらが露出しているのが、七ツ石や石山観音、産泰神社裏の巨石などである。また、平成３年度調査区内から小さな谷地が入り、かつては湧水による小河川があったものと推定される。現在五料山の西側には小河川が流れているが、近世頃にこの谷地の南側に堤を造り、堰止めてできたものが五料沼である。本遺跡のある丘陵の北側には現在水田地帯が広がっているが、下縄引Ｉ遺跡や粕川村五反田遺跡の存在からこの地域を当時の生産基盤と考えることが難しいため、上記の谷地を含めた南側に生産基盤を求めたい。平成10年度の調査区の標高は、122m～131mである。

2　歴 史 的 環 境

内堀遺跡群のある荒砥地区は自然に恵まれた風光明媚な所であるとともに、大室４二子古墳を始めとした周知の遺跡が存在する考古学上にも重要な地域である。そこで、本遺跡群を理解するために周辺の歴史的環境をみてみたい。

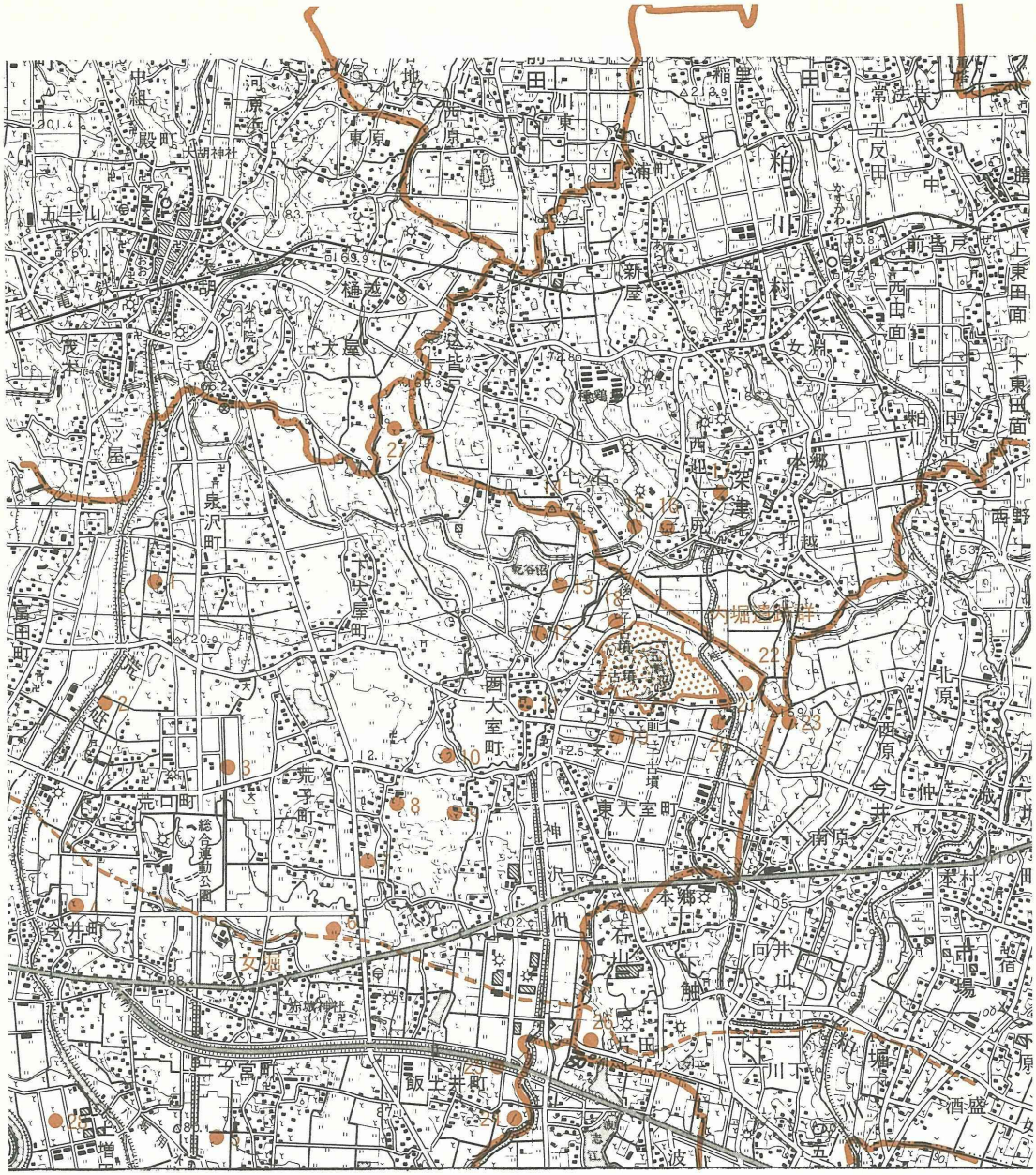
まず、旧石器時代の遺跡として、荒砥川流域の洪積台地先端部を中心に尖頭器がまとまって出土した荒砥北三木堂遺跡④、ＡＴ下の国内最大の「環状ブロック群」が検出された下触牛伏遺跡㉖、また、宮川の沖積地に臨む柳久保遺跡群③においてナイフ形石器、細石刃等の旧石器文化の遺物が出土している。

続く縄文時代には、草創期の遺跡として爪形文土器が検出された下触牛伏遺跡㉖がある。二本

松遺跡㉕や柳久保遺跡群からは、田戸下層期の土器が出土している。前期の遺跡は、荒砥二之堰遺跡㉔、荒砥上ノ坊遺跡⑥、荒砥上諏訪遺跡⑲など検出例は多い。中期後半の遺跡も多く確認されているが、いずれも５～10軒の中・小規模の集落にとどまっており、赤城村三原田遺跡、赤堀町曲沢遺跡のような大規模遺跡の存在は知られていない。

弥生時代の遺跡は水田耕作に適した沖積地を臨む台地や微高地に立地しており、中期後半から後期の小規模集落が荒砥島原遺跡⑤、荒砥上川久保遺跡⑳、西原遺跡⑯、西迎遺跡⑰などで見られる。古墳時代前期の遺跡としては、本遺跡の北西に隣接する上縄引遺跡⑱をはじめ、北山遺跡⑬、七ツ石遺跡⑭、久保皆戸遺跡㉒、梅木遺跡㉑などがある。この時期の遺跡は、住居出土の土器を見る限り複雑な様相を呈しており、弥生時代後期の樽式・赤井戸式土器はこの時期まで残存し、土師器と共伴する。そのうち、浅間Ｃ軽石降下後およびＦＡ降下前の各遺跡の住居は、内堀遺跡群下縄引II遺跡の集落に対応するものであると考えられる。また、下縄引II遺跡の集落の墓域として上縄引遺跡の周溝墓群を考えている。５世紀後半から６世紀代に入ると、赤堀茶臼山古墳㉓をはじめ強大な支配者の存在を暗示する大室４二子古墳が築造され、この地区が当時の中心的様相を呈するようになる。梅木遺跡で検出された首長層の居宅は大室４二子古墳と何らかの関係があると推定される。このほかに居館址として、荒砥荒子遺跡⑦、丸山遺跡①などがある。また、荒砥荒子遺跡の豪族居宅遺構と関連し、舞台遺跡１号古墳⑧および西大室丸山遺跡⑨があり、豪族の勢力格差により居宅・古墳の規模、祭祀行為に相違があったことが窺える。６世紀後半から７世紀代に入ると小円墳の群集化が進み、１～３基程度の散在する小円墳も出現するようになり、支配階層の多層化と系列化が進んだことを意味している。粕川村深津の三ケ尻西遺跡⑮では、７世紀後半の製鉄遺構３基と住居址が確認された。古墳群が密集した地域であることから、有力な豪族が招いた技術者の集落址で製鉄品造りの拠点になっていたと推定される。また、西大室では赤城南麓の古墳時代終末期を代表する截石切組積石室をもつ富士山古墳⑩が築造され、高度な石材加工技術を習得していたことが窺える。

奈良・平安時代には居住域が台地全体に広がり、水田開発が進み、荒砥諏訪西遺跡②では微高地まで水田化している。また、12世紀の中頃、開削されたとされる女堀の遺構も残存している。また、奈良～平安時代の炭窯址が横俵遺跡群㉗や粕川村の西原古墳群、大胡町の上大屋・樋越地区遺跡群等の近隣市町村から検出されており、当時赤城南麓の近隣で盛んに木炭生産が行われていたことがうかがえる。中世以降の城郭としては、大室城⑪、元大室城⑫、今井城、赤石城などがあり、荒砥北三木堂遺跡などでは多数の墓坑が調査されている。また、井戸や溝など近世の遺構も多くの遺跡で確認されている。



①丸山遺跡　②荒砥諏訪西遺跡　③柳久保遺跡群　④荒砥北三木堂遺跡　⑤荒砥島原遺跡　⑥荒砥上ノ坊遺跡
⑦荒砥荒子遺跡　⑧舞台遺跡１号古墳　⑨西大室丸山遺跡　⑩富士山古墳　⑪大室城　⑫元大室城　⑬北山遺跡
⑭七ツ石遺跡　⑮三ケ尻西遺跡　⑯西原遺跡　⑰西迎遺跡　⑱上縄引遺跡　⑲荒砥上諏訪遺跡　⑳荒砥上川久保遺跡
㉑梅木遺跡　㉒久保皆戸遺跡　㉓赤堀茶臼山古墳　㉔荒砥二之堰遺跡　㉕二本松遺跡　㉖下触牛伏遺跡
㉗横俵遺跡群　㉘中原遺跡群

Fig. 3　内堀遺跡群と周辺遺跡

Ⅲ　調査の経過

1　調 査 方 針

調査の実施にあたっては、国家座標に基づいた原点を据えて、内堀遺跡群全体グリッド（４ｍグリッドを基本とし、西から東へＸ０～Ｘ250・北から南へＹ０～Ｙ200グリッドの設定枠）を用いた。ちなみにＸ125－Ｙ50グリッドは第Ⅸ系の＋43200.000ｍ・－56800.000ｍで、北緯36°23′15″.8002・東経139°12′00″.4300に当たる。

調査区域が大きく４箇所に分かれているため、Ａ区（さくら草の湿原）・Ｂ区（管理事務所）・Ｃ区（付替道路）・Ｄ区（お祭り広場）と呼称した。総調査面積は約4920㎡である。なお、Ｃ区については、桂川の氾濫によって遺構面が削り取られている可能性があるため、トレンチによる確認調査を行い、遺構面確認後、本調査に入るという形をとった。

調査には期間的制約があるため掘削用重機を用いて表土の除去を行うことにした。並行してグリッド設定、ベンチマーク（水準点）の設置を行った。その後、平板測量で遺構の配置図を作成し、各遺構の調査工程を検討した。具体的には

1　遺構の掘り下げは、セクションベルトを設けて土層観察を行いながら進める。

2　遺物について、10cm四方以上のものは縮尺1/20にて図化し、それ以下についてはドットで表記した平面図を作成する。取り上げに際しては、遺物台帳に諸属性を記録する。

3　炉と竈の図化については、原則として縮尺1/10にて、遺構平面図については、原則として縮尺1/20にて実施する。

以上の方針の下に調査を進めた。

2　調 査 経 過

発掘調査は、平成10年４月より現地調査、発掘事務手続き、公園緑地課との事前協議などを十分行ってから、現場事務所の設置や発掘調査用具の搬入など本格的な準備を行った。調査区が分かれているため、今年度の調査区は、Ａ区（さくら草の湿原）・Ｂ区（公園管理事務所）・Ｃ区（付替道路）・Ｄ区（お祭り広場）と設定し、調査工程を考慮してＡ区→Ｂ区→Ｃ区→Ｄ区の順で調査を進めることにした。

４月23日にバックフォー（0.4㎥）でＡ区の表土掘削を開始。27日より作業員を導入し、本格的な調査に入る。５月６日に表土掘削は終了した。五料沼と接する調査区南西側より沼からの浸水が始まり、日ごとに水位が上昇してきた。今後、梅雨時期の降雨による水没が予想されるので、水没の危険性の高い調査区南側を早急に終了させる方針をとった。調査区南側からは住居址７軒

が検出されたが、いずれも湧き水がひどく、１日にして水没してしまうため、短期間で仕上げなければならない厳しい調査となった。

６月に入り、調査区南半分は水没し、北半分の調査に入る。７月８日にハイライダーによる空中写真撮影を実施、14日に測量、遺物洗浄を終え、Ａ区の現地調査は終了した。その後、文化財保護課内でＡ区の出土遺物の整理を行いながら、Ｂ区の調査の準備を行う。

８月18日よりバックフォー（0.4m³）でＢ区の表土掘削を開始、24日より作業員を導入し、本格的な調査に入る。遺構と思われるプランは確認されたが、塩ビ管やビニールが混入しており、また、遺構面でも現代の陶器などが見られた。そのため、現在の表土が遺構確認面まで達し壊されているという結論により、８月26日にＢ区の現地調査は終了した。

Ｂ区の調査と並行しながら８月25日にＣ区の調査を行った。Ｃ区は桂川沿いに位置するため、桂川の氾濫により遺構確認面が流されている可能性が高かった。そのため、南北に長い調査区に間隔を置いてトレンチを入れ遺構面の確認することから始めた。南側よりトレンチを入れるが、約２ｍ下に桂川の氾濫の際の川砂層が厚く堆積しており、遺構面は確認できなかった。その後、トレンチを徐々に北に移すが状況は変わらなかった。Ｃ区は桂川の氾濫により遺構確認面が流されているという結論により、８月27日にＣ区の現地調査は終了した。

９月１日よりバックフォー（0.4m³）でＤ区の表土掘削を開始、８日より作業員を導入し、本格的な調査に入る。表土掘削を東へ進めるにつれて表土が厚くなり、五料沼から浸水してきた。最も厚いところで３ｍを越え調査進行に危険な状態になったため、東から南にかけては確認調査のみ行った。10月19日をもってＤ区の図面作成を終え、12月９日に全調査区の埋め戻しを終了し、現地調査を完了した。

遺物整理作業と報告書作成は10月20日より３月26日まで行った。

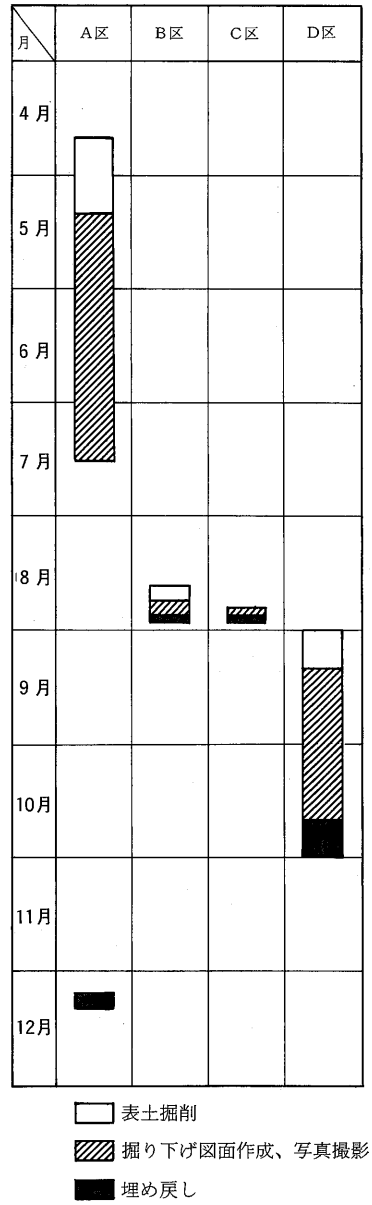


Fig. 4　平成10年度調査経過図

Ⅳ 層　　序

X98－Y23グリッドの土層を基にして本遺跡の標準土層図を作成した。本遺跡は、内堀遺跡群の北東部に存在し、約20～30万年前に赤城山の山体崩壊によって、引き起こされた梨木泥流によって形成された「流れ山」を中心とした標高129～137mの丘陵性台地である。「流れ山」の頂上には梨木泥流によって運ばれた大形の礫が一部露出し、土層の堆積も薄く、ちなみに層のＡＴ（姶良丹沢パミス）が表面から50～60cm程度で検出できる。

Ⅰａ層　黒褐色粗砂層。耕作土層。As－B（浅間Bテフラ：1108年降下）を50％以上含む。粘性なく、締まりあり。

Ⅰｂ層　黒褐色土層。As－B、As－C（浅間C軽石：４世紀中葉降下）、Hr－ＦＰ（榛名二ツ岳軽石：６世紀中葉降下）を含む粗砂層。粘性はないが、締まりはある。

Ⅱａ層　As－B純層。天仁元（1108）年に浅間山より降下した軽石層。わずかに間層をはさんで上部にAs－Kk（浅間粕川テフラ）が存在する場合もある。

Ⅱｂ層　黒色細砂層。As－C、Hr－ＦＰ（径20mm）を15％含む細砂層。粘性を有し、締まりあり。

Ⅱｃ層　暗灰黄色細砂層。粘性は少しあるが、締まりが弱い。

Ⅲ　層　黄褐色細砂層。淡色黒ボク土。粘性は少しあるが、締まりが弱い。縄文時代遺物包含層。

Ⅳａ層　明黄褐色硬質ローム層。As－ＹＰ（浅間板鼻黄色軽石：約1.3～1.4万年前）を10％、As－Ｓｒ（浅間白糸軽石：約1.8万年前）やAs－OP1（浅間大窪沢第１軽石）を５％含む微砂層。粘性があり、硬く締まる。

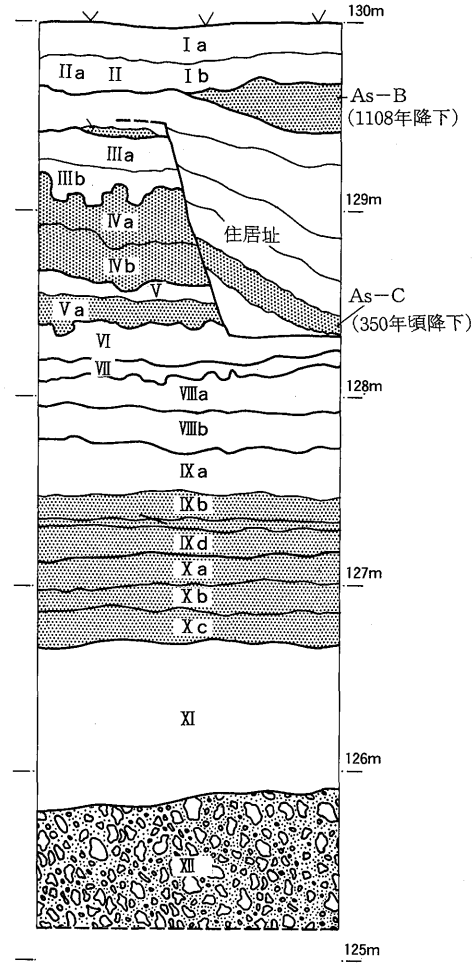


Fig. 5　内堀遺跡群標準土層図

Ⅳｂ層　明黄褐色土層。ハードローム層。As－ＹＰを５％、As－ＳｒまたはAs－OP1を10％程度含む微砂層。粘性があり、硬く締まる。

Ⅴ　層　明黄褐色硬質ローム層。As－ＢＰ（浅間板鼻褐色軽石群：1.8～2.1万年前）をブロックで20～30％程度含む層。粘性があり、硬く締まる。

Ⅵ　層　明黄褐色硬質ローム層。As－ＢＰブロックを15％程度含む。粘性があり、締まりが弱い。

Ⅶ　層　明黄褐色微砂層。風化土壌。粘性を有し締まりは弱い。上部にＡＴ（姶良丹沢パミス：約2.2～2.5万前）の含有が極大値を示す。

Ⅷ　層　明黄褐色粘土層。暗色帯。粘性が強く、締まりの弱い粘土層。色調でa・bの２亜層に分類できる。

Ⅸ　層　明黄褐色粘土層。粘性が強く、締まりのある粘土層。a～dの４亜層に分類できる。

Ⅹ　層　明黄褐色軽石層。Hr－ＨＰ（榛名八崎軽石：4.1～4.4万年前）。３亜層に分類でき、Ⅹa層は比較的大粒な軽石層、Ⅹb層は火山灰層、Ⅹc層は軽石層である。

Ⅺ　層　褐色粘土層。水性堆積で非常に粘性が強い。

Ⅻ　層　青灰色砂礫層。巨礫によって構成される。梨木泥流（約20～30万年前）によって形成されたと考えられる「流れ山」。

Ⅴ　遺構と遺物

１　Ａ区　さくら草の湿原　（Fig. 6、ＰＬ. 8）

(1)住居址

Ｈ－１号住居址（Fig. 12、ＰＬ. 1）

（位置） Ⅹ131～132－Ⅴ73～74Ｇ **（形状）** 方形と推定される。**（方位）** Ｎ－24°－Ｗ

（規模） 東西（3.5）×南北（2.0）m。確認面からの壁高16.2cm。**（面積）**（5.4）m²

（覆土） Hr－ＦＰ、ローム土の混入率の違いにより３層に大別できる。

（床面） ほぼ平坦であり、やや堅い。中央部に50cm径×深さ７cmのくぼみあり。
柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。遺物は出土しなかった。

（備考） 時期は不明。南側は調査区域外のため調査できず。

Ｈ－２号住居址（Fig. 12、ＰＬ. 1）

（位置） Ⅹ130～131－Ⅴ70～71Ｇ **（形状）** 正方形 **（方位）** Ｎ－42°－Ｅ

（規模） 長軸2.9×短軸2.8m。確認面からの壁高58.9cm。**（面積）** 7.5m²

（覆土） Hr－ＦＰ、ローム土の混入率の違いにより９層に大別できる。

（床面） ほぼ平坦で全体的に堅緻面が広がる。中央に粘土範囲あり。柱穴は検出されなかった。

（竈址） 東壁中央やや南に位置し、主軸方向はＮ－41°－Ｅ、全長90cm、幅91cmを測る。
ロームを掘り残して形成され、袖先端部に土器の置かれていた形跡がある。

（貯蔵穴） 竈址南隣から１個検出。P_1…68cm×50cm×10cmの方形。

（遺物） 土師器158点、塗彩１点、樽式２点、石田川式１点、須恵器１点の総数163点が出土。こ

のうち、１個体図示した。

（備考）６世紀初頭。

H－３号住居址（Fig. 13、ＰＬ. １）

（位置）X124～125－Y66～67G（形状）方形と推定される。（方位）N－12°－W

（規模）東西（3.5）×南北4.4m。確認面からの壁高26.4cm。（面積）（14.3）㎡

（覆土）Hr－ＦＰ、ローム土の混入率の違いにより４層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦であまり堅くない。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

（遺物）土師器323点、塗彩２点、石田川式70点の総数395点が出土。うち、３個体を図示した。

（備考）５世紀初頭。西側は調査区域外のため調査できず。

H－４号住居址（Fig. 13、ＰＬ. １）

（位置）X125～126－Y65～66G（形状）長方形（方位）N－11°－W

（規模）長軸3.4×短軸2.9m。確認面からの壁高9.6cm。（面積）9.3㎡

（覆土）Hr－ＦＰ、ローム土の混入率の違いにより３層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦でかなり堅い。鉄分凝結、炭化物あり。西壁中央近くに45cm径×10cmのくぼみあり。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

（炉址）中央より100cm×50cm×7.5cmの地床炉を１カ所検出。

（遺物）土師器121点、塗彩２点、樽式１点、赤井戸式１点、石器１点の総数126点が出土。このうち、４個体を図示した。

（備考）５世紀末。

H－５号住居址（Fig. 14、ＰＬ. １）

（位置）X126～127－Y65～66G（形状）長方形（方位）N－70°－E

（規模）長軸3.8×短軸3.2m。確認面からの壁高11.6cm。（面積）12.0㎡

（覆土）Hr－ＦＰ、ローム土の混入率の違いにより３層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦であまり堅くない。鉄分凝結あり。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

（炉址）中央部より62cm×46cm×6.0cmの地床炉を１カ所検出。

（遺物）土師器100点、樽式２点、須恵器１点、石器２点の総数105点が出土。

（備考）時期は不明。

H－６号住居址（Fig. 15・16、ＰＬ. ２）

（位置）X130～132－Y65～69G（形状）正方形（方位）N－73°－E

（規模）長軸8.1×短軸8.0m。確認面からの壁高42.8cm。（面積）（63.1）㎡

（覆土）Hr－ＦＰ、ローム土の混入率の違いにより５層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で中央に堅緻面が広がる。壁周辺はあまり堅くない。中央部に47cm×35cmの地床炉と思われる焼土範囲を検出。南壁中央に1.4×1.2mの規模で中央に貯蔵穴をもつ張り出し部がある。

（周溝）幅12cm、深さ７cmで竈址、張り出し部を除きほぼ全周。

（竈址）東壁中央やや南に位置し、主軸方向はＮ－83°－Ｗ、全長113cm、幅117cmを測る。構築材に粘土を用いる。支柱に土器を使用。

（貯蔵穴）張り出し部から１個検出。P_5…105cm×64cm×33cmの方形。

（柱穴）４個を検出。　P_1…72cm×48cm×45.5cm　P_2…100cm×55cm×30.0cm

P_3…71cm×53cm×40.0cm　P_4…50cm×37cm×33.0cm

各柱穴間　P_1－P_2…3.6m　P_2－P_3…4.3m　P_3－P_4…4.2m　P_1－P_4…4.7m

（遺物）土師器991点、塗彩14点、樽式３点、石田川式３点、須恵器４点の総数1015点が出土。このうち、６個体を図示した。

（備考）６世紀初頭。東側の一部（竈から南）は調査区域外のため調査できず。

Ｈ－７号住居址（Ｆig. 14）

（位置）Ｘ124～125－Ｙ64～65Ｇ（形状）方形と推定される。（方位）Ｎ－13°－Ｅ

（規模）東西（2.3）×南北3.7m。確認面からの壁高8.7cm。（面積）（7.4）㎡

（覆土）Hr－ＦＰ、Ａｓ－Ｃの混入率の違いにより３層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦でやわらかい。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

（遺物）土師器７点が出土。

（備考）時期は不明。西側は調査区域外のため調査できず。

Ｈ－８号住居址（Ｆig. 17・18、ＰＬ. ２・３）

（位置）Ｘ126～127－Ｙ62～64Ｇ（形状）正方形（方位）Ｎ－84°－Ｅ

（規模）長軸6.2×短軸5.9m。確認面からの壁高69.5cm。（面積）35.7㎡

（覆土）Ａｓ－Ｃ、ローム土、炭化物、焼土、鉄分の混入率の違いにより17層に細分できる。

（床面）中央部から竈周辺にかけて堅緻面が広がり、壁周辺があまり堅くない。構築材と思われる炭化物が多数点在。中央南に入り口と思われる粘土帯あり。

（竈址）東壁中央に位置。主軸方向はＮ－85°－Ｅ、全長121cm、幅112cmを測る。
構築材に粘土を用いる。支柱に土器を使用。

（貯蔵穴）南壁際中央やや東から１個検出。P_5…90cm×76cm×38cmの方形。

（柱穴）５個を検出。　P_1…31cm×26cm×31.0cm　P_2…31cm×26cm×36.0cm

P_3…21cm×17cm×47.0cm　P_4…27cm×27cm×39.0cm

各柱穴間　P_1-P_2…2.5m　P_2-P_3…2.9m　P_3-P_4…2.7m　P_1-P_4…2.7m

（遺物）土師器1423点、塗彩18点、樽式10点、赤井戸式９点、石田川式20点、須恵器２点の総数1482点が出土。このうち、23個体を図示した。

（備考）６世紀初頭。Ｈ－９号住居址と重複。

Ｈ－９号住居址（Ｆig. 20、ＰＬ. ３）

（位置）Ｘ126～127－Ｙ64Ｇ（形状）方形と推定される。（方位）Ｎ－37°－Ｅ

（規模）東西3.4×南北（2.2）m。確認面からの壁高21.6cm。（面積）（3.3）m²

（覆土）Hr－ＦＰ、Ａｓ－Ｃ、ローム土の混入率の違いにより３層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で、やや堅い。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

（炉址）南壁際中央部より38cm×30cm×4.0cmの地床炉を１カ所検出。

（遺物）土師器26点、樽式２点、石田川式１点、石器14点の総数44点の遺物が出土。

（備考）時期は不明。Ｈ－８号住居址と重複。

Ｈ－10号住居址（Ｆig. 20、ＰＬ. ３）

（位置）Ｘ128～129－Ｙ63～65Ｇ（形状）正方形（方位）Ｎ－78°－Ｅ

（規模）長軸4.4×短軸4.3m。確認面からの壁高57.0cm。（面積）19.6m²

（覆土）Hr－ＦＰ、ローム土、焼土、鉄分、炭化物の混入率の違いにより10層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅い。中央やや西に構築材と思われる炭化物が点在。南壁中央に粘土帯あり。

（周溝）幅15cm、深さ６cmで南東コーナーを除きほぼ全周。

（竈址）東壁中央やや南に位置し、主軸方向はＮ－77°－Ｗで、全長82cm、幅88cmを測る。構築材に粘土を用いる。支柱に土器を使用。

（貯蔵穴）竈南隣から１個検出。P_5…81cm×68cm×47cmの方形。

（柱穴）４個を検出。　P_1…20cm×16cm×18.0cm　P_2…16cm×13cm×18.5cm

P_3…21cm×21cm×52.5cm　P_4…28cm×19cm×44.0cm

柱穴間　P_1-P_2…1.9m　P_2-P_3…2.1m　P_3-P_4…2.1m　P_1-P_4…2.1m

（遺物）土師器834点、塗彩３点、赤井戸式８点、石田川式２点の総数847点が出土。うち、３個体を図示した。

（備考）６世紀前半。Ｈ－11号住居址と重複。

Ｈ－11号住居址（Ｆig. 18、ＰＬ. ３）

（位置）Ｘ129～130－Ｙ63Ｇ（形状）方形（方位）Ｎ－76°－Ｅ

（規模）長軸3.5×短軸2.8m。確認面からの壁高35.0cm。（面積）（9.3）m²

（覆土）Hr－ＦＰ、ローム土の混入率の違いにより５層に大別できる。

（床面） ほぼ平坦でやわらかい。柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。

（遺物） 土師器79点、赤井戸式２点、石田川式１点、須恵器１点の総数83点の遺物が出土。

（備考） 時期は不明。Ｈ－10号住居址，Ｄ－18と重複。

Ｈ－12号住居址（Ｆig. 22～25、ＰＬ．４～６）

（位置） Ｘ125～128－Ｙ59～62Ｇ **（形状）** 正方形 **（方位）** Ｎ－81°－Ｅ

（規模） 長軸10.2×短軸10.1m。確認面からの壁高59.0cm。**（面積）** 108.4m²

（覆土） Hr－ＦＰ、ローム土、焼土、鉄分、炭化物の混入率の違いにより12層に細分できる。

（床面） ほぼ平坦で、中央は特に堅くで壁周辺があまり堅くない。中央より110cm×60cmの地床炉と思われる焼土範囲を検出。南壁中央に長径1.9×短径1.1m、中央に貯蔵穴をもつ張り出し部がある。この張り出し部を囲む2.5×1.8mの粘土帯がある。構築材と思われる炭化物・焼土が多数点在。間仕切り溝あり。

（周溝） 幅17cm、深さ５cmで竈を除きほぼ全周。

（竈址） 東壁中央やや南に位置し、主軸方向はＮ－90°－Ｅ、全長200cm、幅132cmを測る。構築材にすさ入り粘土を用いる。支柱に土器を２つ使用。

（貯蔵穴） 張り出し部から１個検出。P_9…110cm×100cm×62.5cmの方形。

（柱穴） 主柱穴４個、補助柱穴８個を検出。

P_1…54cm×44cm×97.5cm　P_2…25cm×19cm×57.5cm　P_3…51cm×49cm×95.0cm

P_4…60cm×45cm×76.5cm　P_5…31cm×24cm×44.5cm　P_6…26cm×22cm×79.0cm

P_7…47cm×29cm×21.0cm　P_8…34cm×31cm×19.0cm　P_{10}…21cm×11cm×26.5cm

P_{11}…18cm×24cm×22.0cm　P_{12}…31cm×11cm×24.0cm　P_{13}…21cm×19cm×11.0cm

柱穴間　P_1－P_2…2.8m　P_2－P_3…2.4m　P_3－P_4…5.6m　P_4－P_5…2.4m

P_5－P_6…2.7m　P_6－P_7…2.2m　P_1－P_7…3.4m

（遺物） 土師器2849点、塗彩10点、樽式25点、赤井戸式16点、須恵器４点、縄文５点、石器92点、臼玉158点、管玉１点、ガラス玉７点、紡錘車５点、総数3001点の遺物が出土。このうち、62個体図示した。

（備考） ６世紀初頭。

Ｈ－13号住居址（Ｆig. 26、ＰＬ．６・７）

（位置） Ｘ128～130－Ｙ61～62Ｇ **（形状）** 正方形 **（方位）** Ｎ－79°－Ｅ

（規模） 長軸4.7×短軸4.0m。確認面からの壁高61.3cm。**（面積）** 19.1m²

（覆土） Hr－ＦＰ、Hr－ＨＰ、ローム土の混入率の違いにより８層に大別できる。

（床面） ほぼ平坦で堅い。北東、西壁付近に焼土範囲あり。

（周溝） 幅14cm、深さ５cmで東壁を除きほぼ全周。

（竈址）東壁中央やや南に位置し、主軸方向はN－72°－Eで、全長133cm、幅89cmを測る。袖部に石を用い、粘土で補強。煙出し部に甕（No.105）を使用。土製支柱を使用。

（貯蔵穴）竈南隣から1個検出。P_5…64cm×57cm×42cmの方形。

（柱穴）南壁、北壁にそれぞれ1個、計2個を検出。

P_1…42cm×－cm×43.5cm　P_2…38cm×34cm×64.0cm

各柱穴間　P_1－P_2…4.6m

（遺物）土師器307点、樽式3点、赤井戸式2点、須恵器12点の総数324点の遺物が出土。このうち、17個体図示した。

（備考）6世紀後半。

H－14号住居址（Fig. 21、PL. 3）

（位置）X130－Y61～62G（形状）方形と推定される。（方位）N－65°－E

（規模）東西（3.9）×南北3.5m。確認面からの壁高13.7cm。（面積）（11.9）m²

（覆土）Hr－FP、As－Cの混入率の違いにより2層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦でやや堅い。炭化物・焼土が多数点在。柱穴、炉址、竈址は検出されなかった。

（貯蔵穴）南西から1個検出。P_1…63cm×58cm×15cmの方形。

（遺物）土師器141点、須恵器1点、鉄器1点の総数144点の遺物が出土。うち、8個体図示した。

（備考）5世紀末。東側は調査区域外のため調査できず。

H－15号住居址（Fig. 21、PL. 7）

（位置）X125－Y60G（形状）方形と推定される。（方位）N－88°－E

（規模）東西（1.7）×南北3.4m。確認面からの壁高17.8cm。（面積）（4.5）m²

（覆土）Hr－FP、As－C、ローム土の混入率の違いにより5層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦でやや堅い。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

（遺物）土師器22点が出土。

（備考）時期は不明。西側は調査区域外のため調査できず。

H－16号住居址（Fig. 27・28、PL. 7）

（位置）X126～127－Y57～59G（形状）正方形（方位）N－25°－W

（規模）長軸5.1×短軸5.0m。確認面からの壁高39.5cm。（面積）24.8m²

（覆土）Hr－FP、As－C、ローム土の混入率の違いにより10層に大別できる。

（床面）ほぼ平坦で堅い。竈址前に120cm×130cm×7.5cmのくぼみあり。

（周溝）幅15cm、深さ5cmで竈を除きほぼ全周。

（竈址）北壁中央やや東に位置し、主軸方向はN－23°－W、全長131cm、幅93cmを測る。構築

材に粘土を用いる。支柱に石を用いて、その上に土器を重ねる。

（貯蔵穴） 3個検出。　P_5…38cm×36cm×19.5cm　P_6…97cm×63cm×48.5cm

P_7…81cm×71cm×51.5cm

（柱穴） 4個を検出。　P_1…20cm×16cm×18.0cm　P_2…16cm×13cm×18.5cm

P_3…21cm×21cm×52.5cm　P_4…28cm×19cm×44.0cm

各柱穴間　P_1－P_2…1.9m　P_2－P_3…2.1m　P_3－P_4…2.1m　P_1－P_4…2.1m

（遺物） 土師器984点、樽式17点、赤井戸式3点、石田川式3点の総数1007点が出土。うち、17個体図示した。

（備考） 5世紀末。

(2)掘立柱建物

B－1号掘立柱建物（Fig. 32、PL. 8）

（位置） X126～128－Y66・67G **（形状）** 長方形 **（方位）** N－68°－W **（面積）** 12.9㎡

（規模） 長軸4.3×短軸3.0m **（遺物）** P_{10}から土師器1点が出土。**（備考）** 時代不明。

B－2号掘立柱建物（Fig. 33、PL. 8）

（位置） X129・130－Y64～66G **（形状）** 長方形 **（規模）** 長軸6.8×短軸2.5m **（方位）** N－20°－W **（面積）** 17㎡ **（遺物）** なし。**（備考）** 時代不明。

(3)柱穴　Tab. 7参照。54基を確認する。

(4)土坑　Tab. 8参照。31基を確認する。

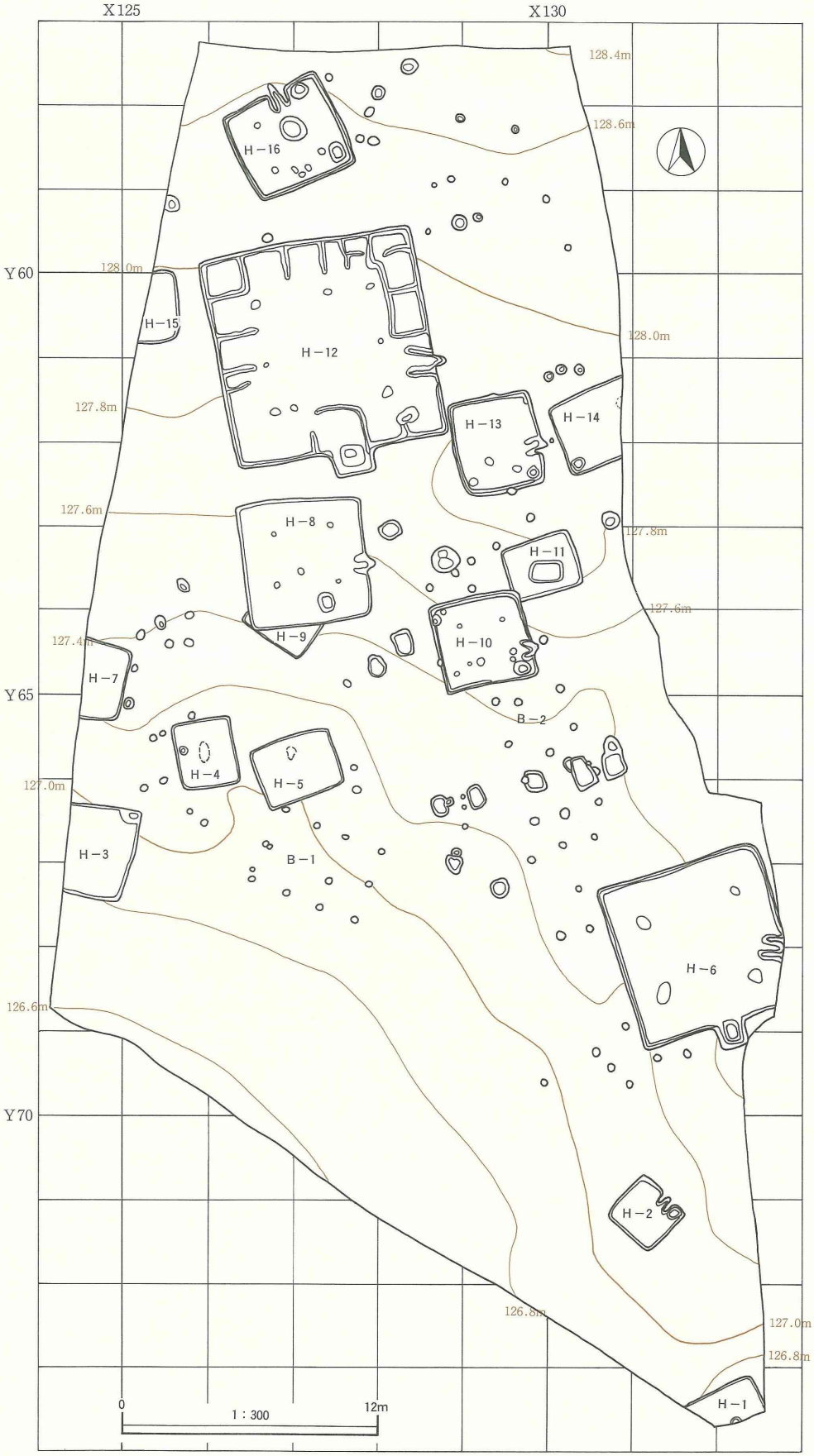

X125
X130
Y60
Y65
Y70
128.4m
128.6m
128.0m
128.0m
127.8m
127.8m
127.6m
127.6m
127.4m
127.0m
126.6m
126.8m
127.0m
126.8m
H－16
H－15
H－12
H－13
H－14
H－8
H－11
H－9
H－10
H－7
B－2
H－4
H－5
H－3
B－1
H－6
H－2
H－1
0
1：300
12m

Fig. 6　A区全体図

2　B区　管理事務所　（Fig. 7、PL. 8）

現地表面より、1mほど廃材、残土が堆積し、さらにその下40cmほど盛土が堆積。その下にソフトローム層が検出された。遺構存在面と思われる盛土直下のソフトローム面にはいくつかの土坑、溝址がプラン確認されたが、数個の土坑、溝址からプラスチック、ビニールが出てきた。また、ほかの土坑も同質の土で埋まっており、これらの土坑、溝址は後世のかく乱と判断した。その結果、B区は土坑1基の検出となった。（Tab. 9参照。）

3　C区　付替道路　（PL. 8）

C区は桂川に沿って南北に位置している。この地域は桂川の氾濫の影響を受けた地域で、現地表面から1～2mの盛土の下に50cmの厚さで川砂、その下に河原石という層序で、遺構が存在すると思われるソフトローム面は壊されていた。この状況はC調査区全域に広がっており、C区での遺構の確認、遺物の検出はなかった。

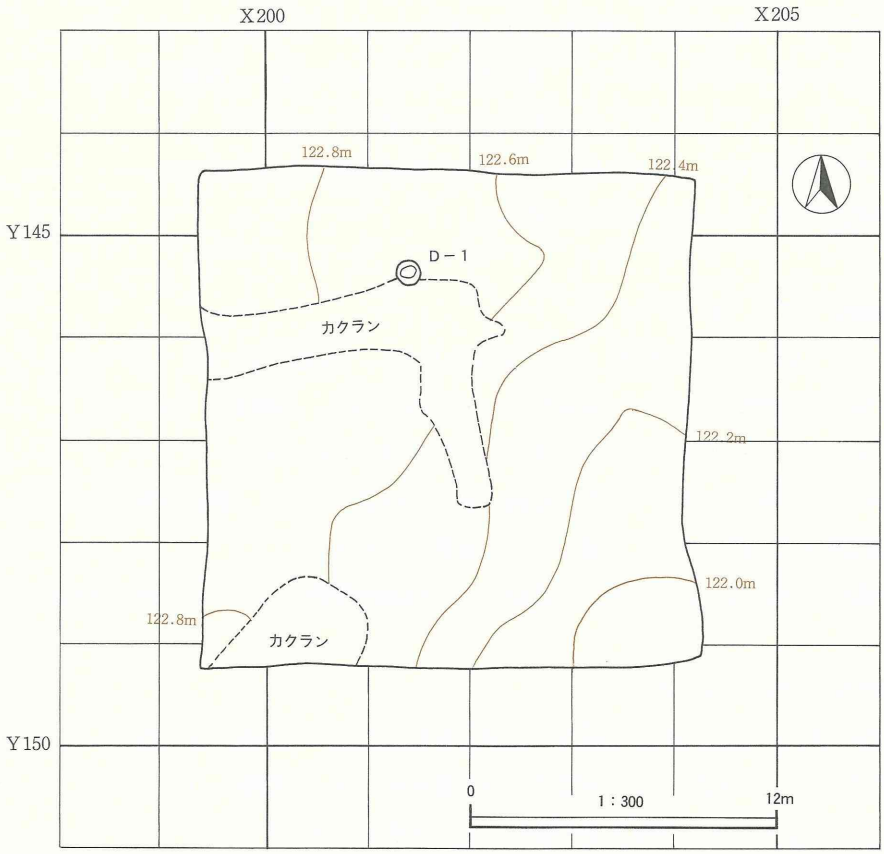


Fig. 7　B区全体図

4　D区　お祭り広場　（Fig. 8、PL. 9）

(1)住居址

H－1号住居址（Fig. 29、PL. 9）

（位置） X92～93－Y97～98G **（形状）** 方形と推定される。**（方位）** N－68°－E

（規模） 東西5.0×南北（4.8m）。確認面からの壁高58.8cm。**（面積）**（28.0）m²

（覆土） As－C、ローム土の混入率の違いにより8層に大別できる。

（床面） 堅く、凹凸がある。炭化物が点在。貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

（柱穴） 3個を検出。P_1…16cm×13cm×45.5cm　P_2…20cm×14cm×39.5cm

P_3…15cm×13cm×56.5cm

各柱穴間　P_1－P_2…2.8m　P_2－P_3…2.7m

（遺物） 土師器119点、樽式11点、赤井戸式1点の総数131点が出土。うち、4個体図示した。

（備考） 4世紀後半。北側は調査区域外のため調査できず。

H－2号住居址（Fig. 30、PL. 10）

（位置） X87～88－Y99～100G **（形状）** 方形と推定される。**（方位）** N－14°－E

（規模） 東西（1.9）×南北（3.2）m。確認面からの壁高24.0cm。**（面積）**（7.6）m²

（覆土） As－C、ローム土の混入率の違いにより2層に大別できる。

（床面） 平坦でやわらかい。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

（備考） 時期は不明。H－3号住居址と重複。

H－3号住居址（Fig. 30、PL. 10）

（位置） X88－Y99～100G **（形状）** 方形と推定される。**（方位）** N－12°－W

（規模） 長軸3.8×短軸（2.2）m。確認面からの壁高33.0cm。**（面積）**（14.7）m²

（覆土） As－C、ローム土の混入率の違いにより6層に大別できる。

（床面） ほぼ平坦で堅い。特に中央部が堅緻。柱穴、貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

（遺物） 土師器19点、樽式3点、紡錘車1点の総数23点が出土。

（備考） 時期は不明。H－2号住居址と重複。「内堀遺跡群Ⅷ」のH－6と同一住居址。

H－4号住居址（Fig. 30、PL. 10）

（位置） X88～89－Y102～103G **（形状）** 方形と推定される。**（方位）** N－79°－E

（規模） 東西（1.8）×南北3.7m。確認面からの壁高46.0cm。**（面積）**（16.9）m²

（覆土） As－C、ローム土の混入率の違いにより4層に大別できる。

（床面） ほぼ平坦で堅い。特に中央部が堅緻。貯蔵穴、炉址、竈址は検出されなかった。

（柱穴） 1個を検出。P_1…25cm×20cm×74.0cm

（遺物） 土師器6点が出土。

（備考） 時期は不明。西側は調査区域外のため調査できず。平成7年度「内堀遺跡群Ⅷ」で一部検出のH－1と同一住居址。

H－5号住居址（Fig. 31・32、PL. 10）

（位置） X87～89－Y106～108G（形状） 正方形（方位） N－77°－E

（規模） 長軸5.6×短軸5.4m。確認面からの壁高68.3cm。（面積） 68.8m²

（覆土） As－C、ローム土の混入率の違いにより7層に大別できる。

（床面） ほぼ平坦で堅い。南壁中央付近に特に堅緻な場所あり。

（周溝） 幅15cm、深さ6cmで南壁中央付近を除きほぼ全周。

（竈址） 東壁中央よりやや南に位置し、主軸方向はN－81°－E、全長141cm、幅120cmを測る。構築材に石を鳥居状に組み、粘土で補強。支柱には土器を用いている。

（貯蔵穴） 竈南隣から1個検出。P_5…74cm×61cm×93cmの方形。底に粘土塊あり。

（柱穴） 4個を検出。P_1…72cm×68cm×83.5cm　P_2…55cm×54cm×85.0cm

P_3…44cm×38cm×84.5cm　P_4…34cm×31cm×74.0cm

各柱穴間　P_1－P_2…2.5m　P_2－P_3…2.9m　P_3－P_4…2.5m　P_1－P_4…2.9m

（遺物） 土師器313点、赤井戸式3点、縄文1点の総数317点が出土。うち、7個体図示した。

（備考） 5世紀後半。

H－6号住居址（Fig. 29）

（位置） X88～89－Y109G（形状） 方形と推定される。（方位） N－71°－E

（規模） 長軸（2.4）×短軸2.3m。確認面からの壁高12.3cm。（面積） （11.1）m²

（覆土） As－C、ローム土の混入率の違いにより3層に大別できる。

（床面） 平坦でやわらかい。柱穴、貯蔵穴、竈址は検出されなかった。

（炉址） 中央部より60cm×52cm×5.0cmの地床炉を1カ所検出。

（備考） 時期は不明。東側は西側は調査区域外のため調査できず。

(2)土坑 Tab.10参照。31基を確認する。

（注） 炉址、貯蔵穴、柱穴、くぼみの数値は長径×短径×深さで表記。

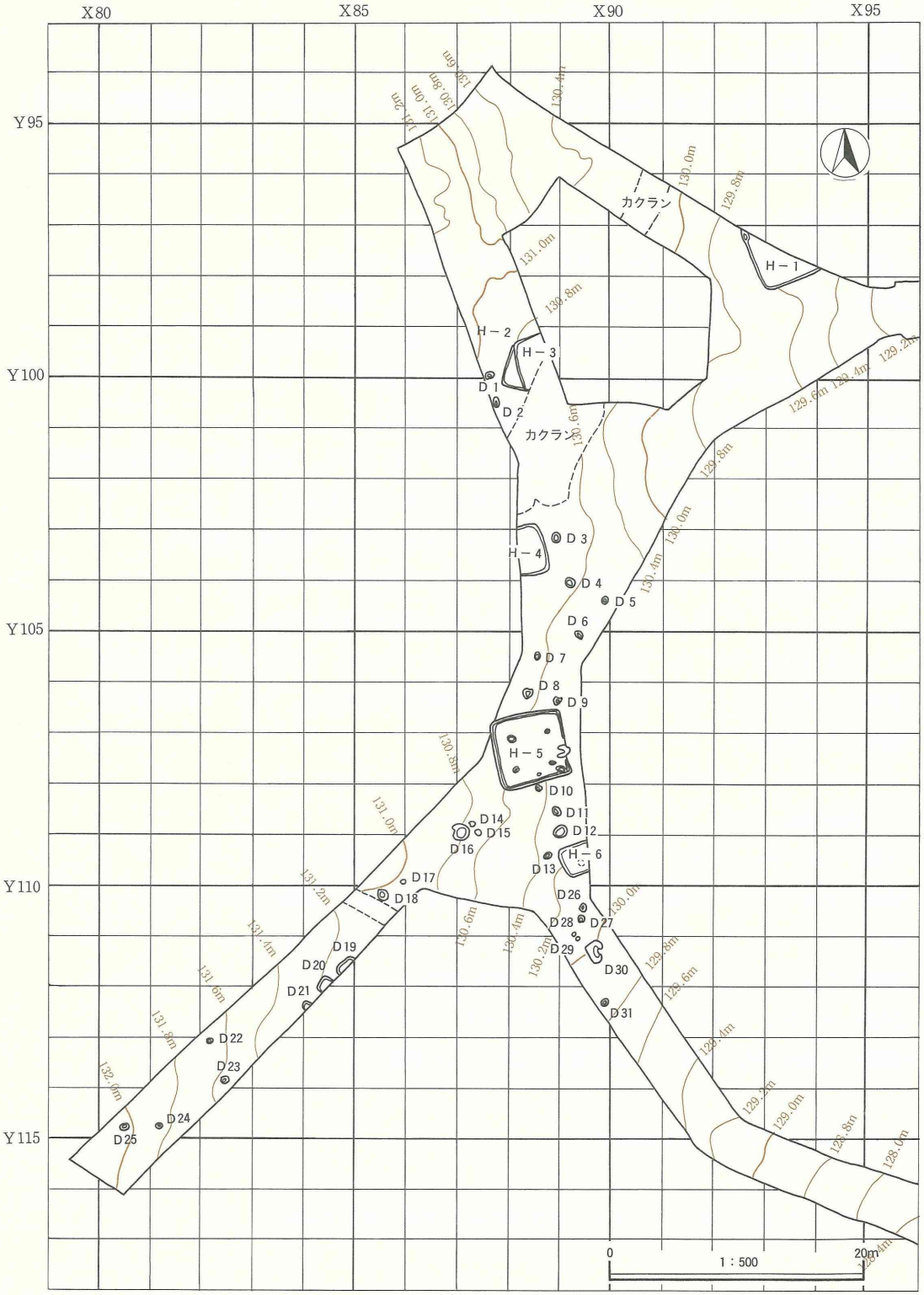

X80
X85
X90
X95
Y95
Y100
Y105
Y110
Y115
カクラン
カクラン
H－1
H－2
H－3
H－4
H－5
H－6
D1
D2
D3
D4
D5
D6
D7
D8
D9
D10
D11
D12
D13
D14
D15
D16
D17
D18
D19
D20
D21
D22
D23
D24
D25
D26
D27
D28
D29
D30
D31
130.4m
130.0m
129.8m
131.0m
130.8m
129.6m
129.4m
129.2m
130.6m
130.4m
130.0m
129.8m
130.8m
131.0m
131.2m
131.4m
131.6m
131.8m
132.0m
130.6m
130.4m
130.2m
130.0m
129.8m
129.6m
129.4m
129.2m
129.0m
128.8m
128.6m
128.4m
128.0m
0
1：500
20m

Fig. 8　D区全体図

Ⅳ　成果と問題点

今年度の調査はA～D区の調査を行い、おもな遺構が検出されたのは、A・D区だけだった。A区・さくら草の湿原からは、16軒、D区・お祭り広場からは6軒の住居址が検出された。その結果、A区の位置する下縄引Ⅱ遺跡全体の住居址は、古墳時代前期87軒、中期30軒、後期28軒、他35軒（平安時代2軒、時期不明17軒、確認調査のみ16軒）の計180軒となった。

（今回、下縄引Ⅱ遺跡全体の住居址を整理し、内堀遺跡群Ⅹまでの時代別住居数を変更した。）

中でもH－12号住居址は県内においても数少ない10m級の超大型住居址で、施設面においても張り出しピット、間仕切り溝を備えており、関心が寄せられた。そこで、成果と問題点ではH－12号住居址から得た資料をもとに、張り出しピットと住居の空間利用についてと、H－12号住居址の位置する下縄引6遺跡の集落について考察したいと思う。

2　H－12号住居址について

(1)張り出しピット

H－6・H－12号住居址において方形の張り出し部に貯蔵穴を伴う、いわゆる『張り出しピット』が検出された。内堀遺跡群内では初めての検出例ということもあり、群馬県内を中心に集成を行った。また比較的報告例の多い南関東の事例についても参考にした。

その分布としては、群馬県内では検出例は少ないものの、赤城南麓地域を中心にして、富岡周辺にも若干分布する。県外に目を向けると、東京都八王子市周辺、千葉県の東京湾側などに集中している。

張り出しピットのほとんどは一辺6mを越える大型の住居址南壁の中央に設置される点で共通するが、張り出し部の形状については異なる様相が見られたため、それについて分類を行った。

Ⅰ類…わずかに張り出すもの。（寺内5号住、熊野堂(2)145号住など）

Ⅱ類…方形の張り出しをもつもの。

a.馬蹄形状施設と入口ピットをもつもの。（内堀H－12、上ノ台2D－37など）

b.馬蹄形状施設をもつもの。（内匠2号住、東流通団地1－11－8など）

c.入口ピットをもつもの。（中田16号住、石川天野K－1、上ノ台2G－50、2K－57）

d.貯蔵穴のみのもの。（内堀H－6など）

Ⅲ類…張り出し部の角が取れ、貯蔵穴が丸く小さくなるもの。

a.隅丸方形・楕円形の張り出しをもつもの。（千原台118号住、榎作093号住など）

b.弧状の張り出しをもつもの。（堤上H－124、舟橋1号住など）

これらのⅠ～Ⅲ類には北関東と南関東で地域差が或るものの、時期的な変遷を追うことができ、

それぞれⅠ期～Ⅲ期に置き換えることができる。Ⅰ期は5世紀末から6世紀初頭、Ⅱ期は6世紀前半を中心に、Ⅲ期は6世紀後半から7世紀以降まで残る。すなわち張り出しピットの出現は竈の出現とほぼ時期を同じにしている。竈の出現期の住居内における貯蔵穴の位置はまだ竈の脇に固定されておらず、貯蔵穴が竈の対面などの壁の中央付近に設置される例も多い（荒砥北三木堂2区53号住など）。壁中央に設置される例は古墳時代中期以前からの系譜でとらえられよう。

張り出しピットの機能については、型式的に最も発達しているⅡ類について、貯蔵スペースとしての空間のほかに出入口と考えられる施設が付随される例が多い。その典型的な例として本遺跡のH－12号住居址が挙げられる。南壁の中央に方形の張り出し部が造られ、そこに貯蔵穴が設けられる。その前面には馬蹄形に粘土を張り、中央付近に楕円形の小ピットが斜めに穿たれる。また補助柱穴の位置も張り出し部の前面を避けるように位置する。これらのことから楕円形の小ピットに一本梯子を掛けた出入口が想定される。また、貯蔵穴の堆積や炭化物の出土状態から、住居埋没時まで貯蔵穴として存在し、その上はカヤで覆われていたと思われる。また張り出し部が形式化してしまっているⅢ類では、貯蔵穴を持たないものや小ピットのみの例も多く、出入口の機能のみが残っていったと思われる。

すべての張り出し部を出入口と想定することはできないが、竈が北に設置されても東に設置されても、張り出し部はほぼ南側にあることからその多くは出入口の可能性が考えられよう。また、梯子の下に貯蔵穴があることから、竈脇に設置される貯蔵穴とは別の目的で機能していたと想像できる。また張り出しが集落の拠点的な大型の住居にのみ設けられることが多いこともそれを示唆しているように思われる。単に床面積を拡張し貯蔵スペースを確保するために張り出し部を設けるのならば、むしろ小型の住居に張り出しが多く用いられるはずであるが、逆にスペースを広く使える大型の住居に設けられることがほとんどである。上屋の構造的な問題から大型の住居でしか造ることができなかった可能性が考えられよう。さらに言うと大型住居の出入口を装飾的・威厳的な意味で張り出させ、その空間を有効利用するために貯蔵穴を造ったものとも考えられる。

張り出しピットは竈出現期に出現した、大型住居に伴うことの多い施設であるが、類例がまだ多くなく、地域的な特徴としてとらえられるものなのか不明である。その機能についても出入口の施設である例が見られるものの、推定の域を出ないものが多い。類例の増加を待って、上屋の構造の問題を含めて検討する必要があろう。

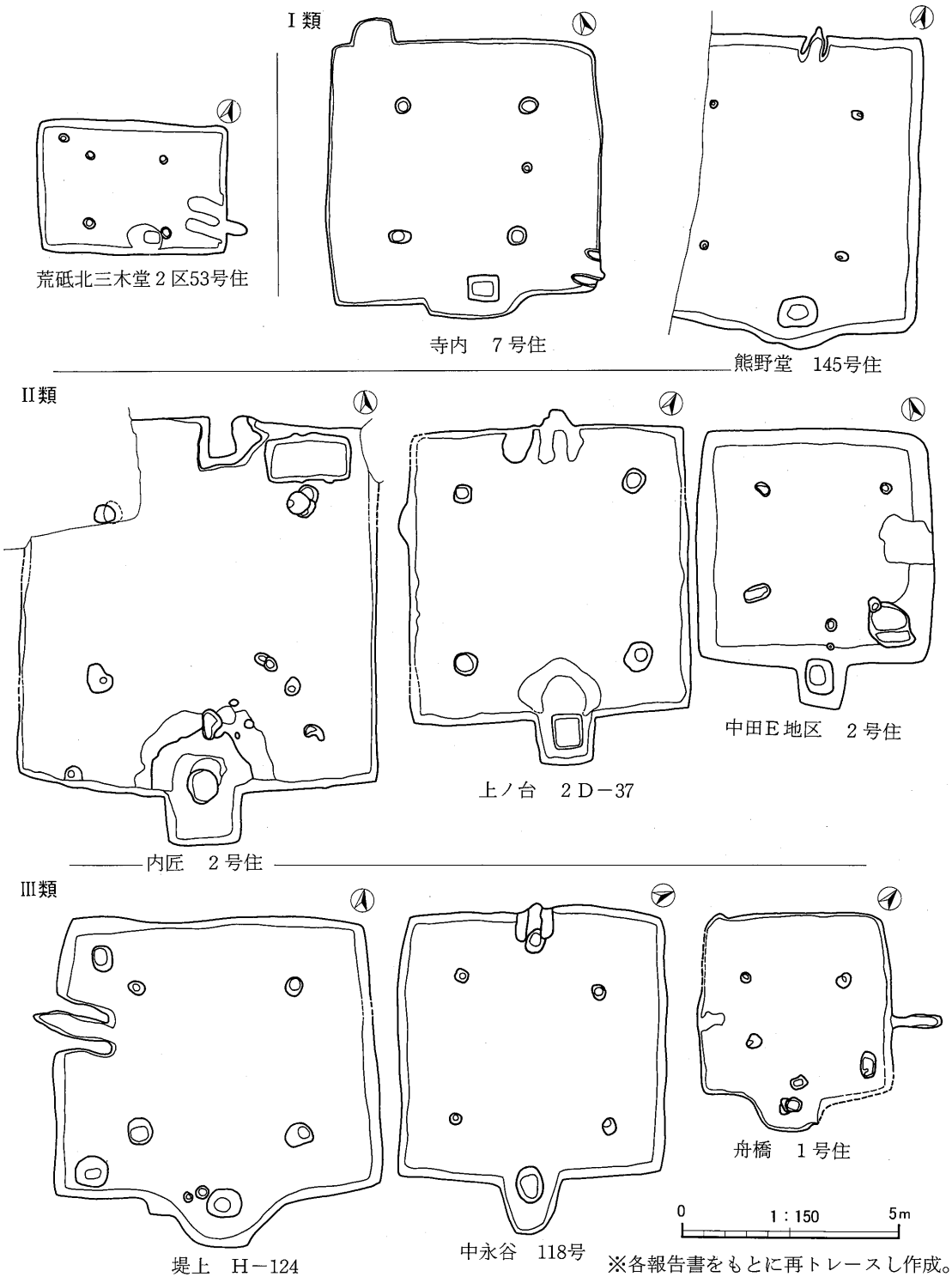


Fig. 9　張り出し住居址分類

(2)住居の空間利用

主柱の外側に東壁竈北から北壁、西壁中央までコの字状の範囲で壁から垂直方向に17本、壁と平行方向に３本の間仕切り溝が検出された。間仕切り溝は

①壁を構築し台座となる丸木材を埋める。

②丸太材を埋め、その上に床板を張る。

③寝床などの範囲を区画するために丸太材を埋める。

３つの利用方法が考えられ、一般的には③の方法が最も無理がないと思われている。しかし、Ｈ－12の場合、溝の間隔が短いところがあり、①、③の方法では面積が非常に狭い区画ができてしまう。したがって、②の方法で溝が使われていたと考えられる。そして、この間仕切り溝によって、住居内空間は機能的に分割されている。

南東コーナーは、入り口と竈に囲まれた空間で竈を中心とした厨房空間と考えられる。この空間の境である出入口東側、竈北側には柱穴が並んでいる。この柱穴は壁状の仕切りがあった可能性が強く、この仕切りによって厨房空間を独立した空間として形成できる。竈に直結した貯蔵穴は確認されなかったが、竈を中心に甕が多数出土している。

前述の間仕切り溝によって床板が張られたと考えられる空間は寝床等に利用していた居住空間と考えられる。この空間は基本的にはオープンスペースとなっているが、溝の延長上に柱が存在するところでは壁状の仕切りで空間をさらに分割していた可能性もある。溝は、主柱の外側を竈北側から、北壁、西壁中央やや南まで、南を向いてコの字状に存在する。南西の主柱までが床板範囲と考えられたが、①南西の主柱部分に溝がないこと、②西壁中央の溝が対面の東壁の竈北側の溝と一直線上になることから、西壁中央の溝までを範囲と考えた。その考えをもとにすると住居の中心から北半分を居住空間と位置付けることができる。出土遺物の多くは杯類だが、中には石製紡錘車や須恵器がある。石製紡錘車は６点住居内に点在しており、本住居内で機織関連の作業が行われていたと想定できる。北西コーナー部からは須恵器杯身１点が出土している。このコーナー部の主柱内側のピットを柱穴と仮定すると、北西コーナー部の目隠しになる間仕切りの存在も考えられ、須恵器を所有する有力者の空間が存在していたことも想像できる。しかしＨ－12全体の須恵器の出土は前述の杯身１個体と小破片１点のみと多くなく、下縄引の同時期の住居址における須恵器の出土数と変わりがないことに注意する必要があろう。

主柱の内側は間仕切り溝の有無だけでなく、床面の硬度からも違いが分かる。床面は同土質であるが、床板が張られていたと思われる主柱外側は軟らかく、主柱内側は踏み固められた徴堅な面となっており、この面は竈周辺、張り出し部周辺へ広がっている。このような状況はＨ－６，８号住居址でもみられ、Ｈ－12号住居址と同様な居住空間がつくられていた可能性がある。この空間からは地床炉も検出されている。照明、暖房機能をもっていたと考えられるが、居住空間と考えられる北側でなく、竈と出入口の前に位置する。機能的に考えれば、居住空間の中央に位置するのが効果的だが、あえて、南側につくり居住空間内に広いスペースを作っていることはこの

空間を共有の場として、前述したような機織関連の集団と想定した場合に作業等をするスペースとして利用していたことも考えられる。この空間からの出土遺物は少ないが、地床炉周辺から臼玉、管玉、ガラス小玉が出土しており、祭祀に関わる有力者の存在を想定させる。

最後に南西コーナー部の空間であるが、大きな特徴は見られない。古墳時代に入ると貯蔵物資の増大から貯蔵穴の複数化やコーナーでの貯蔵空間の成立が考えられ、この考えをもとにすれば、南西コーナー部を貯蔵空間と考えてもいいのではないか。

出入口と考えられる張り出し部については(1)で述べているのでここでは割愛する。

空間の分割は貯蔵物資の増大により貯蔵空間が成立し、炉から竈への機能分離により厨房空間の成立、そして、間仕切り溝の出現によりさらに明確になったと考えられている。そのような視点から本住居址を考察すると、間仕切り溝によって厨房空間が居住空間から分離され、北半分を居住空間、南半分を厨房・出入口・貯蔵空間として利用していたと考らえる。しかし、このように空間利用が顕著に表れている類例が少ないため、本住居址の空間利用も一住居址の想定例に過ぎず、この時代における空間利用の確立を述べるには至っていない。今後、このような住居内の空間利用の視点からより多くの類例を比較、検討する必要があるだろう。

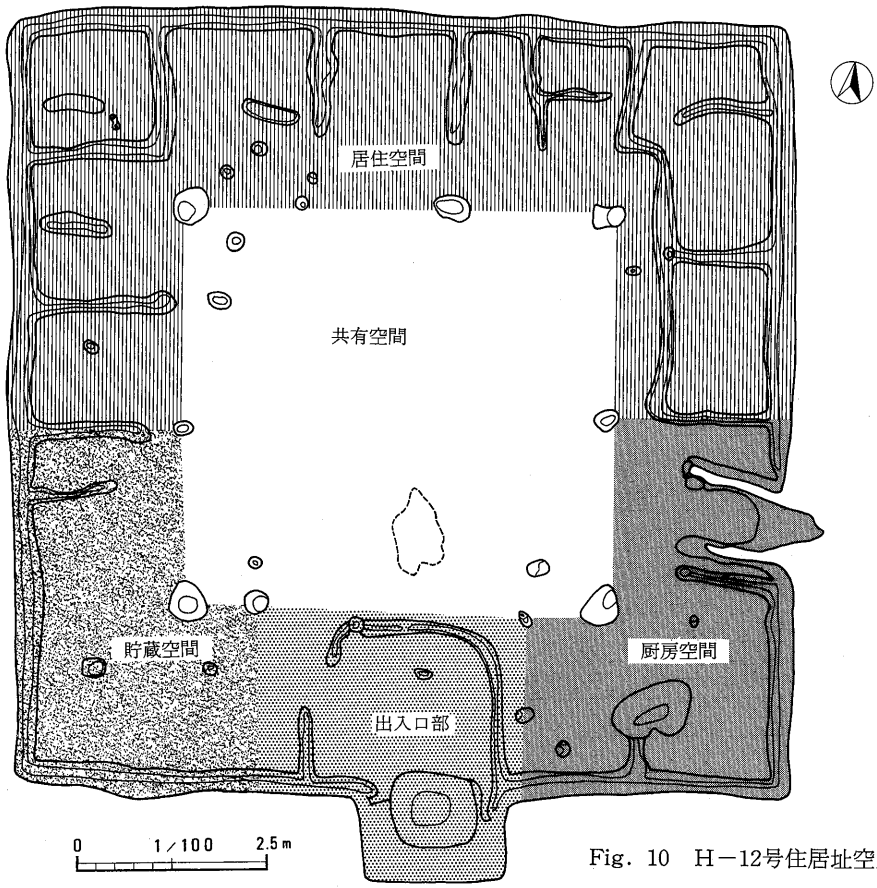


Fig. 10　H－12号住居址空間区割図

2　下縄引II遺跡の集落について

(1)分布

下縄引遺跡II内における平成10年度内までに調査された住居址は180軒に及んでいる。これらは残丘南東斜面に発見されており、それら住居の営まれた時期を出土遺物、火山噴出物との関係から整理すると、標高との関連が強くうかがわれた。すなわち、集落の区切りを中心に最も高い137mから五料沼のほとりの127m前後までの間を下表のとおり３つに分け、それを時期別に分けてみた。（時期不明のものは除いた）

Tab. 3　下縄引II遺跡住居址時期別表

世紀	時期	137～134m		134～130m		130m以下		合計	
4	中葉	11軒	57.8%	20軒	29.4%	1軒	1.8%	32軒	22.1%
	後葉	6軒	31.6%	32軒	47.0%	17軒	29.2%	55軒	37.9%
5	前半	2軒	10.6%	10軒	14.7%	6軒	10.3%	18軒	12.4%
	後半			1軒	1.5%	11軒	19.0%	12軒	8.3%
6	前半			4軒	5.9%	16軒	27.6%	20軒	13.8%
	後半			1軒	1.5%	7軒	12.1%	8軒	5.5%
合計		19軒	21.2%	68軒	43.6%	58軒	35.2%	145軒	

これで端的に指摘できる点は次の通りである。

ア．遺跡自体は４世紀の住居址を主体とした集落であるが、６世紀まで継続する。
イ．標高が下がるにしたがって時期の下る住居址が増加する。
ウ．各時期毎に大型住居址を伴い、特殊な施設、遺物が検出されている。

こうした傾向の背景には気象状況や地形変化が推定される。集落の拡大は南東方向に向かって低い方へ伸びる。これは、現在、大室公園の「風のわたる丘」の最も高い部分からしだいに南東方向の低標高のところに拡大する。この周辺は北西季節風が卓越しているからそれを避けての占地であろう。

もう一つの低地への移動は、現在、五料沼となっている部分が、小さい河流が流れ込む湿地であり、それが長い間の侵食によって湿地が流されて湿地周縁部がしだいに高燥化したものとみられる。そのため、古くは湿地だったところも、住居址が営める状況に変化したのではないだろうか。これを裏付けるように、五料沼西岸には中期以降の住居址が発見される。

こうした動きは、当時の生産活動と無縁ではなく、４世紀段階の弥生文化の系統を引くような不完全な稲作農耕から、完全な農業社会への発展が背景にあったことは想像に難しくない。

(2)集落構成

各時期毎の住居址数については表示したが、その内容を検討するとかなり特徴的な集落であるといえる。

ア．比較的早い時期から大型住居を伴い成熟した社会構成を見せる。
イ．大型住居は各時期ともバランスよく配置されている。
ウ．大型住居を中心に出土遺物の中に祭祀関連遺物や特殊遺物を含んでいる。

古墳時代前期の集落は石田川式土器を基底に弥生文化の系譜をひく樽式系、赤井戸系、一部外来系土器を含む複雑な様相を見せている。特に出土遺物の中の樽式系、赤井戸系土器に着目してみると、前者は規模、内容ともまとまりをみせているが、赤井戸系の住居址はばらつきが目立ち、遺物も複雑、多岐にわたる傾向が認められる。特に大型住居はこの両者が融合するやや後出の時期に出現し、住居施設、規模、出土遺物などから一層、社会分化進展の様相をみてとれる。

古墳時代後期の住居址は全体に少ないが、社会分化は一層進み、超大型住居址の出現、掘立柱建物の存在、集落内における区画の様相など集落の整備が認められる。調査が集落全体をカバーするまでに至っていないから全ぼうを把握するまでには至っていないが、大型住居、掘立柱建物を中心として集落が構成されていた様相をみてとることができる。

そこで、各時期における大型住居を摘出してみよう。

Tab. 4　下縄引II遺跡　時期別大型住居址

時期	住居番号	規模	出土遺物	特殊遺物	特殊施設
4C 後半	107	7.94×8.44 (67.0m²)	壺3、高杯2、鉢1	手捏2、紡錘車状1、砥石1	
4末～ 5初	49	8.27×9.50 (78.6m²)	甕3、小甕2、台付甕4、壺2、甑1 高杯7、器台4、鉢1、椀3、砥石1	特殊器台、土製品、土玉 手捏2 算盤玉	馬蹄状施設 階段状施設
5C 後半	140	8.30×8.38 (69.6m²)	甕3、椀1、砥石3	青銅製品	
6C 初	178	10.2×10.1 (103m²)	大甕2、甕9、小甕7、甑1、杯33 高杯4、器台2、坩1、大型杯2、須恵身1	ガラス小玉7、管玉1、臼玉159 紡錘車5、刀子片1	張出ピット 間仕切り溝

各時期の最大規模の住居を挙げたが、祭祀権と深くかかわった有力階層の存在を想定させる内容である。集落全体を統率するような階層の人物の存在が彷彿としてくる内容である。

大室古墳群に関しては、三つの大前方後円墳は別としても、M－1号墳のようなセカンダリークラスの墳墓が存在する。ところで、M－1号墳の副葬品中に鉄製鍊に関係する「鉄鉗」（カナハシ）がある。これは、おそらくこの古墳の被葬者が製鉄に関連した人物であり、強いていえば

製鉄集団の長であった可能性を秘めている。これに従えば、178号住居の住人もこうした職業集団の長クラスの人物を想定させる。紡錘車に結びつけて考えれば機織技術集団の長であったかもしれない。ならば、この住居は「梅木遺跡の居館」に次ぐランクの有力者の居宅の可能性もある。

4世紀から6世紀にかけての大型住居の継続的な存在は、この周辺のみを対象にした見方ではなく、多田山周辺まで含めた遺構を統合的に検討する中で考える必要があるかもしれない。4世紀の墓域は上縄引遺跡にあるし、5世紀代の赤堀茶臼山古墳とその周辺の遺跡、6世紀代の大室3古墳との関連等、多くの問題を内包した遺跡として、この集落のもつ意味をより強固なものとしている。

参　考　文　献

桑原　昭・園部守央　1988　『内堀遺跡群』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

園部守央・加部二生　1989　『内堀遺跡群II』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

園部守央・鈴木雅浩　1990　『内堀遺跡群III』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前原　豊・伊藤　良　1991　『内堀遺跡群IV』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

伊藤　良・前原　豊・戸所慎策　1993　『内堀遺跡群V』　前橋市教育委員会

関口　孝・前原　豊・戸所慎策　1994　『内堀遺跡群VI』　前橋市教育委員会

前原　豊・戸所慎策　1995　『内堀遺跡群VII』　前橋市教育委員会

前原　豊・新井真典　1996　『内堀遺跡群VIII』　前橋市教育委員会

前原　豊・宮内　毅　1997　『内堀遺跡群IX』　前橋市教育委員会

戸所慎策・安立　聡　1998　『内堀遺跡群X』　前橋市教育委員会

柿沼幹夫　1879　「住居跡について」　『下田・諏訪』埼玉県遺跡発掘調査報告書第21集　埼玉県教育委員会

黒沢はるみ　1992　「弧状の張り出しを持つ住居について」『上野国分僧寺・尼寺中間地域(7)』　(財)群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団

笹森健一　1991　「竪穴住居の使い方」『古墳時代の研究』2　雄山閣

高橋一夫　1983　「集落分析の一視点－入り口と集落の道－」　『埼玉考古』第21集　埼玉考古学会

渡辺修一　1985　「古墳時代竪穴住居の構造的変遷と居住空間」『研究連絡誌』第11集　千葉県文化財センター

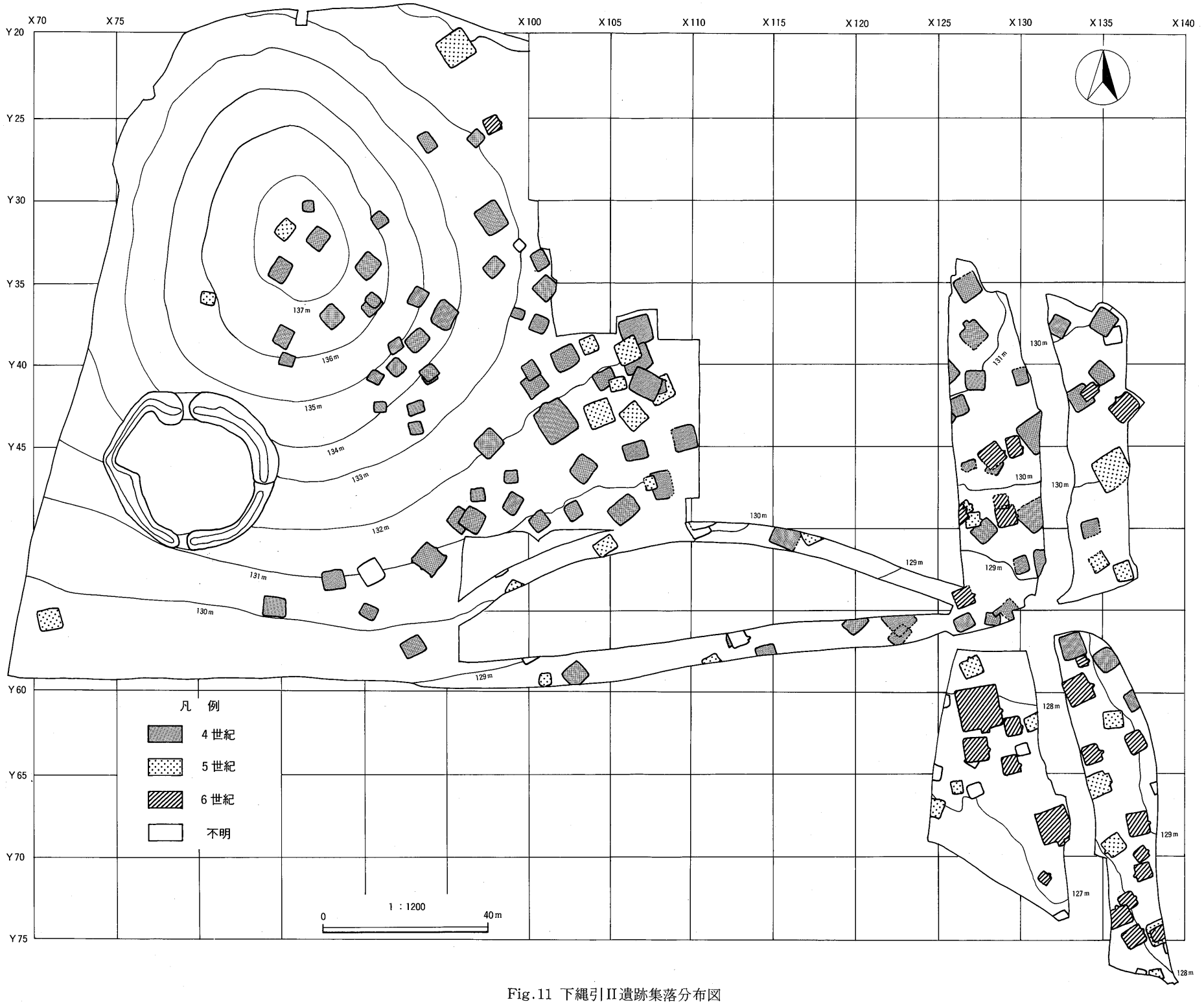


Fig.11 下縄引II遺跡集落分布図

Tab. 5　張り出し部をもつ住居址一覧表

遺跡名	住居址番号	規模（m）	竈	張り出し部				備考
				位置	形状	規模(cm)	ピット	
伊勢崎・東	1－8－6	3.2× 3.1	北	南	半円		なし	入口ピット
伊勢崎・東	1－8－52	5.5× 5.7	北	南	方形		隋円	
伊勢崎・東	1－11－5	6.5× 6.6	北	南	方形		方形	
伊勢崎・東	1－11－8	5.0× 5.4	東	南	方形		不定形	
伊勢崎・東	1－20－1	5.2× 4.8	北	南	方形		方形	
伊勢崎・東	1－20－3	6.8× 7.4	東	南	方形	150×150	方形	
伊勢崎・東	2－4－2	5.3× 5.2	東	北	方形		なし	
伊勢崎・東	2－7－6	5.8× 5.8	北	南	方形		なし	
伊勢崎・東	2－12－46	5.8× 5.7	東	南	方形	90×110	方形	
伊勢崎・東	2－14－2	6.1× 5.9	北	南	方形		方形	
伊勢崎・東	2－23－5	7.2× 7.3	北	南	方形		方形	
伊勢崎・東	2－23－67	4.9× 3.1	北	東	方形		なし	
新田町・西田	H－2	4.9× 4.9	北	南	台形	200× 50	円	
新田町・西田	H－9	3.0× 3.9	東	南	方形	220×100	円	
赤城村・寺内	H－7	6.8× 6.4	東	南	弧状	270× 48	方形	
赤城村・寺内	H－10	4.8× －	東	南	方形	100× 80	方形	
前橋・荒砥三木堂	2区H－16	9.3× 8.4	東	南	弧状		なし	馬蹄形状施設
群馬町・井出村東	H－39	5.4× 5.3	東	北	方形		なし	
渋川・有馬条里II	H－43	6.9× 7.2	東	南	方形	240×120	なし	
群馬町・堤上	H－124	6.4× 7.6	西	南	弧状		円	
群馬町・三ッ寺III	H－87	4.4× 5.0	東	南	弧状	200× 80	なし	
群馬町・保渡田	H－1	6.0× 7.0	東	南	台形	230×100	なし	
高崎・熊野堂2	H－145	5.6× 6.9	北	南	弧状		方形	
高崎・舟橋	4区H－1	4.3× 4.2	西	南	台形		なし	
富岡・内匠	H－2	8.3× 8.7	北	南	方形	180×120	円	馬蹄形状施設
富岡・本宿・郷土	MT－92	5.6× 5.7	東	南	方形	90× 80	隋円	
八王子・中田	E区H－2	5.3× 5.3	東	南	方形	112×100	方形	入口ピット
八王子・中田	E区H－4	8.5× 8.5	北	南	方形	140×150	方形	
八王子・中田	E区H－8	9.2× 9.1	北	南	方形	190×105	方形	
八王子・中田	E区H－11	11.5×11.7	西	東	方形	178× 80	方形	入口ピット
八王子・中田	E区H－16	8.7× 8.4	北	南	方形		方形	
八王子・中田	E区H－19	9.4× 9.4	北	南	方形	125× 80	方形	
八王子・中田	E区H－20	9.2× 9.1	北	南	方形	165×125	方形	入口ピット
八王子・石川天野	K－1	6.6× 6.6	北	南	方形		方形	
八王子・石川天野3	3T－78	5.0× 5.0	北	南	方形	100× 60	方形	
八王子・石川天野3	3X－62	6.5× 6.5	北	南	方形	150×136	隋円	
八王子・石川天野3	3Z－73	6.0× 6.0	北	南	不定形		不定形	
八王子・石川天野3	4C－64	5.3× 5.5	北	南	方形	106× 70	方形	
八王子・石川天野3	4C－73	6.7× 6.2	北	南	方形	60×110	不定形	
東京・三吉野	SI02	6.7× 6.3	北	南	方形	180×130	隋円	
東京・三吉野	SI09	6.5× 6.7	北	南	台形	220×100	隋円	
東京・三吉野	SI10	8.4× 8.5	北	南	隋円	140×170	隋円	
東京・三吉野	SI30	8.0× 8.0	北	南	方形	170×130	方形	
千葉・榎作	005F	8.1× 8.1	北	南	方形	120×100	方形	入口ピット
千葉・榎作	037H	6.9× 6.7	北	南	方形	150×100	方形	入口ピット
千葉・榎作	044A	8.6× 8.4	北	南	方形	210×120	なし	入口ピット
千葉・榎作	093	9.4× 9.1	北	南	方形	180×120	方形	入口ピット

遺　跡　名	住居址番号	規模（ｍ）	竈	張り出し部				備　考
				位置	形状	規模(cm)	ピット	
千葉・榎作	１２０	6.9× 6.6	北	南	方形	100× 40	方形	
千葉・榎作	１２８	6.5× 6.4	北	南	方形	90× 60	方形	
千葉・榎作	１３１	6.7× 6.5	北	南	方形		方形	
千葉・中永谷	Ｈ－21	7.2× 7.2	北	南	方形	150× 70	円	入口ピット
千葉・中永谷	Ｈ－48	6.3× 6.5	北	南	不定形		方形	馬蹄形状施設・入口ピット
千葉・中永谷	Ｈ－57	6.4× 6.6	北	南	方形	160×130	方形	
千葉・中永谷	Ｈ－61	6.9× 6.3	北	南	半円	160×110	隋円	
千葉・中永谷	Ｈ－83	5.8× 5.7	東	南	隋円	120× 80	円	
千葉・中永谷	Ｈ－88	7.7× 8.0	北	南	方形	180× 70	円	
千葉・中永谷	Ｈ－89	7.5× 7.5	北	南	方形	120× 90	方形	
千葉・中永谷	Ｈ－109	6.6× 6.8	北	南	方形	120× 70	円	
千葉・中永谷	Ｈ－118	6.1× 6.2	北	南	隋円	150×110	円	
千葉・上ノ台	２Ｄ－37	6.4× 6.2	北	南	方形	123×124	方形	馬蹄形状施設・入口ピット
千葉・上ノ台	２Ｄ－52	5.8× 5.8	北	南	方形	125×123	隋円	馬蹄形状施設
千葉・上ノ台	２Ｇ－50	5.8× 5.9	北	南	方形	150×140	方形	入口ピット
千葉・上ノ台	２Ｈ－62	6.1× 6.3	北	東	隋円	130×120	方形	馬蹄形状施設・入口ピット
千葉・上ノ台	２Ｋ－57	9.7× 9.8	北	南	方形	117× 90	方形	
千葉・上ノ台	２Ｍ－65a	4.8× 4.9	北	南	弧状	75× 83	円	
栃木・西山	ＳＩ－１	9.2× 9.2	北	南	方形	160×200	方形	

参考文献

1982　『伊勢崎・東流通団地遺跡』　群馬県企業局

1988　『西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡発掘調査報告書』　東京電力株式会社

1975　『寺内遺跡』　赤城村教育委員会

1991　『荒砥北三木堂遺跡5』　群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団

1883　『井出村東遺跡』　群馬町井出村東遺跡調査会

1994　『有馬条里遺跡Ⅱ』　群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団

1994　『堤上遺跡』　群馬町教育委員会

1985　『三ッ寺Ⅲ遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚古墳』　群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団

1990　『熊野堂遺跡(2)』　群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団

1989　『舟橋遺跡』　群馬県埋蔵文化財発掘調査事業団

1982　『内匠遺跡』　富岡市教育委員会

1981　『本宿・郷土遺跡発掘調査報告書』　富岡市教育委員会

1997　『石川天野遺跡』　八王子市石川天野遺跡発掘調査団

1981　『東京・石川天野遺跡３次調査』　駒澤大学考古学研究室

1998　『三吉野遺跡－１－』　東京都埋蔵文化財センター

1992　『千葉市榎作遺跡－千葉急行線内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ』　千葉県文化財センター

1991　『千原台ニュータウンⅣ　中永谷遺跡』　千葉文化財センター

1982　『千葉・上ノ台遺跡』　千葉市教育委員会

1998　『西山遺跡』　栃木県文化振興事業団

Tab. 6　下縄引II遺跡住居址一覧表

号数	規模 東西×南北(m)深さ(cm)	主軸方向	竈、炉 位置・規模(cm)・素材	出土遺物	施設	時期	報告書住居番号
1	3.65×3.60　65	N－74°－W	炉址 64×52×7	甕(赤井戸5,樽3,他5)、台付甕(赤井戸1,樽1)、高杯3、器台1、打斧1		4C中	II 1
2	4.53×4.50　12	N－85°－W	不明	小破片		4C後	II 2
3	5.60×4.84　70	N－78°－E	炉址 92×52×10	甕(赤井戸1,樽2,十王台2)、小甕2、甑1、器台1、鉢2、手捏1		4C後	II 3
4	4.00×2.80　28	N－56°－E	炉址 54×52×15	甕(赤井戸1,樽1)、器台1		4C後	II 4
5	3.40×3.05　60	N－80°－E	なし	甕(樽2)、台付甕2、高杯1、打斧1	ベッド状遺構(南壁)	4C中	II 5
6	4.10×3.20　30	N－65°－E	炉址 64×55×9	甕1、高杯1		4C後	II 6
7	4.00×4.00　30	N－49°－W	炉址 90×80×14	甕(樽1)、高杯1、礫器2、打斧1、スクレイパー4		4C中	II 7
8	3.58×3.52　20	N－59°－E	不明	甕(樽2,他1)		不明	II 8
9	3.15×2.70　45	N－88°－E	なし	甕(赤井戸1,樽1,他2)		4C中	II 9
10	3.10×3.16　15	N－27°－E	炉址 40×36×5			4C中	II10
11	7.40×8.04　84	N－46°－E	炉址 59×42×6	器台1		4C中	II11
12	4.00×3.18　30	N－67°－W	炉址 88×70×17	甕(樽1,赤井戸＋樽1,十王台2)、甑1、スクレイパー1		4C後	II12
13	5.50×5.55　80	N－35°－W	炉址 80×44×8　炉縁石	高杯1、打斧1	ベッド状遺構(南西隅)	不明	II13
14	5.40×4.40　75	N－61°－E	炉址 56×36×7	甕(樽1,他1)、甕壺1		4C後	II14
15	6.75×5.82　80	N－38°－E	炉址 F1 60×50×6 F2 60×44×6	甕(赤井戸2,樽5,天王山1,月影1)、台付甕(樽1)、高杯3、勾玉1 紡錘車(断面台形・石1,断面矩形・土2)		4C中	II15
16	5.84×5.82　65	N－61°－W	炉址 64×64×16 土器転用の炉縁石	甕(赤井戸1,樽1,他1)、高杯1、勾玉1、石鏃1、スクレイパー1		4C中	II16
17	5.43×5.13　45	N－50°－W	炉址 90×65×14	甕(樽2)、台付甕(赤井戸1)、紡錘車1		4C中	II17
18	4.22×5.07　70	N－30°－E	不明	甕(樽1)、高杯1		4C後	III13
19	5.50×5.16　8	N－86°－E	不明	高杯1		5C後	II19
20	3.74×3.48　32	N－30°－W	炉址 40×50×9	甕3、高杯1、器台1		4C中	II 1
21	5.00×4.90　65	N－40°－W	炉址 48×21×4 炉縁石	台付甕1、甕1、坩1、杯1		4C中	II 2
22	4.11×4.20　19	N－25°－E	炉址 58×43×9	甕3、台付甕1、坩1、器台1		4C中	III 3
23	3.15×2.65　17	N－25°－E	なし			4C後	III 4
24	6.08×7.12　93	N－35°－E	炉址 75×34×5	甕(樽1,他8)、台付甕(赤井戸1,石田川4)、壺(赤井戸1,他1)、高杯3 器台1、敲1	馬蹄形状施設(南壁)	4C中	III 5
25	4.62×3.72　75	N－35°－E	炉址 67×45×6	甕(赤井戸1,他4)、椀1	馬蹄形状施設(東壁) ベッド状遺構(南側)	4C中	III 6
26	6.03×5.83　81	N－35°－E	炉址 90×54×10	甕(赤井戸2,樽1,他1)、台付甕2、高杯7、器台2	ベッド状遺構(北側)	4C中	III 7
27	5.93×4.30　35	N－44°－E	炉址 80×56×7	甕(赤井戸1,他1)、壺(赤井戸1)		4C中	III 8
28	3.35×3.21　58	N－44°－E	炉址 50×38×4		馬蹄形状施設(西壁)	4C中	III 9
29	4.90×5.49　80	N－40°－E	炉址 72×57×6 炉縁石	甕(樽1,他2)、高杯1、紡錘車3		4C中	III10
30	3.57×3.56　58	N－40°－W	炉址 65×53×7 土器片	甕(樽3)、壺2、甑2、高杯1、器台1、椀1、片口土器1		4C中	III11
31	5.03×4.75　76	N－40°－E	炉址 87×56×9	小甕(赤井戸1,他2)、高杯2		4C中	III12
32	4.67×3.63　26	N－30°－E	炉址 78×70×10	甕(赤井戸1,樽1,樽＋月影1)、紡錘車1		4C後	III14
33	4.69×3.58　52	N－44°－E	不明	甕(赤井戸1,他1)		4C中	III15
34	2.61×2.39　26	N－44°－E	なし			不明	III16
35	4.58×5.30　80	N－35°－E	炉址 60×44×6 炉縁石	壺(樽1,他1)、高杯(樽1,他1)、器台2、椀1、紡錘車1、砥石1	ベッド状遺構(北,南隅) 馬蹄形状施設(南東壁)	4C後	IV35
36	4.04×4.86　63	N－38°－E	炉址 77×49×2 土器片2、石1	椀2	馬蹄形状施設(南東壁)	5C前	IV36
37	4.60×5.37　77	N－29°－E	炉址 61×54×8 土器片	壺(赤井戸1)、高杯2	馬蹄形状施設(南東壁)	4C後	IV37
38	3.75×3.08　68	N－81°－W	炉址 F1 68×34×9 炉縁石 F2 46×38	小壺1	馬蹄形状施設(南東壁)	5C前	IV38
39	7.84×8.06　43	N－57°－E	炉址 60×57×8 炉体土器	台付甕1、小甕2、壺1、高杯(赤井戸1,他1)、器台1		5C前	IV39
40	3.06×5.10　18	N－34°－W	炉址 53×48	甕(樽1)、小鉢1		4C後	IV40
41	欠番						
42	3.42×3.47　46	N－46°－E	なし	壺1、土製円盤1		4C後	IV42
43	3.76×3.71　58	N－25°－W	竈址 東壁中央 長141 幅115 粘土	大甕1、模倣杯2、須恵蓋1(MT15)		6C前	IV43
44	3.85×4.27　26	N－23°－W	炉址 F1 98×76　　F2 44×28	甑1、器台1		4C中	IV44
45	5.28×5.89　29	N－37°－E	炉址 F1 130×99×6 F2 81×40	甕(赤井戸4,樽1,他1)、台付甕(樽1,他1)、壺(赤井戸1,赤井戸＋樽1) 高杯3、土製円盤1、紡錘車1		4C中	IV45
46	4.49×4.27　77	N－48°－E	炉址 F1 72×41×3 炉縁石 F2 86×39×4	甕(赤井戸1)、台付甕(樽1,他1)、小甕(樽1)、壺(樽1)、高杯3 滑石製管玉1、住居の周囲から滑石製管玉1、敲石1	馬蹄形状施設(西壁)	4C中	IV46

号数	規模 東西×南北(m)深さ(m)	主軸方向	竈、炉 位置・規模(cm)・素材	出土遺物	施設	時期	報告書 出土番号
47	3.80×4.88 72	N−31°−E	炉址 F1 82×51×5 F2 39×34×6 炉縁石 F3 76×62	甕(樽3,赤井戸2)、台付甕2、大甕1、小甕1、壺(樽1)、高杯12、器台2 椀2、鉄鏃1	馬蹄形状施設(南東壁)	4 C中	Ⅳ47
48	3.38×3.38 9	N− 2°−W	炉址 75×39	甕(赤井戸1)、手捏1		4 C後	Ⅳ48
49	8.27×9.50 11	N−34°−W	炉址 F1 100×75×8 F2 88×84×8	甕(赤井戸1,樽1,他1)、台付甕4、大甕1、小甕2、甑1、高杯7、小鉢1、椀3 壺(外来系1,他1)、器台4、特殊器台4、土師質椀1、手捏2、土製品1 算盤玉状土製品1、匙形土製品1、土製円盤1、鉄器2、砥石1、凹石1	馬蹄形状施設(南東壁) 階段状施設(北西壁)	4 C後	Ⅳ49
50	3.77×3.43 55	N−82°−E	炉址 73×67×5	甕(赤井戸3,樽3,東関東系1)、台付甕(樽1,他1)、片口付小甕1 壺1、小壺1、高杯5、器台1、大鉢1、鉄器1		4 C後	Ⅳ50
51	6.28×6.12 16	N−68°−E	炉址 F1 43×31 F2 98×60 F3 42×33	台付壺1、甑1、椀1		5 C前	Ⅳ51
52	4.22×3.83 13	N−71°−E	炉址 F1 76×61 F2 70×53 F3 63×48	甕1、高杯2		5 C前	Ⅳ52
53	6.04×5.33 69	N−66°−E	炉址 57×38×6	台付甕(樽1,他1)、小S字台甕1、壺4、坩3、器台1、小土器1、手捏2、鉄器1		4 C後	Ⅳ53
54	3.56×4.25 30	N−30°−W	炉址 56×37×4	甕1、S字台甕3、坩1		4 C後	Ⅳ54
55	欠番						
56	5.17×4.88 11	N−56°−E	炉址 136×83	S字台甕1、壺(樽1)、高杯1、器台(欠山式に類似1)		4 C後	Ⅳ56
57	5.66×6.04 30	N−56°−E	炉址 F1 103×94×7 F2 92×64 F3 53×53	小甕(赤井戸1)、壺(樽1)、高杯1、手捏1		4 C中	Ⅳ57
58	2.87×2.58 14	N−83°−E	炉址 39×30			4 C後	Ⅳ58
59	6.80×5.18 87	N−50°−E	炉址 F1 68×38×6 F2 101×52×6 土器片 F3 33×19	甕(樽1,赤井戸1)、台付甕1、大甕(樽1)、高杯3、小鉢1、手捏2、土製品1 紡錘車1、鉄器1	馬蹄形状施設(南東壁) ベッド状遺構(北,東隅)	4 C中	Ⅳ59
60	6.40×(2.20) 55	N−17°−W	不明	片口鉢1		不明	Ⅵ42
61	〔5.93〕×6.82 44	N−16°−W	炉址 F1 120×86×8 F2 76×62×6 F3 80×59 F4 132×92×7 F5 132×92 F6 15×11 F7 38×23	甕(樽1,赤井戸1)、壺(樽1)、紡錘車1、鉄器1、砥石1		4 C中	Ⅳ61
62	6.74×5.80 30	N−75°−E	炉址 F1 127×115×6 F2 103×55 F3 70×49 F4 57×23	甕2、台付甕(赤井戸1,他1)、小台付甕1、S字台甕1、壺(南関東系1,他1) 高杯1、椀1、小形土器2	馬蹄形状施設(南壁)	4 C後	Ⅳ62
63	5.37×5.43 43	N−42°−E	炉址 71×43×8 炉縁石	甕1、高杯1、砥石1	類ベッド状遺構2 (北西、南東壁)	5 C前	Ⅳ63
64	7.20×6.47 66	N−68°−W	炉址 99×66×10 炉体土器	台付甕2、S字台甕2、壺2、坩1、高杯2、器台2、蓋1、土製品1		4 C後	Ⅳ64
65	4.02×3.21 34	N−74°−E	炉址 45×31	甕3、甑1、坩4、高杯5、砥石1		5 C前	Ⅳ65
66	5.62×5.45 68	N−64°−W	炉址 46×38	小甕1、坩2、鉄器、敲石1	馬蹄形状施設(東隅)	5 C前	Ⅳ66
	67〜81は確認調査のみ						
82	5.04×4.25 80	N−61°−E	炉址 61×42×6 2個の炉縁石	甕(赤井戸2,他3)、台付甕(赤井戸1,他4)、S字台甕1、小甕1、壺2、小壺1 高杯4、器台1、手捏1、鉄器1、敲石1、勾玉1	横穴貯蔵穴 馬蹄形状施設(南隅)	4 C中	Ⅳ82
83	2.80×2.96 30	N−16°−W	炉址 42×32	高杯1、敲石1		5 C前	Ⅳ83
84	6.29×5.81 81	N−61°−E	炉址 F1 73×44×7 炉縁石 F2 31×22	甕(樽1,赤井戸1,他1)、台付甕2、小甕1、甑1、壺1、高杯1、砥石1		5 C前	Ⅳ84
85	7.10×6.26 42	N−67°−E	不明	甕1、台付甕3、壺3、高杯1、器台2、手捏1	馬蹄形状施設(南壁)	4 C後	Ⅳ85
86	7.67×6.62 73	N−74°−E	不明	甕(赤井戸1)、台付甕2		4 C後	Ⅳ86
87	確認調査のみ						
88	5.98×(5.12) 42	N−68°−E	竈址 東壁中央南寄り 長116 幅104 石と粘土	甕1、杯1、須恵杯3、敲石1		平安	Ⅵ28
89	4.01×3.13 54	N−77°−E	不明			4 C中	Ⅳ89
90	5.77×4.47 26	N−75°−E	炉址 F1 109×104×12 F2 75×52×3 F3 43×40	甕(赤井戸1)、鉄器1	馬蹄形状施設(南壁)	4 C後	Ⅳ90
91	(2.52)×(1.75) 18	N−32°−E	炉址 45×20			不明	Ⅳ91
92	5.56×5.76 92	N−29°−W	炉址 F1 74×26×5 F2 34×18 F3 22×22 F4 24×21 F5 54×36×1	甕(樽4,十王台1,月影1,他1)、小甕1、壺(樽1,他1)、小壺1、高杯1 器台1、特殊器台1、蓋1、紡錘車1、土玉1	横穴貯蔵穴 ベッド状遺構(北東隅)	4 C後	Ⅵ 1
93	5.66×6.58 68	N−41°−W	炉址 F1 104×62×10 中央に炉縁石 F2 44×44 F3 70×23×5	甕(樽1)、高杯(赤井戸1,他1)、椀1、磨製石鏃1	階段状施設(北西壁) 横穴貯蔵穴	4 C中	Ⅵ 2
94	(4.06)×(4.40) 98	N−45°−W	炉址 (40)×(26)×4	甕(樽1)、台付甕1		4 C後	Ⅵ 3
95	5.58×5.19 69	N− 1°−W	炉址 F1 (66)×(16)×6 F2 140×12×5	小甕1、高杯2		4 C後	Ⅵ 4
96	3.54×4.44 61	N−12°−W	炉址 F1 50×44×4 土器使用 F2 56×42×5	壺(樽1,赤井戸1)、高杯2、器台1、椀1	間仕切り溝	4 C後	Ⅵ 5

号数	規模 東西×南北(m)深さ(m)	主軸方向	竈、炉 位置・規模(cm)・素材	出土遺物	施設	時期	報告書 住居番号
97	4.18×5.36 42	N−73°−E	竈址 東壁中央南 長132 幅94 粘土	壺1、杯(模倣杯2)、手捏1		6C後	Ⅵ6
98	(4.14)×(4.92) 41 竈南に1.14×0.80張出し部	N−36°−E	竈址 東壁 長126 幅96 粘土	甕3、甑1、杯1、鉢1、砥石1		6C後	Ⅵ7
99	4.36×5.22 19	N−48°−E	炉址 48×〔44〕×6	甕(赤井戸1)、台付甕1、高杯2、器台1		4C後	Ⅵ8
100	(3.06)×(6.88) 33	N− 9°−W	不明	甕1、鉢1		4C後	Ⅵ9
101	3.62×4.14 12	N−17°−W	炉址 96×50×12	鉢1		4C後	Ⅵ10
102	3.60×3.05 12	N−94°−E	炉址 34×26×6	台付甕1		4C後	Ⅵ11
103	4.64×3.45 18	N−62°−E	炉址 60×44×5			4C後	Ⅵ12
104	(4.36)×2.64 7	N−20°−E	炉址 152×32×7	甕1、台付甕3、小甕1、甑1、器台1		4C後	Ⅵ13
105	(1.76)×(1.68) 42	N−40°−E	不明	台付甕1		4C後	Ⅵ14
106	〔5.02〕×〔4.57〕39	N−68°−E	竈址 東壁中央南寄り 長128 幅96 石と粘土	杯1、杯蓋1、杯身1		6C前	Ⅵ15
107	〔7.94〕×〔8.44〕80	N−34°−E	炉址 92×38×9	壺3、高杯2、鉢1、手捏2、紡錘車状1、砥石1		4C後	Ⅵ16
108	〔2.96〕×2.12 38	N−58°−E	竈址 東壁中央南寄り 長116 幅 96 土器と粘土	甕(月影1,他4)、小甕1、甑2、椀1		6C前	Ⅵ17
109	3.18×2.84 30	N−78°−E	竈址 東壁中央南寄り 長 96 幅100 土器と粘土	甑1、高杯1、杯(模倣杯2,内斜口縁1)、砥・敲石1		5C後	Ⅵ18
110	5.34×5.04 38	N−75°−E	竈址 東壁中央南寄り 長140 幅100 土器と粘土	甕5、小甕3、杯(模倣杯7,内斜口縁1,他1)、椀3、手捏2		6C前	Ⅵ19
111	7.80×7.80 33	N−45°−E	炉址 F1 84×68×9 F2 124×80×8 F3 39×22×5 F4 80×44×10 F5 152×94×9 F6 74×38×6	甕(赤井戸2,樽1)、台付甕1、小甕1、壺2、甑1、高杯3、器台2、椀1 台付片口鉢1		4C後	Ⅵ20
112	5.74×5.32 79	N−52°−E	竈址 東壁中央南寄り 長126 幅 96 石と粘土	甕2、小甕5、甑3、杯(模倣杯3,内斜口縁2)、椀3、手捏2		6C前	Ⅵ21
113	〔3.22〕×〔3.98〕37	N−29°−E	炉址 48×25×5	台付甕1		4C後	Ⅵ22
114	(3.16)×(2.52) 65 北西に張り出し部	N−53°−E	不明	甕(樽1)		4C後	Ⅵ23
115	(3.56)×(4.64) 61	N−27°−E	炉址 54×(15)×8	高杯1	横穴貯蔵穴	5C前	Ⅵ24
116	(0.66)×(3.16) 11	N−14°−W	不明	高杯1		4C後	Ⅵ25
117	5.62×3.78 57	N−59°−E	炉址 118×48×6 中央に炉体土器	甕1、小甕1、甑1、高杯1、片口鉢1、椀1		5C前	Ⅵ26
118	(3.36)×(0.44) 42	N−26°−W	不明			不明	Ⅵ27
119	〔6.54〕×(5.28) 13	N−28°−E	炉址 (64)×(32)×9	小甕1、高杯1		4C後	Ⅵ29
120	〔4.80〕×〔4.36〕30	N−26°−W	不明	甕(赤井戸1)、高杯2		5C前	Ⅵ30
121	(3.36)×(1.72) 78	N−33°−W	不明	砥・敲・磨石1、敲・磨石1		不明	Ⅵ31
122	3.02×3.30 35	N− 1°−E	炉址 112×54×8	高杯2、紡錘車1		5C前	Ⅵ32
123	5.26×5.38 90	N−41°−W	炉址 F1 176×65×10 F2 30×10×2	甕(赤井戸1)、壺(赤井戸1)、高杯2、器台1、片口鉢1、椀1、紡錘車1 敲・磨石1	類ベッド状遺構2 (北・東壁)	5C前	Ⅵ33
124	4.16×(2.73) 54	N−30°−W	炉址 74×54×9 炉縁石	甕(赤井戸1)、甑(赤井戸1)	横穴貯蔵穴	5C前	Ⅵ34
125	5.24×(4.56) 27	N−22°−W	竈址 東壁中央南寄り 長 126 幅100 粘土	杯1		平安	Ⅵ35
126	3.00×(5.06) 45	N−11°−W	炉址 80×56×8	高杯1	馬蹄形状施設(東壁)	4C後	Ⅵ36
127	〔6.22〕×〔6.16〕51	N−40°−W	不明	椀1、器台1、手捏1		4C後	Ⅵ37
128	(4.12)×5.46 55	N−44°−E	炉址 (40)×(36)×6	甕(赤井戸1)、台付甕(樽1)、高杯1、鉢1	馬蹄形状施設(西壁)	4C後	Ⅵ38
129	2.72×(0.78) 23	N−12°−W	不明	手捏1		6C後	Ⅵ39
130	(2.18)×(1.12) −	N− 3°−W	炉址 40×34×6			4C後	Ⅵ40
131	〔3.54〕×(2.82) 73	N−42°−E	炉址 (58)×(30)×5 炉縁石	甕(赤井戸1,他1)、小甕1、壺1、片口鉢1		4C後	Ⅵ41
132	(1.50)×(2.58) 39	N−31°−E	不明			4C後	Ⅵ43
133	(3.80)×(2.60) 20	N−20°−W	炉址 48×34×6	高杯1		4C後	Ⅵ44
134	5.50×5.82 55	N−33°−E	炉址 75×65×14	甕3、台付甕3、高杯2、凹石1、縄文磨石1		4C後	Ⅶ1
135	4.31×4.70 22	N−28°−E	炉址 F1 65×42×8 炉縁石4 F2 35×32×7	坩2、器台1、磨石1、台石・敲石1、砥石・磨石1		4C後	Ⅶ2
136	5.18×4.81 3.1	N−39°−W	炉址 75×72×14	台付甕(赤井戸1)		4C後	Ⅶ3
137	5.78×5.52 31	N−32°−W	炉址 82×50×12	甕1、台付甕(赤井戸1,樽1)、器台2、杯1、磨石2		4C後	Ⅶ4
138	4.46×2.58 20	N−50°−E	竈址 東壁中央 長155 幅90 粘土	甕1、杯2、砥石1、編物石3		6C前	Ⅵ5
139	5.24×6.59 46	N−46°−E	竈址 北壁中央 長102 幅97 粘土	甕2、高杯1、須恵高杯1(TK47)、杯(模倣杯6,内斜口縁1) 須恵碗1、石製模造品(剣形2)、砥石2、敲石2	馬蹄形状施設(南壁)	6C前	Ⅶ6
140	8.30×8.38 12	N−63°−E	炉址 69×63×16	甕3、椀1、青銅製品1、砥石3、敲石1		5C後	Ⅶ7
141	4.60×(3.50) 17	N−76°−E	不明	甕2、杯(模倣杯1)、手捏1、砥石1、敲石1		6C前	Ⅶ8
142	4.15×5.10 23	N−17°−W	炉址 64×55×15	甕1、台付甕1、壺1、坩4、杯(模倣杯5,他1)、高杯1、椀1		5C後	Ⅶ9
143	4.28×3.74 16	N−55°−E	炉址 F1 60×22×14 F2 44×25×10 F3 30×22×8	甕2、壺2、杯2、椀1		5C後	Ⅶ10

号数	規模 東西×南北(m)深さ(m)	主軸方向	竈、炉 位置・規模(cm)・素材	出土遺物	施設	時期	報告書 住居番号
144	4.06×(2.44) 34	N−10°−W	炉址 90×63×10	坩2		5C前	X 1
145	2.92×(1.46) 19	N−16°−E	不明			不明	X 2
146	5.66×4.86 81	N−60°−W	竈址 東壁中央 長135 幅107 粘土	須恵杯1(TK10)		6C前	X 3
147	(0.74)×2.78 30	N−86°−W	不明			不明	X 4
148	(4.14)×3.64 89	N−63°−E	竈址 東壁中央南寄り 粘土	杯(模倣杯1)、須恵杯1(MT85〜43)		6C中	X 5
149	(5.98)×5.10 88	N−73°−E	竈址 北壁中央 長120 幅105 粘土	長胴甕1、高杯1、須恵杯1(TK43)、手捏1、土玉1、土製管玉1		6C中	X 6
150	4.34×4.16 70	N−58°−E	竈址 東壁中央 長 90 幅 87 粘土	長胴甕1、甑1、杯(模倣杯7,他1)、土玉1		6C前	X 7
151	4.12×4.06 88	N−74°−E	竈址 西壁中央 長116 幅108 土器芯	長胴甕1、小甕1、杯(模倣杯1,他1)、手捏1		6C前	X 8
152	5.06×4.72 59	N−54°−W	竈址 西壁中央 長112 幅 93 土器芯	甕1、小甕1、杯(内斜口縁3,他1)、土製勾玉1		5C後	X 9
153	3.66×3.20 73	N−53°−E	竈址 東壁中央 長122 幅 72 土器芯	長胴甕1、杯(模倣杯1,他1)、椀1、手捏4、石製模造品(剣形3) 須恵杯蓋1(MT15)、須恵鍔1		6C前	X10
154	5.68×5.68 74	N−78°−E	竈址 東壁中央 長148 幅120 土器芯	長胴甕2、小甕4、甑1、杯(模倣杯2,内斜口縁2,他2)、手捏1		6C前	X11
155	(2.12)×3.44 66	N−70°−E	不明			不明	X12
156	(6.00)×5.80 53 張り出し部 2.62×0.96	N−68°−E	竈址 東張り出し部北寄り 長60 幅36 粘土 馬蹄状	坩1、杯(内斜口縁2,他1)、石製模造品1		5C後	X15
157	4.78×4.56 72	N−68°−E	竈址 東壁中央 長138 幅 81 土器芯	広口椀1		6C前	X16
158	5.12×4.72 73	N−65°−E	竈址 東壁中央 長128 幅 94 土器芯	長胴甕3、広底壺1、杯(模倣杯4)、滑石臼玉1		6C前	X17
159	4.88×4.48 30	N−85°−E	炉址 100×52×10	甕1、高杯3、手捏1		5C後	X18
160	(3.34)×4.96 42	N−55°−E	炉址 50×46× 6 土器	甕(十王台1,樽1)、坩1		4C後	X19
161	6.60×6.66 80	N−65°−E	竈址 東壁中央 長120 幅 90 土器芯	長胴甕2、甑1、杯(模倣杯3) 須恵杯蓋1(MT85)、須恵高杯1(MT85)、砥石1		6C中	X20
162	5.80×5.24 83	N−58°−E	炉址 76×52×9	台付甕1、小甕1、壺1、器台1、紡錘車1		4C後	X21
163	2.74×(2.70) 54	N−66°−E	竈址 東壁中央 長102 幅 32 土器芯	甕1、小甕1、杯(模倣杯1)		6C中	X22
164	6.34×(6.16) 66	N−73°−E	不明	台付甕1、甕1 須恵杯蓋1(TK47)、須恵甕(TK47)、須恵鍔(TK47)		4C後	X23
165	(5.14)×5.58 69	N−67°−E	不明	甕1、坩1、高杯7、須恵把手付椀1		5C後	X24
166	(4.50)×(1.00)		確認調査のみ			不明	X-1
167	(3.50)×(2.00) 16	N−24°−W	不明			不明	XI 1
168	2.90×2.80 59	N−42°−E	竈址 東壁中央南寄り 長90 幅91 粘土 土器芯	杯(模倣杯1)		6C前	XI 2
169	(3.50)×4.40 26	N−12°−W	不明	台付甕1、杯1、高杯1		5C前	XI 3
170	3.40×2.90 10	N−11°−W	炉址 100×50×7	甕 1、小甕1、杯(模倣杯1)、高杯1		5C後	XI 4
171	3.80×3.20 12	N−70°−E	炉址 62×46×6			不明	XI 5
172	8.10×8.00 43 南に張り出し部 1.4×1.2	N−73°−E	竈址 東壁中央南寄り 長113 幅117 粘土	甕2、杯(模倣杯1,他1)、高杯2、磨石1		6C前	XI 6
173	(2.30)×3.70 9	N−13°−E	不明			不明	XI 7
174	6.20×5.90 70	N−84°−E	竈址 東壁中央 長121 幅112 粘土	甕7、小甕2、甑2、杯(模倣杯7,他3)、高杯1、鉢1、臼玉1		6C前	XI 8
175	3.40×(2.20) 22	N−37°−E	炉址 38×30×4			不明	XI 9
176	4.40×4.30 57	N−78°−E	竈址 東壁中央南寄り 長82 幅88 粘土	小甕1、杯(模倣杯2)、砥石1		6C前	XI10
177	3.50×2.80 35	N−76°−E	不明			不明	XI11
178	10.20×10.10 59 南に張り出し部 1.9×1.1	N−81°−E	竈址 東壁中央南寄り 長200 幅132 粘土	大甕2、甕9、小甕7、甑1、杯(模倣杯11,内斜口縁5,他17)、大型杯2、坩1、高杯4、 器台2、須恵杯身1、ガラス小玉7、管玉1、臼玉158、紡錘車5、砥石2、刀子片1、打斧1	間仕切り溝 馬蹄形状施設	6C前	XI12
179	4.70×4.00 61	N−79°−E	竈址 東壁中央南寄り 長133 幅89 石と粘土 煙道に土器使用	甕4、甑2、杯(模倣杯5,他3)、高杯1、須恵高盤1、土製支脚1、砥石1		6C後	XI13
180	(3.90)×3.50 14	N−65°−E	不明	甕1、杯(模倣杯1,他6)		5C後	XI14
181	(1.70)×3.40 18	N−88°−E	不明			不明	XI15
182	5.10×5.00 40	N−25°−W	竈址 北壁中央東寄り 長131 幅93 粘土	小甕1、甑1、杯(模倣杯2,内斜口縁7,他2)、高杯2、鉢1、坩1		5C後	XI16

Tab. 7　A区柱穴観察表（単位：cm）

遺構名	位　　置	形　状	長径	短径	深さ	備　　考
P－1	X129－Y69G	円　　形	30	26	22	
P－2	X130・131Y69G	楕　円　形	39	30	21.5	
P－3	X130－Y69G	円　　形	37	34	26	
P－4	X130－Y69G	円　　形	35	35	21	
P－5	X131－Y69G	楕　円　形	44	33	33	
P－6	X131－Y69G	円　　形	42	36	41	
P－7	X130－Y68G	円　　形	38	32	21	
P－8	X130－Y67G	円　　形	40	34	41	
P－9	X130－Y67G	楕　円　形	34	25	29	
P－10	X130－Y67G	楕　円　形	30	22	41	
P－11	X129－Y66G	円　　形	30	28	38.5	
P－12	X130－Y66G	楕　円　形	32	23	49	土師器片１点。
P－13	X130－Y66G	楕　円　形	30	23	47	
P－14	X127－Y67G	円　　形	32	28	17.5	
P－15	X126－Y67G	円　　形	20	19	6	
P－16	X126－Y66G	楕　円　形	30	24	10.5	
P－17	X125－Y66G	円　　形	31	29	34	
P－18	X125－Y66G	楕　円　形	26	23	35	
P－19	X125－Y66G	円　　形	35	35	30	
P－20	X125－Y66G	円　　形	35	29	46	
P－21	X125－Y65G	円　　形	31	30	28.5	
P－22	X125－Y65G	円　　形	30	29	23.5	
P－23	X125－Y65G	楕　円　形	41	34	40	
P－24	X125－Y64G	楕　円　形	41	29	19.5	
P－25	X125－Y64G	不　整　形	52	40	33	
P－26	X125－Y64G	円　　形	40	36	38.5	
P－27	X125－Y64G	楕　円　形	41	31	21.5	
P－28	X125－Y64G	楕　円　形	33	28	49	
P－29	X127－Y66G	楕　円　形	33	28	27	
P－30	X127－Y65G	円　　形	24	23	29	
P－31	X128・129－Y66G	円　　形	27	25	18.5	
P－32	X128・129－Y69G	円　　形	19	20	22.5	
P－33	X128－Y66G	円　　形	20	16	17	
P－34	X130－Y65G	楕　円　形	40	28	26	D－９に切られる。
P－35	X129・130－Y65G	円　　形	36	35	32	
P－36	X129－Y65G	楕　円　形	36	28	22	
P－37	X127－Y64G	円　　形	30	26	25.5	
P－38	X128－Y64G	楕　円　形	31	20	35	H－10を切る。
P－39	X129－Y63G	円　　形	41	36	21	
P－40	X128－Y63G	円　　形	37	35	39.5	土師器片31点、須恵器片１点 石田川式土器片１点。

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
P－41	X128－Y63G	円形	40	40	54	D－19に切られる。
P－42	X129－Y63G	楕円形	46	37	65.5	
P－43	X129－Y63G	円形	45	40	56.5	
P－44	X129－Y62G	円形	43	42	70	
P－45	X130－Y59G	円形	26	25	31	
P－46	X128－Y59G	楕円形	29	24	23.5	
P－47	X129・130－Y59G	円形	35	33	39	
P－48	X129－Y58G	楕円形	25	24	28.5	
P－49	X129－Y58G	円形	20	20	27.5	
P－50	X128－Y58G	楕円形	35	22	31	
P－51	X126－Y59G	円形	36	34	32.5	
P－52	X127－Y58G	楕円形	50	30	32	
P－53	X127－Y58G	円形	36	30	51	
P－54	X127－Y57G	楕円形	38	30	29.5	

Tab. 8　A区掘立柱建物柱穴観察表（単位：cm）

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
B－1 P_1	X126－Y66G	楕円形	24	20	21	
B－1 P_2	X126－Y66G	楕円形	24	18	11.5	土師器片１点。
B－1 P_3	X126－Y67G	円形	28	25	19	
B－1 P_4	X126－Y67G	円形	34	30	11	
B－1 P_5	X127－Y67G	楕円形	27	24	16.5	
B－1 P_6	X127－Y67G	円形	26	24	13	
B－1 P_7	X127－Y67G	楕円形	31	26	17	
B－1 P_8	X128－Y66G	楕円形	29	24	28	
B－1 P_9	X127－Y66G	楕円形	26	21	30	
B－1 P_{10}	X127－Y66G	円形	30	30	22	

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
B－2 P_1	X129－Y64G	円形	40	36	39.5	
B－2 P_2	X129－Y65G	円形	33	30	42.5	
B－2 P_3	X129－Y65G	円形	38	36	51.5	
B－2 P_4	X129－Y66G	円形	36	34	48.5	
B－2 P_5	X129－Y66G	円形	40	35	49.5	
B－2 P_6	X130－Y66G	円形	40	36	29	
B－2 P_7	X130－Y66G	円形	31	25	46	
B－2 P_8	X130－Y65G	円形	30	17	43	
B－2 P_9	X130－Y65G	円形	30	26	29.5	
B－2 P_{10}	X130－Y64G	楕円形	41	30	29	土師器片1点。
B－2 P_{11}	X129－Y64G	円形	35	34	41	
B－2 P_{12}	X129－Y64G	楕円形	30	26	41.5	

Tab. 9　A区土坑観察表（単位：cm）

遺構名	位　置	形状	長径	短径	深さ	備　考
D－1	X129－Y67G	円　形	85	80	28.5	
D－2	X128－Y66・67G	楕円形	83	74	41.5	土師器片1点。D－3に切られる。
D－3	X128－Y66G	円　形	49	42	30	D－2を切る。
D－4	X128－Y66G	隅丸長方形	100	66	31	D－5に切られる。
D－5	X128－Y66G	円　形	40	36	35	土師器片1点。D－4を切る。
D－6	X129－Y66G	楕円形	102	79	24.5	
D－7	X129－Y65・66G	隅丸方形	95	88	27	B－2：P_4に切られる。
D－8	X130－Y65G	楕円形	50	37	17	D－9に切られる。
D－9	X130－Y65・66G	隅丸長方形	159	93	41.5	土師器片7点。D－8・P－34を切り、B－2：P_8に切られる。
D－10	X130－Y65G	正方形	13.3	11.1	31	土師器片5点。D－11に切られる。
D－11	X130－Y65G	円　形	80	65	32	D－10を切る。
D－12	X125－Y65G	楕円形	58	45	33.5	
D－13	X125－Y64G	円　形	65	56	38.5	
D－14	X125－Y63G	楕円形	69	44	22	
D－15	X127・128－Y64	不整形	94	66	37.5	
D－16	X128－Y64G	隅丸長方形	122	90	35.5	
D－17	X128－Y64G	円　形	48	40	75	H－10を切る。
D－18	X129・130－Y63G	隅丸長方形	165	95	59.5	H－11に切られる。
D－19	X128－Y63G	円　形	142	130	82.5	P－41を切る。
D－20	X128－Y62・63G	円　形	103	83	41.5	土師器片11点、赤井戸式土器片1点。
D－21	X130－Y62G	円　形	81	80	67	
D－22	X129・130－Y61G	円　形	39	38	24	
D－23	X130－Y61G	円　形	40	38	21.5	
D－24	X130－Y61G	円　形	40	37	21	
D－25	X128・129－Y59G	円　形	70	69	18.5	
D－26	X129－Y59G	円　形	44	42	20.5	
D－27	X125－Y59G	円　形	75	(53)	48.5	
D－28	X129－Y58G	円　形	40	35	23	
D－29	X128－Y58G	楕円形	41	33	23	
D－30	X127・128－Y57G	円　形	61	55	22.5	
D－31	X128－Y57G	円　形	74	69	18	

Tab. 10　B区土坑観察表（単位：cm）

遺構名	位　　置	形　状	長径	短径	深さ	備　　考
D－1	X201－Y145G	楕　円　形	95	81	64	土師器片16点、須恵器片22点 赤井戸式土器片１点、縄文土器片１点。

Tab. 11　D区土坑観察表（単位：cm）

遺構名	位　　置	形　状	長径	短径	深さ	備　　考
D－1	X87－Y99G	楕　円　形	70	40	25	
D－2	X87－Y100G	楕　円　形	55	40	38	
D－3	X88－Y103G	楕　円　形	72	60	48	木の根の跡か。
D－4	X89－Y103G	円　　形	69	62	35	木の根の跡か。
D－5	X89－Y104G	円　　形	45	38	35	
D－6	X89－Y104G	楕　円　形	79	30	31	
D－7	X88－Y105G	隅丸長方形	50	38	32	
D－8	X88－Y106G	三　角　形	80	67	68	木の根の跡か。
D－9	X88－Y106G	三　角　形	80	51	15	木の根の跡か。
D－10	X88－Y108G	円　　形	42	43	45	木の根の跡か。
D－11	X88－Y108G	楕　円　形	68	40	32	
D－12	X88･89－Y108･109G	円　　形	108	90	31	木の根の跡か。
D－13	X88－Y109G	円　　形	53	50	30	
D－14	X87－Y108G	円　　形	38	30	42	
D－15	X87－Y109G	円　　形	32	31	33	
D－16	X86･87－Y108･109G	円　　形	130	125	48	
D－17	X85－Y109・110G	円　　形	31	30	32	
D－18	X85－Y110G	楕　円　形	92	72	18	木の根の跡か。
D－19	X84－Y111G	四　角　形	142	(69)	30	木の根の跡か。
D－20	X84－Y111・112G	隅丸方形	120	(85)	28	木の根の跡か。
D－21	X84－Y112G	円　　形	55	(38)	39	木の根の跡か。
D－22	X82－Y113G	円　　形	40	38	51	
D－23	X82－Y113G	楕　円　形	61	50	46	木の根の跡か。
D－24	X81－Y114G	円　　形	39	35	41	
D－25	X80－Y114G	円　　形	60	50	41	木の根の跡か。
D－26	X89－Y110G	楕　円　形	60	52	39	木の根の跡か。
D－27	X89－Y110G	円　　形	52	51	36	木の根の跡か。
D－28	X89－Y111G	円　　形	30	29	32	
D－29	X89－Y111G	楕　円　形	32	25	33	
D－30	X89－Y111G	不　整　形	143	130	58	
D－31	X89－Y112G	楕　円　形	45	40	30	

Tab. 12　A区遺物観察表

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
1	H－2	杯	[13.0]	5.3	①細粒②良好③浅黄橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	履土	
2	H－3	杯	[12.3]	(4.7)	①細粒②良好③にぶい褐④破片	外面横ナデ。内面横ナデ。	履土	
3	H－3	高杯	[17.8]	(6.3)	①細粒②良好③明赤褐④破片	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	履土	
4	H－3	台付甕	14.4	(24.7)	①細粒②良好③浅黄橙④3/4	外面口縁部横ナデ、胴部刷毛後ナデ、下半篦削り。内面横ナデ、胴部刷毛後ナデ。	履土	
5	H－4	杯	22.1	5.6	①中粒②良好③浅黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	5	
6	H－4	高杯	[13.2]	(7.1)	①細粒②良好③明赤褐④2/5	外面口縁部横ナデ、杯部篦削り。内面横ナデ後放射状の磨き。	4	
7	H－4	小甕	－	(9.5)	①細粒②良好③黄橙④1/4	外面篦削り。内面ナデ。	1	
8	H－4	甕	13.6	(21.8)	①細粒②良好③橙④1/3	外面口縁部横ナデ、胴部刷毛後篦削り。	2	
9	H－6	杯	[11.7]	5.4	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ後斜めの磨き。	1	
10	H－6	杯	11.5	5.2	①細粒②良好③灰白④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	4	
11	H－6	甕	[18.8]	(10.7)	①細粒②良好③橙④破片	外面口縁部横ナデ、胴部刷毛後篦削り。内面横ナデ。	張り出し	
12	H－6	甕	17.2	30.9	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面口縁部横ナデ、胴部上半刷毛目、下半篦削り。内面横ナデ。	5	
13	H－6	高杯	[13.4]	7.4	①細粒②良好③橙④3/4	外面口縁部横ナデ、杯部篦削り、脚部横ナデ後縦方向の磨き。内面横ナデ。	8	
14	H－6	高杯	14.4	(11.7)	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、杯部脚部篦削り。内面杯部横ナデ後斜めの磨き。	6	
15	H－8	小甕	12.5	15.1	①細粒②良好③にぶい黄褐④完形	外面口縁部横ナデ、胴部刷毛後篦削り。内面ナデ。	28	
16	H－8	甑	16.5	19.3	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面口縁部横ナデ、胴部磨きに近いナデ。	26	
17	H－8	杯	[11.7]	5.5	①細粒②良好③橙④2/3	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ、一部斜めの磨き。	38他	
18	H－8	杯	14.1	5.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	25	
19	H－8	杯	[13.4]	5.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	23、24、47	
20	H－8	杯	11.4	5.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ一部磨き。	7、13、15	
21	H－8	杯	11.6	5.2	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	48	
22	H－8	杯	12.7	5.9	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	34	
23	H－8	杯	12.7	6.1	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	73、75、履土	
24	H－8	鉢	20.4	13.0	②細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	31	
25	H－8	甕	[17.1]	(20.0)	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/4	外面口縁部横ナデ、胴部刷毛後篦削り。内面ナデ。	40	
26	H－8	甕	16.8	(14.5)	①細粒②良好③灰黄④1/3	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面横ナデ。	32、33、50、52、53	
27	H－8	甕	18.6	(10.5)	①中粒②良好③浅黄橙④口縁のみ	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面横ナデ。	76	
28	H－8	杯	12.6	5.9	①細粒②良好③赤橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	2、8、9、10、他	赤彩
29	H－8	杯	12.3	5.7	①細粒②良好③橙④3/4	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	履土	
30	H－8	杯	[13.6]	(5.2)	①細粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	履土	
31	H－8	小甕	9.4	(9.2)	①細粒②良好③灰褐④3/4	外面折り返し口縁、横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	4	
32	H－8	甑	[16.5]	10.4	①細粒②良好③にぶい橙④1/3	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面横ナデ。	30	
33	H－8	高杯	－	(10.1)	①細粒②良好③橙④脚部のみ	外面篦削り。内面ナデ。	履土	
34	H－8	甕	15.7	27.6	①細粒②良好③灰白④完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	37、40、49	
35	H－8	甕	[19.6]	(29.7)	①細粒②良好③灰黄④1/3	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	41、42、66	
36	H－8	甕	22.5	(28.0)	①細粒②良好③にぶい橙④4/5	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り後一部ナデ。内面ナデ。	35	
37	H－8	甕	[23.7]	(25.2)	①中粒②良好③浅黄橙④1/3	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	60、61、62	
38	H－10	杯	[11.8]	[5.6]	①細粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	34	
39	H－10	杯	[11.6]	5.7	①細粒②良好③橙④2/3	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	35	
40	H－10	小甕	12.0	12.7	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	37	
41	H－12	高杯	[12.9]	(9.5)	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、杯部脚部篦削り。内面横ナデ。	114	
42	H－12	高杯	[12.1]	7.4	①細粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、杯部脚部篦削り。内面不明。	24、31	
43	H－12	高杯	[12.1]	(7.8)	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外面口縁部横ナデ、杯部脚部篦削り。内面杯部横ナデ後磨き。	112他	
44	H－12	杯	14.2	4.6	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ後斜めの磨き。	108	

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
45	H－12	杯	13.8	5.3	①細粒②良好③にぶい橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後放射状の磨き。	25	
46	H－12	杯	13.8	(5.1)	①細粒②良好③にぶい黄④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後放射状の磨き。	履土	
47	H－12	杯	12.7	6.0	①細粒②良好③橙④3/4	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	履土	
48	H－12	杯	15.2	6.0	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	27	
49	H－12	杯	[12.2]	4.9	①細粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後放射状の磨き。	竈履土	
50	H－12	杯	12.2	5.8	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	122、124	
51	H－12	杯	[11.9]	6.1	①細粒②良好③にぶい黄橙④2/3	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	132、履土	
52	H－12	杯	11.5	5.6	①中粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	125、履土	
53	H－12	杯	[12.4]	4.2	①細粒②良好③橙④4/5	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後放射状の磨き。	21	
54	H－12	杯	11.7	5.2	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	29	
55	H－12	杯	11.9	5.7	①中粒②良好③にぶい橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	1	
56	H－12	杯	11.8	5.6	①中粒②良好③明黄褐④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	159	
57	H－12	杯	11.8	5.2	①細粒②良好③にぶい橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	26	
58	H－12	器台	－	－	①細粒②良好③橙④破片	外面篦削り。内面ナデ。	履土	
59	H－12	甕	18.7	19.5	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外面口縁部横ナデ、胴部ナデ、篦削り。内面ナデ。	180、182	
60	H－12	杯	14.3	7.25	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	42、122、123	
61	H－12	杯	14.8	8.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	158	
62	H－12	杯	[15.4]	7.2	①中粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	竈履土	
63	H－12	杯	17.8	7.3	①細粒②良好③灰白④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後放射状の磨き。	5	
64	H－12	小甕	14.5	(17.6)	①細粒②良好③橙④3/4	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	63	
65	H－12	甕	[24.2]	32.9	①中粒②良好③にぶい橙④4/5	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面胴部上半横方向のナデ後縦方向のナデ、下半篦削り。	17、18 竈	
66	H－12	杯	[13.0]	5.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④2/3	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	37、45、履土	
67	H－12	杯	13.0	5.5	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	28	
68	H－12	杯	13.0	5.8	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	20	
69	H－12	杯	12.8	5.9	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	38、127、146	
70	H－12	杯	12.8	6.5	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	141	
71	H－12	器台	－	－	①細粒②良好③にぶい橙④破片	内外面とも刷毛目。	履土	外面赤色塗彩
72	H－12	杯	15.0	5.5	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	履土	
73	H－12	甕	23.2	(19.5)	①中粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	133、134	
74	H－12	甕	－	(21.5)	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外面胴部篦削り後磨き。内面ナデ。	竈他	
75	H－12	杯	12.2	5.6	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	10、11	
76	H－12	杯	12.4	5.3	①細粒②良好③橙④3/4	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	144	
77	H－12	杯	12.2	5.6	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	4	
78	H－12	杯	12.6	6.2	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	65	
79	H－12	杯	[12.6]	(5.7)	①細粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	履土	
80	H－12	杯	12.6	5.6	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	116	
81	H－12	甕	[20.0]	[42.0]	①細粒②良好③にぶい橙④1/4	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	165、167、168	
82	H－12	杯	12.6	6.1	①中粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	3	
83	H－12	杯	15.0	7.4	①細粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	118	
84	H－12	坩	－	(10.3)	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面上半横ナデ、下半篦削り。内面横ナデ。	19	
85	H－12	大甕	[20.0]	[42.0]	①細粒②良好③にぶい橙④1/5	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り一部磨き。 内面ナデ、一部磨き。	165、167 168他	
86	H－12	杯	[12.0]	4.0	①細粒②良好③橙④4/5	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	15	
87	H－12	杯	12.1	5.2	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	30、履土	
88	H－12	杯	12.4	5.5	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	6、履土	

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
89	H－12	須恵器杯身	[11.0]	[4.4]	①細粒②良好③灰④1/4	外面轆轤ナデ、回転篦削り。内面轆轤ナデ。	111	
90	H－12	小　甕	11.8	11.2	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り後一部ナデ。内面ナデ。	148	
91	H－12	甕	[18.8]	(24.3)	①細粒②良好③浅黄橙④1/2	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	180	
92	H－12	甕	24.1	(11.2)	①細粒②良好③橙④1/4	外面口縁部横ナデ後縦方向の磨き、胴部篦削り後磨き。 内面口縁部横ナデ後横方向の磨き、胴部ナデ。	130	
93	H－12	大　甕	22.8	(16.0)	①細粒②良好③浅黄橙④1/5	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	150	
94	H－12	小　甕	12.2	14.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り後ナデ後磨き。内面ナデ。	149	底部木葉痕
95	H－12	小　甕	8.9	12.7	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、胴部ナデ。内面ナデ。	113	
96	H－12	小　甕	12.2	18.3	①細粒②良好③浅黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、胴部上半縦方向のナデ、下半横方向のナデ。内面ナデ。	117	
97	H－12	甕	－	(19.4)	①細粒②良好③橙④3/4	外面口縁部横ナデ、胴部上半ナデ、下半篦削り。内面ナデ。	153	
98	H－12	甑	25.3	35.1	①中粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面横ナデ後篦磨き。	54	
99	H－12	高　杯	11.8	8.9	①細粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面不明。	24、31	
100	H－12	小　甕	[13.1]	15.3	①細粒②良好③橙④3/4	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	179、182	
101	H－12	小　甕	12.4	(13.1)	①細粒②良好③橙④3/4	外面口縁部横ナデ、胴部刷毛後下半のみナデ。内面ナデ。	157	
102	H－12	甕	18.6	29.0	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/2	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	182	
103	H－13	杯	15.2	5.2	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後放射状の磨き。	5	
104	H－13	杯	[14.5]	6.1	①細粒②良好③浅黄橙④1/3	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	4、竈履土	
105	H－13	甕	[21.2]	(28.5)	①細粒②良好③橙④1/3	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面横ナデ。	25他	
106	H－13	杯	[10.4]	4.0	①細粒②良好③浅黄橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	2	
107	H－13	杯	[10.6]	3.4	①粗粒②良好③橙④2/3	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	履土	
108	H－13	杯	[11.5]	4.9	①細粒②良好③灰白④1/3	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	8	
109	H－13	杯	[13.0]	(2.9)	①細粒②良好③にぶい橙④破片	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	履土	
110	H－13	杯	[12.3]	5.2	①細粒②良好③橙④2/3	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	履土	
111	H－13	杯	14.2	6.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	3	焼成後底部穿孔
112	H－13	土製支脚	[12.7]	13.6	①細粒②良好③橙④1/2	外面胴部篦削り、脚端部横ナデ。内面横ナデ。	－	底部木葉痕
113	H－13	甑	[23.2]	15.3	①細粒②良好③浅黄橙④1/4	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。 内面口縁部横ナデ、胴部ナデ後磨き。	竈履土	
114	H－13	甕	[13.2]	(11.2)	①細粒②良好③灰白④破片	外面口縁部横ナデ、胴部弱い篦削り。内面横ナデ。	6	
115	H－13	甕	[22.0]	(11.0)	①細粒②良好③浅黄橙④破片	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面横ナデ。	竈履土	
116	H－13	甑	[21.2]	(10.0)	①細粒②良好③灰白④破片	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面横ナデ。	26、煙突	
117	H－13	高　杯	15.0	9.3	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外面杯部口縁横ナデ、底部・脚部篦削り。 内面横ナデ後放射状の磨き。	7、10 竈履土	
118	H－13	須恵器高盤	－	(6.3)	①細粒②良好③灰④脚部	内外面ともに轆轤ナデ。	1、23	
119	H－13	甕	[21.6]	(20.0)	①細粒②良好③浅黄橙④1/4	外面口縁部横ナデ、胴部刷毛後篦削り。 内面ナデ後磨き。	9、10	
120	H－14	杯	15.7	5.8	①細粒②良好③橙④完形	外面弱いナデ。内面ナデ。	1	底部木葉痕
121	H－14	杯	9.8	4.5	①中粒②良好③橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	8	
122	H－14	杯	9.5	4.6	①中粒②良好③浅黄橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	11	
123	H－14	杯	9.3	3.1	①細粒②良好③浅黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	4	
124	H－14	杯	9.0	3.6	①中粒②良好③淡黄④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	10	
125	H－14	杯	9.9	4.0	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	7、履土	
126	H－14	杯	13.6	4.3	①細粒②良好③にぶい黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	3、4、5他	
127	H－14	甕	－	(24.4)	①細粒②良好③明黄褐④1/2	外面胴部篦削り。内面ナデ。	12	
128	H－16	杯	[13.6]	5.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	8	
129	H－16	杯	13.2	5.5	①細粒②良好③浅黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	23	
130	H－16	杯	13.0	5.9	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	48	
131	H－16	杯	13.6	5.4	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	26他	
132	H－16	杯	[13.2]	5.5	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	33、34	

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
133	H－16	杯	[13.6]	5.9	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り後不定方向の磨き。 内面横ナデ後斜めの磨き。	27	
134	H－16	杯	12.4	5.4	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	1	
135	H－16	杯	11.4	6.6	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	22	
136	H－16	杯	[11.4]	[6.9]	①細粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	2、29	
137	H－16	高杯	15.2	11.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、杯部篦削り、脚部横ナデ。内面横ナデ。	19	
138	H－16	高杯	14.2	11.7	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、杯部篦削り後磨き。脚部横ナデ。 内面杯部横ナデ後磨き。	20	
139	H－16	鉢	[41.6]	20.7	①細粒②良好③橙④4/5	外面ナデ。内面不明。	9	
140	H－16	杯	12.9	(5.3)	①細粒②良好③橙④3/4	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	21、29、竈7他	
141	H－16	杯	[13.8]	(6.6)	①細粒②良好③橙④1/2	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	47、竈履土	
142	H－16	坩	－	(8.4)	①細粒②良好③橙④1/2	内外面ともにナデ。	24	
143	H－16	小甕	[12.4]	13.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	17、18、35	
144	H－16	甑	23.8	30.8	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。 内面口縁部横ナデ、胴部上半ナデ、下半篦削り。	3	
145	表採	杯	14.4	5.2	①細粒②良好③橙④2/3	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。 内面横ナデ後斜めの磨き。	表採	

Tab. 13　D区遺物観察表

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	登録番号	備考
146	H－1	壷	－	(24.2)	①中粒②良好③浅黄④橙	口縁欠損　外面篦削り後磨き。内面ナデ。	3	
147	H－1	高杯	－	(4.8)	①細粒②良好③橙④脚部のみ	内外面ともにナデ。	4	
148	H－1	高杯	－	(7.3)	①細粒②良好③淡黄④脚部のみ	外面篦削り。内面ナデ。	1	
149	H－1	甑	－	(5.7)	①細粒②良好③橙④1/4	外面刷毛目。内面ナデ。	2	
150	H－5	杯	[12.7]	7.3	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	1	
151	H－5	杯	13.3	6.1	①細粒②良好③黄橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	25	
152	H－5	小甕	[14.5]	11.8	①中粒②良好③橙④2/5	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	16、18	
153	H－5	甕	16.2	27.5	①細粒②良好③淡黄④完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。 内面口縁部横ナデ、胴部ナデ後磨き。	7	
154	H－5	甕	16.8	30.9	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面口縁部横ナデ、胴部上半刷毛目、 下半篦削り。内面ナデ。	20、22 24	
155	H－5	椀	10.5	10.0	①細粒②良好③黄橙④完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	26	
156	H－5	甕	17.4	22.1	①細粒②良好③浅黄橙④完形	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	23	
157	H－5	甕	15.9	(25.5)	①細粒②良好③浅黄橙④4/5	外面口縁部横ナデ、胴部上半刷毛目、下半刷毛後篦削り。 内面口縁部横ナデ、胴部上半刷毛目、下半ナデ。	2 13	
158	X91－Y113G	椀	12.4	6.5	①中粒②良好③浅黄橙④ほぼ完形	外面口縁部横ナデ、底部篦削り。内面横ナデ。	－	
159	X91－Y113	須恵器杯身	[10.5]	4.9	①細粒②良好③灰④3/4	外面轆轤ナデ、回転篦削り。内面轆轤ナデ。	－	
160	X91－Y113G	小甕	[9.1]	8.2	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外面口縁部横ナデ、胴部篦削り。内面ナデ。	－	
161	X91－Y113G	坩	[10.9]	(9.8)	①細粒②良好③橙④1/3	外面磨き。内面口縁部磨き、胴部ナデ。	－	
162	X91－Y113G	手捏土器	－	(2.6)	①細粒②良好③にぶい黄橙④底部のみ	内外面ともにナデ。	－	
163	H－3	紡錘車	《径5.2・厚1.4・重32.2・孔径0.5》①細粒②良好③橙④完形⑤ナデ。				－	

註）1．土製品の観察項目は、胎土焼成色調残存整形方法の順で記載した。
　　2．①胎土は細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合には鉱物名を記載。
　　②焼成は極良、良好、不良の3段階評価。
　　③色調は土器外面を観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原1976）によった。
　　④大きさの単位はcm、gであり、現存値を（）、復元値を［］で示した。その他の小片については所属部位を記載した。

Tab. 14　玉類観察表

番号	器　　形	①直径	②最大厚	③重さ	④石材	登録番号
164	ガラス小玉	①3.2	②2.5	③—	④青色	61
165	ガラス小玉	①3.6	②2.0	③—	④青色	62
166	ガラス小玉	①3.6	②2.2	③—	④青色	履土
167	ガラス小玉	①3.6	②3.4	③—	④青色	履土
168	ガラス小玉	①3.5	②3.3	③—	④青色	履土
169	ガラス小玉	①3.9	②1.9	③—	④青色	履土
170	ガラス小玉	①3.6	②1.8	③—	④緑色	履土
171	白　玉	①6.8	②3.8	③0.3	④滑石	1
172	白　玉	①6.1	②3.2	③0.2	④滑石	1
173	白　玉	①6.0	②3.8	③0.2	④滑石	2
174	白　玉	①6.6	②3.8	③0.3	④滑石	3
175	白　玉	①6.8	②3.9	③0.3	④滑石	4
176	白　玉	①6.4	②3.3	③0.2	④滑石	5
177	白　玉	①5.7	②3.8	③0.2	④滑石	6
178	白　玉	①5.3	②4.1	③0.2	④滑石	7
179	白　玉	①5.7	②3.3	③0.2	④滑石	8
180	白　玉	①6.4	②3.2	③0.2	④滑石	9
181	白　玉	①6.0	②4.3	③0.2	④滑石	10
182	白　玉	①5.9	②2.0	③0.1	④滑石	11
183	白　玉	①6.1	②3.6	③0.2	④滑石	12
184	白　玉	①5.3	②3.0	③0.2	④滑石	13
185	白　玉	①6.1	②4.2	③0.2	④滑石	14
186	白　玉	①6.4	②4.0	③0.3	④滑石	15
187	白　玉	①6.6	②3.9	③0.3	④滑石	16
188	白　玉	①5.8	②3.6	③0.2	④滑石	17
189	白　玉	①6.0	②3.9	③0.2	④滑石	18
190	白　玉	①7.6	②3.8	③0.3	④滑石	19
191	白　玉	①7.5	②3.5	③0.3	④滑石	20
192	白　玉	①6.0	②2.4	③0.1	④滑石	21
193	白　玉	①6.5	②4.1	③0.3	④滑石	22
194	白　玉	①6.5	②2.5	③0.2	④滑石	23
195	白　玉	①5.5	②3.0	③0.2	④滑石	24
196	白　玉	①5.3	②3.9	③0.2	④滑石	25
197	白　玉	①7.9	②4.0	③0.4	④滑石	26
198	白　玉	①6.4	②3.4	③0.3	④滑石	27
199	白　玉	①5.5	②4.9	③0.3	④滑石	28
200	白　玉	①5.8	②4.1	③0.3	④滑石	29
201	白　玉	①6.1	②5.0	③0.4	④滑石	30
202	白　玉	①6.1	②3.6	③0.2	④滑石	31
203	白　玉	①5.3	②5.1	③0.2	④滑石	32
204	白　玉	①5.9	②3.3	③0.2	④滑石	33
205	白　玉	①5.7	②3.9	③0.2	④滑石	34
206	白　玉	①5.9	②4.1	③0.2	④滑石	35
207	白　玉	①5.7	②1.8	③0.1	④滑石	36
208	白　玉	①5.8	②3.8	③0.2	④滑石	37
209	白　玉	①6.1	②2.2	③0.1	④滑石	38
210	白　玉	①5.2	②4.5	③0.2	④滑石	39
211	白　玉	①5.4	②3.5	③0.2	④滑石	40
212	白　玉	①7.1	②4.8	③0.4	④滑石	45
213	白　玉	①5.3	②4.5	③0.2	④滑石	46
214	白　玉	①6.0	②3.2	③0.2	④滑石	47
215	白　玉	①5.4	②4.5	③0.2	④滑石	48
216	白　玉	①5.1	②2.6	③0.2	④滑石	49
217	白　玉	①6.6	②3.5	③0.2	④滑石	51
218	白　玉	①5.8	②4.0	③0.2	④滑石	52
219	白　玉	①6.4	②4.1	③0.3	④滑石	56
220	白　玉	①6.1	②3.2	③0.2	④滑石	59
221	白　玉	①5.7	②4.0	③0.2	④滑石	60
222	白　玉	①6.6	②4.1	③0.4	④滑石	履土
223	白　玉	①5.9	②3.8	③0.2	④滑石	履土
224	白　玉	①5.8	②4.1	③0.2	④滑石	履土
225	白　玉	①5.1	②4.0	③0.2	④滑石	履土
226	白　玉	①6.4	②3.6	③0.2	④滑石	履土
227	白　玉	①5.3	②4.0	③0.2	④滑石	履土
228	白　玉	①6.4	②3.3	③0.2	④滑石	履土
229	白　玉	①6.0	②3.3	③0.2	④滑石	履土
230	白　玉	①5.3	②2.2	③0.1	④滑石	履土
231	白　玉	①6.3	②4.6	③0.3	④滑石	履土
232	白　玉	①6.7	②3.6	③0.3	④滑石	履土
233	白　玉	①6.4	②3.1	③0.2	④滑石	履土
234	白　玉	①5.9	②3.8	③0.2	④滑石	履土
235	白　玉	①6.3	②4.1	③0.2	④滑石	履土
236	白　玉	①5.5	②3.6	③0.2	④滑石	履土
237	白　玉	①5.8	②2.4	③0.1	④滑石	履土
238	白　玉	①5.0	②2.3	③0.2	④滑石	履土
239	白　玉	①5.2	②4.2	③0.2	④滑石	履土
240	白　玉	①5.6	②3.3	③0.2	④滑石	履土
241	白　玉	①5.8	②3.2	③0.1	④滑石	履土
242	白　玉	①6.2	②4.4	③0.2	④滑石	履土
243	白　玉	①6.6	②3.3	③0.2	④滑石	履土
244	白　玉	①5.3	②3.6	③0.2	④滑石	履土
245	白　玉	①5.3	②3.1	③0.1	④滑石	履土
246	白　玉	①6.1	②2.9	③0.2	④滑石	履土
247	白　玉	①6.0	②3.3	③0.2	④滑石	履土
248	白　玉	①6.0	②4.6	③0.2	④滑石	履土
249	白　玉	①5.2	②4.1	③0.1	④滑石	履土
250	白　玉	①5.3	②4.6	③0.2	④滑石	履土
251	白　玉	①5.7	②2.0	③—	④滑石	履土
252	白　玉	①6.1	②3.8	③0.2	④滑石	履土
253	白　玉	①5.5	②3.8	③0.1	④滑石	履土
254	白　玉	①5.9	②3.8	③0.2	④滑石	履土
255	白　玉	①6.6	②3.8	③0.2	④滑石	履土
256	白　玉	①6.3	②2.9	③0.1	④滑石	履土
257	白　玉	①6.1	②4.8	③0.3	④滑石	履土
258	白　玉	①6.6	②3.6	③0.2	④滑石	履土
259	白　玉	①6.4	②3.5	③0.2	④滑石	履土
260	白　玉	①6.3	②4.1	③0.2	④滑石	履土
261	白　玉	①6.4	②3.1	③0.2	④滑石	履土
262	白　玉	①6.0	②4.6	③0.2	④滑石	履土
263	白　玉	①5.4	②4.6	③0.2	④滑石	履土
264	白　玉	①6.1	②3.3	③0.2	④滑石	履土
265	白　玉	①5.9	②3.4	③0.2	④滑石	履土
266	白　玉	①5.8	②3.3	③0.1	④滑石	履土
267	白　玉	①7.4	②4.7	③0.4	④滑石	履土
268	白　玉	①6.0	②3.8	③0.2	④滑石	履土
269	白　玉	①5.6	②5.5	③0.3	④滑石	履土
270	白　玉	①5.8	②3.6	③0.2	④滑石	履土
271	白　玉	①6.0	②3.8	③0.2	④滑石	履土

番号	器　　形	①直径	②最大厚	③重さ	④石材	登録番号
274	臼　玉	①5.9	②4.1	③0.2	④滑石	履土
275	臼　玉	①5.2	②3.0	③0.1	④滑石	履土
276	臼　玉	①5.8	②4.0	③0.2	④滑石	履土
277	臼　玉	①5.3	②3.6	③0.2	④滑石	履土
278	臼　玉	①5.3	②2.8	③0.1	④滑石	履土
279	臼　玉	①6.2	②3.7	③0.3	④滑石	履土
280	臼　玉	①5.7	②4.9	③0.2	④滑石	履土
281	臼　玉	①5.8	②3.6	③0.2	④滑石	履土
282	臼　玉	①5.7	②3.5	③0.2	④滑石	履土
283	臼　玉	①6.6	②3.1	③0.2	④滑石	履土
284	臼　玉	①5.6	②4.1	③0.2	④滑石	履土
285	臼　玉	①6.0	②3.2	③0.2	④滑石	履土
286	臼　玉	①5.2	②2.7	③0.1	④滑石	履土
287	臼　玉	①6.1	②4.1	③0.2	④滑石	履土
288	臼　玉	①5.8	②2.8	③0.1	④滑石	履土
289	臼　玉	①5.6	②4.3	③0.2	④滑石	履土
290	臼　玉	①7.6	②4.3	③0.4	④滑石	履土
291	臼　玉	①6.4	②3.7	③0.2	④滑石	履土
292	臼　玉	①6.4	②4.2	③0.2	④滑石	履土
293	臼　玉	①6.2	②3.5	③0.2	④滑石	履土
294	臼　玉	①6.1	②3.7	③0.2	④滑石	履土
295	臼　玉	①5.8	②4.0	③0.2	④滑石	履土
296	臼　玉	①5.5	②5.3	③0.2	④滑石	履土
297	臼　玉	①6.6	②3.7	③0.3	④滑石	履土
298	臼　玉	①5.9	②4.0	③0.2	④滑石	履土
299	臼　玉	①5.8	②4.4	③0.2	④滑石	履土
300	臼　玉	①6.0	②3.5	③0.2	④滑石	履土
301	臼　玉	①5.8	②3.3	③0.2	④滑石	履土
302	臼　玉	①5.5	②4.4	③0.2	④滑石	履土

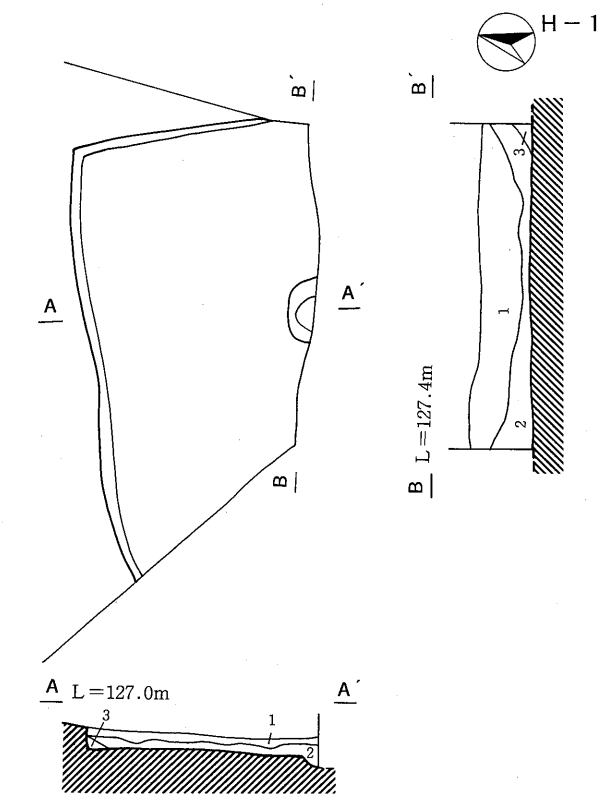
番号	器　　形	①直径	②最大厚	③重さ	④石材	登録番号
303	臼　玉	①7.3	②4.0	③0.3	④滑石	履土
304	臼　玉	①6.0	②2.2	③0.1	④滑石	履土
305	臼　玉	①6.4	②3.4	③0.2	④滑石	履土
306	臼　玉	①6.1	②4.4	③0.2	④滑石	履土
307	臼　玉	①5.9	②4.5	③0.2	④滑石	履土
308	臼　玉	①5.8	②3.6	③0.1	④滑石	履土
309	臼　玉	①5.9	②3.8	③0.2	④滑石	履土
310	臼　玉	①5.2	②5.0	③0.2	④滑石	履土
311	臼　玉	①5.8	②2.8	③0.1	④滑石	履土
312	臼　玉	①5.5	②3.1	③0.1	④滑石	履土
313	臼　玉	①6.1	②4.3	③0.3	④滑石	履土
314	臼　玉	①6.4	②3.7	③0.2	④滑石	履土
315	臼　玉	①5.5	②5.1	③0.2	④滑石	履土
316	臼　玉	①7.4	②3.4	③0.2	④滑石	履土
317	臼　玉	①6.2	②4.3	③0.3	④滑石	履土
318	臼　玉	①7.5	②4.0	③0.3	④滑石	履土
319	臼　玉	①6.9	②4.9	③0.2	④滑石	履土
320	臼　玉	①5.4	②3.3	③0.1	④滑石	履土
321	臼　玉	①6.0	②3.0	③0.1	④滑石	履土
322	臼　玉	①6.4	②2.6	③0.2	④滑石	履土
323	臼　玉	①5.7	②4.3	③0.2	④滑石	履土
324	臼　玉	①6.4	②3.4	③0.1	④滑石	履土
325	臼　玉	①5.7	②4.3	③0.2	④滑石	履土
326	臼　玉	①5.9	②4.1	③0.2	④滑石	履土
327	臼　玉	①6.0	②3.3	③0.2	④滑石	履土
328	臼　玉	①6.4	②3.6	③0.2	④滑石	履土
329	臼　玉	①5.7	②3.4	③0.2	④滑石	履土
330	臼　玉	①6.4	②4.1	③0.2	④滑石	履土
331	管　玉	①7.0	②29.8	③2.6	④碧玉	41

註）1．出土位置は171がＡ区Ｈ－８からで、そのほかはすべてＡ区Ｈ－12出土である。
2．観察項目は、ガラス小玉については①直径②最大厚③重さ④色調の順、管玉については①直径②全長③重さ④石材の順で記載した。
3．大きさの単位は㎜、ｇである。

Tab. 15　石製品・鉄製品観察表

番号	出土位置	器　　形	①最大長	②最大幅	③最大厚	④重さ	⑤残存	⑥石材	登録番号	備　　考
332	Ｈ－12	紡錘車	①4.6	②4.5	③1.0	④32.6	⑤完形	⑥滑石	43	
333	Ｈ－12	紡錘車	①3.9	②4.0	③1.7	④38.8	⑤完形	⑥滑石	50	孔に炭化物
334	Ｈ－12	紡錘車	①4.5	②4.6	③1.7	④52.5	⑤完形	⑥滑石	63	
335	Ｈ－12	紡錘車	①4.8	②4.8	③1.0	④36.2	⑤完形	⑥滑石	44	
336	Ｈ－12	紡錘車	①4.1	②4.1	③1.6	④37.8	⑤完形	⑥滑石	53	孔に炭化物
337	Ｈ－12	刀子	①(5.3)	②1.2	③0.1	④2.2	⑤破片		42	
338	Ｈ－６	磨石	①17.8	②18.4	③4.2	④2630	⑤不明	⑥頁岩	7	
339	Ｈ－10	砥石	①13.4	②6.8	③4.7	④324	⑤不明	⑥粗粒安山岩（４面使用）	1	
340	Ｈ－12	砥石	①(14.3)	②8.0	③4.9	④750	⑤不明	⑥粗粒安山岩（４面使用）	8、58	
341	Ｈ－12	砥石	①(9.2)	②3.2	③2.7	④129.8	⑤不明	⑥粗粒安山岩（４面使用）	120	
342	Ｈ－13	砥石	①(9.1)	②4.7	③3.7	④267.2	⑤不明	⑥粗粒安山岩（４面使用）	17	
343	Ｈ－８	剝片	①4.3	②2.7	③0.1	④10.6	⑤完形	⑥頁岩	履土	
344	Ｈ－12	打製石斧	①8.3	②6.2	③2.0	④103.0	⑤完形	⑥頁岩	85	
345	Ｈ－12	打製石斧	①10.7	②8.5	③2.2	④207.9	⑤完形	⑥頁岩	55	
346	Ｄ区X89Y108	石鏃	①1.9	②1.3	③0.3	④0.7	⑤完形	⑥石英	－	凹基無茎鏃
347	Ｄ区Ｈ－１	石鏃	①2.2	②1.9	③0.3	④1.2	⑤完形	⑥頁岩	履土	凹基無茎鏃
348	Ｈ－12	石鏃	①2.7	②1.4	③0.4	④1.2	⑤完形	⑥頁岩	54	平基有茎鏃

註）1．出土位置で断りのないものはすべてＡ区出土である。
2．石器・石製品の観察項目は、①最大長②最大幅③最大厚④重さ⑤残存⑥石材の順で記載した。
3．鉄製品の観察項目は、①最大長②最大幅③最大厚④重さ⑤残存の順で記載した。
4．大きさの単位はcm、ｇであり、現存値を（　）、復元値［　］で示した。その他の小片については所属部位を記載した。

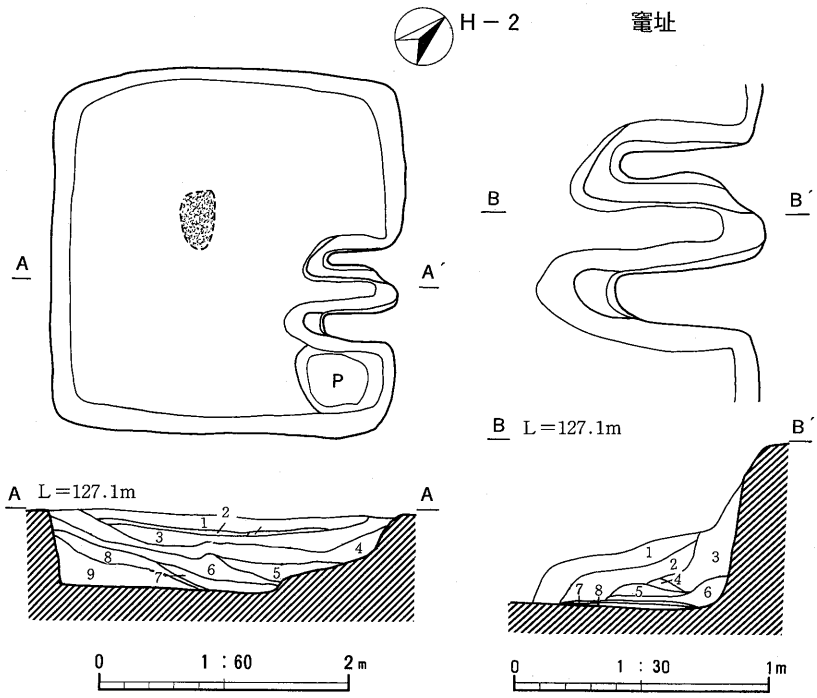


H－1号住居址層序説明

1層　黒褐色細砂層。粘性・締まりあり。
　　Ｈｒ－ＦＰを５％含む。
2層　灰褐色細砂層。粘性・締まりあり。
　　Ｈｒ－ＦＰを１％含むロームへの漸移層。
3層　にぶい黄褐色微砂層。
　　粘性・締まりあり。ローム土主体。

H－2号住居址層序説明

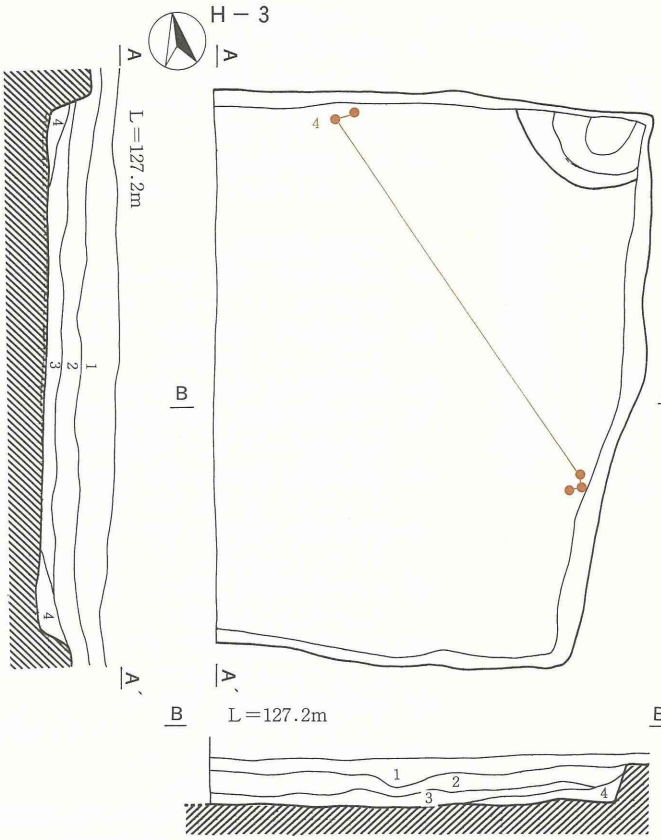
1層　灰褐色細砂層。粘性・締まりなし。
　　炭化物３％、ローム・Ｈｒ－ＦＰを１％含む。
2層　灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。
　　ロームブロックを10％含む。
2a層　黒褐色細砂層。粘性・締まりあり。
3層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりややあり。
　　径３㎝大のロームブロックを40％含む。
4層　褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。
　　ロームブロックを５％、Ｈｒ－ＦＰを３％含む。
5層　褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。
　　ロームブロックを25％、Ｈｒ－ＦＰを１％含む。
6層　にぶい褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。
　　ロームブロックを10％含む。
7層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりなし。
　　ロームブロックを50％含む。
8層　暗褐色細砂層。粘性・締まりなし。
　　ロームブロックを５％、Ｈｒ－ＦＰを１％含む。
9層　褐色細砂層。粘性・締まりなし。
　　ロームブロックを３％含む。



H－2号住居址竈址層序説明

1層　黒褐色細砂層。
　　粘性・締まりあり。
　　炭化物・ローム粒子
　　を５％含む。
2層　にぶい黄褐色細砂層。
　　粘性・締まりなし。
　　焼土ブロックを多量
　　に含む。
3層　明黄褐色細砂層。
　　粘性なし、締まりや
　　やあり。ローム土主体。
4層　明赤褐色細砂層。
　　粘性・締まりなし。
　　焼土。
5層　灰褐色微砂層。
　　粘性強い、締まりやや
　　あり。白色の粘土層。
6層　明黄褐色細砂層。
　　粘性なし、締まりやや
　　あり。焼土ブロック
　　・粘土ブロックを少々
　　含むローム土主体。
7層　黒色粗砂層。
　　粘性・締まりなし。
　　炭。
8層　暗赤褐色細砂層。
　　粘性・締まりなし。
　　焼土。

Fig. 12　A区　H－1・2号住居址



H－3

H－3号住居址層序説明

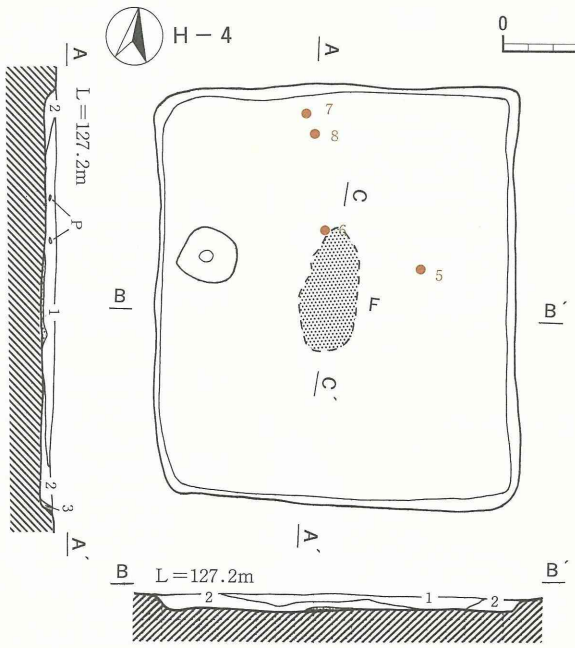
1層　黒褐色細砂層。粘性・締まりややあり。
　　Ｈｒ－ＦＰを10％含む。

2層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。
　　Ｈｒ－ＦＰを３％、鉄分凝結ブロックを含む。

3層　暗褐色細砂層。粘性・締まりあり。
　　鉄分凝結ブロックを多く含む。

4層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりあり。

H－4



0　1：60　2m

H－4号住居址層序説明

1層　黒褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。
　　径５㎜大のロームブロックを１％、Ｈｒ－ＦＰ
　　・焼土ブロックをわずかに含む。

2層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。
　　ローム土主体。

3層　明褐色微砂層。粘性あり、締まり強い。ローム層。

H－4号住居址炉址層序説明

1層　暗赤褐色細砂層。粘性・締まりなし。焼土。

2層　暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。
　　焼土ブロック・炭化物・Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。

3層　にぶい赤褐色細砂層。粘性・締まりややあり。
　　焼土ブロック・炭化物を５％含む炭の層。

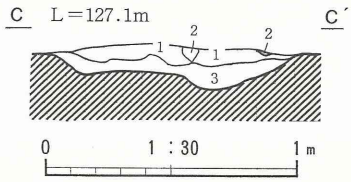
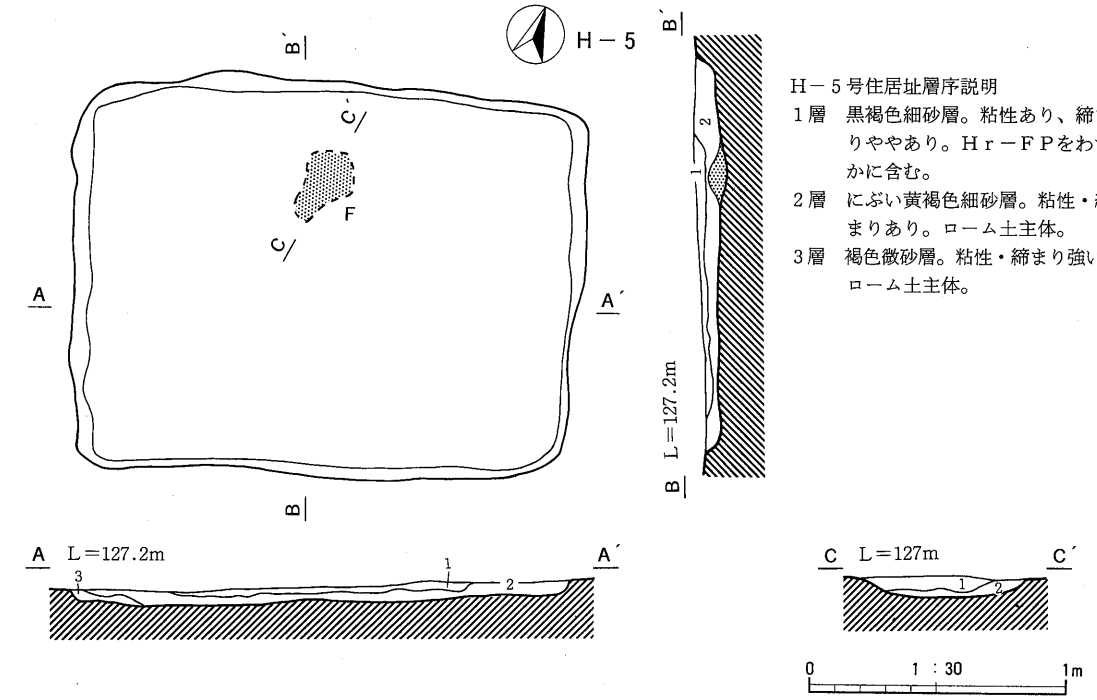


Fig. 13　A区　H－3・4号住居址

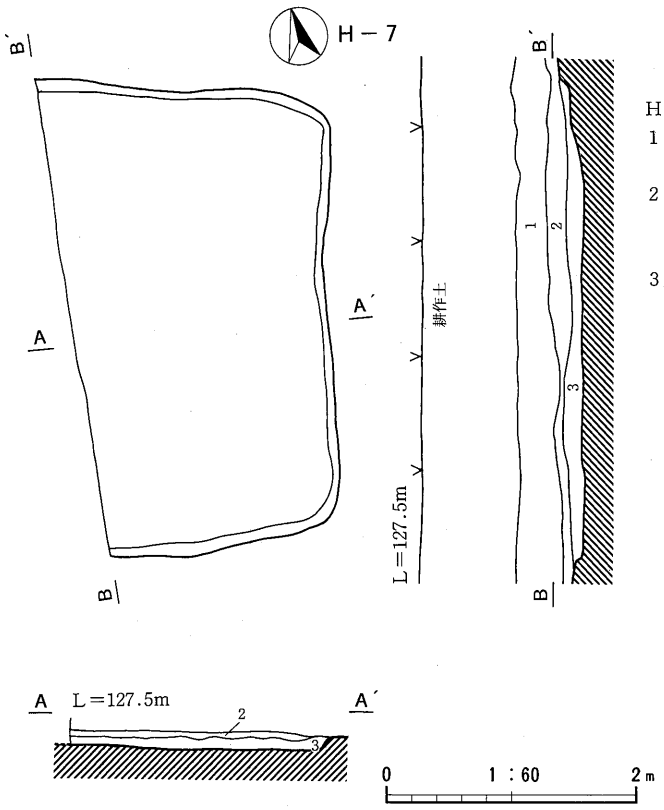


H－5号住居址層序説明

1層　黒褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。

2層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。ローム土主体。

3層　褐色微砂層。粘性・締まり強い。ローム土主体。



H－7号住居址層序説明

1層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。Ａｓ－Ｃを5％含む。

2層　黒褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。Ａｓ－Ｃを2％、ローム粒子を3％、Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。

3層　黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム粒子を5％、Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。

Fig. 14　A区　H－5・7号住居址

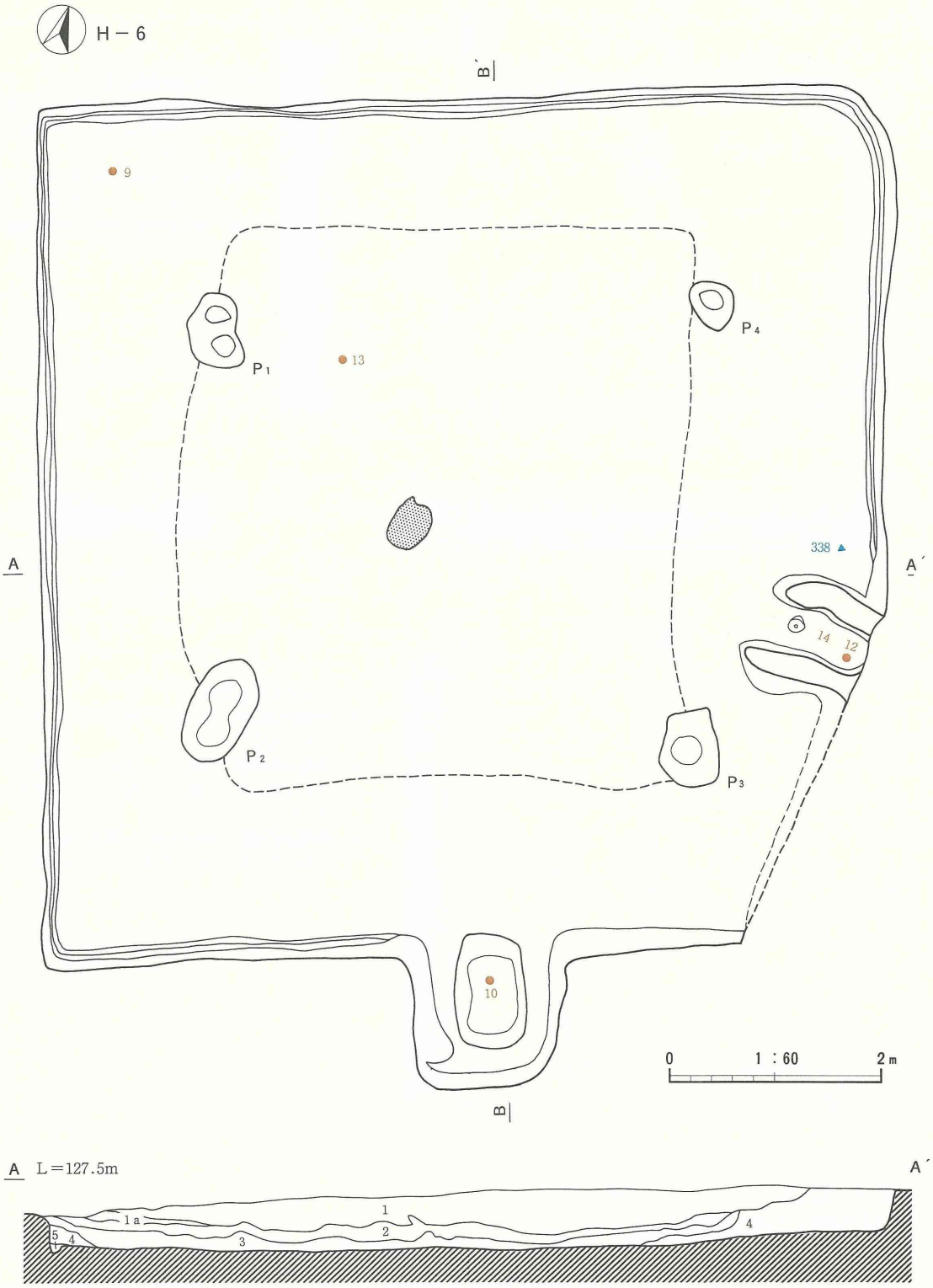
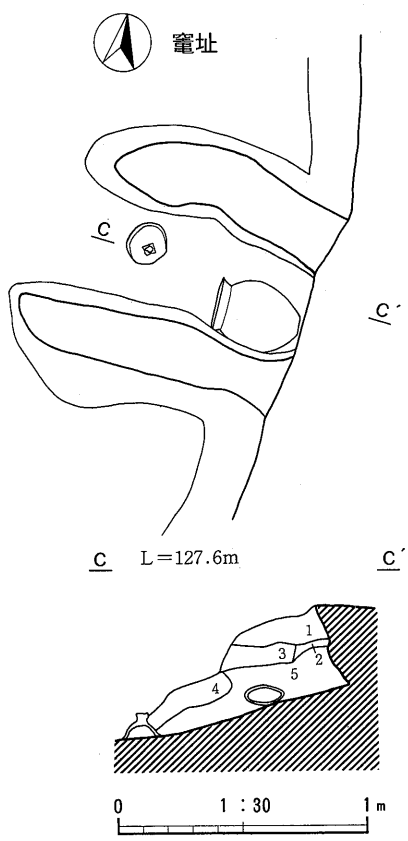


Fig. 15　A区　H－6号住居址



H－６号住居址竈址層序説明

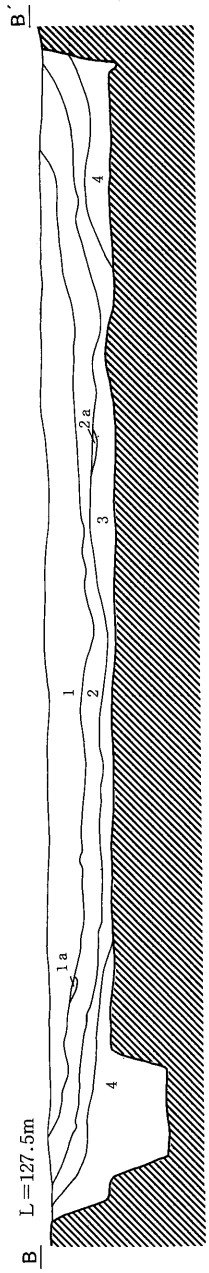
１層　灰黄褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。焼土ブロック・ローム粒子を２％、炭化物をわずかに含む。

２層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックを２％、ロームブロックを３％含む。

３層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。径５～10㎜のロームブロックを３％、焼土ブロック・炭化物を１％含む。

４層　灰黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。径10㎜のロームブロックを３％、焼土・炭化物を１％含む天井に掛けた粘土が落ちた層。

５層　にぶい黄褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。焼土ブロックを３％、白色粘土を多量に含む。



H－６号住居址層序説明

１層　黒褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。Ｈｒ－ＦＰを５％含む。

1a層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。Ｈｒ－ＦＰを２％、ローム粒子を１％含む。

２層　にぶい褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。ロームブロックを５％、Ｈｒ－ＦＰ粒子を含む。

2a層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。

３層　にぶい褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。ロームブロックを７％含む。

3a層　にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。ロームブロックを12～15％含む。

４層　にぶい褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。ロームブロックを３％含む。

５層　にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。ロームブロックを10％含む。

Fig. 16　A区　H－６号住居址

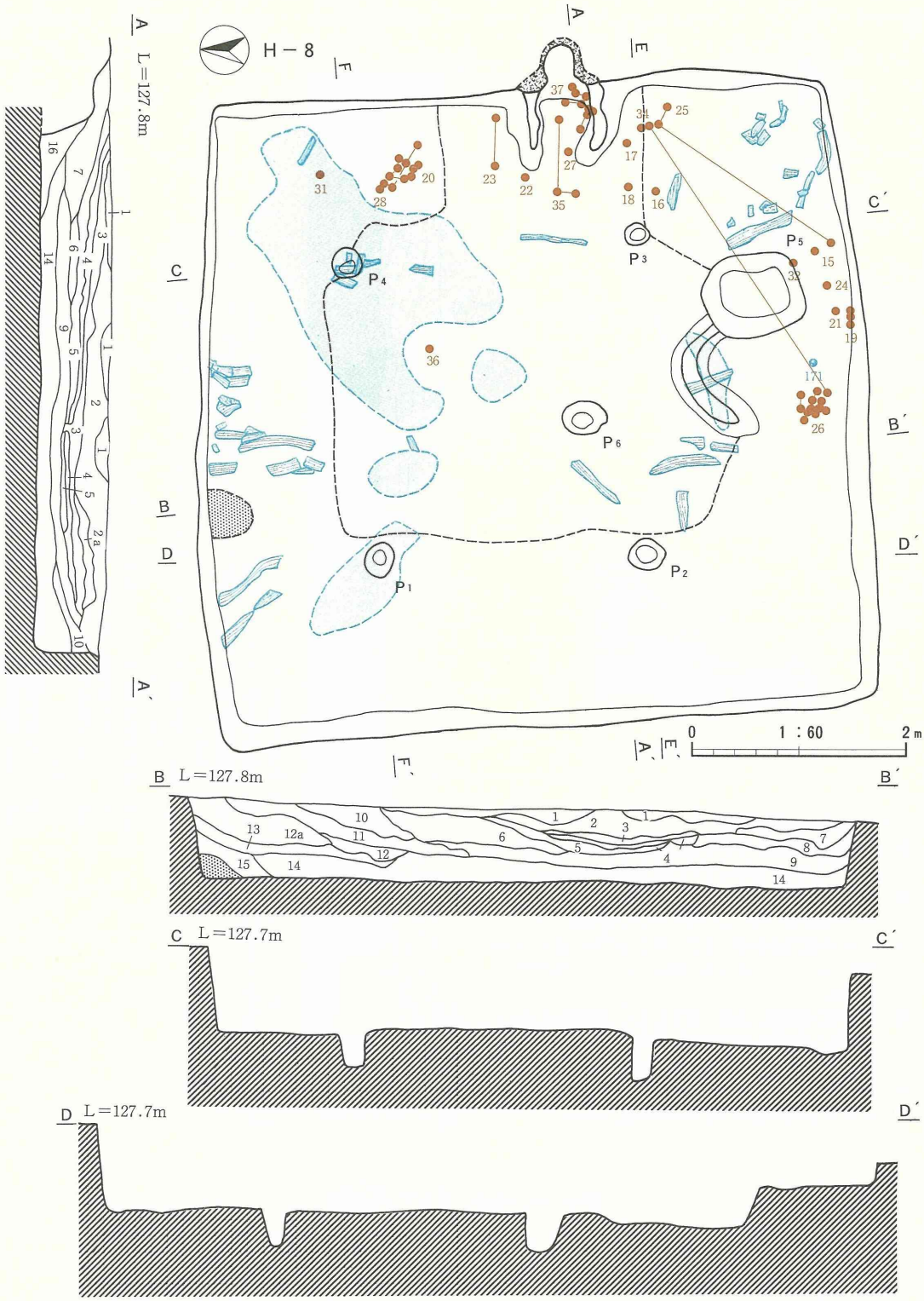


Fig. 17　A区　H－8号住居址

H－8号住居址竈址層序説明

1層　にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。鉄分凝結を5％含む。
2層　褐灰色微砂層。粘性・締まり強い。粘土。
3層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子・焼土を3％含む。
4層　明赤褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。炭化物を含む焼土主体の層。
5層　灰褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。焼土粒子を5％含むローム漸移層。
6層　明褐灰色微砂層。粘性強い、締まりあり。ロームを5％含む粘土主体の層。
7層　褐灰色細砂層。粘性あり、締まりややあり。粘土・焼土を3％含む。
8層　明褐灰色微砂層。粘性・締まり強い。粘土。下部に明赤褐色の焼土あり。
9層　黒色粗砂層。粘性・締まりなし。灰。

Fig. 18　A区　H－8号住居址

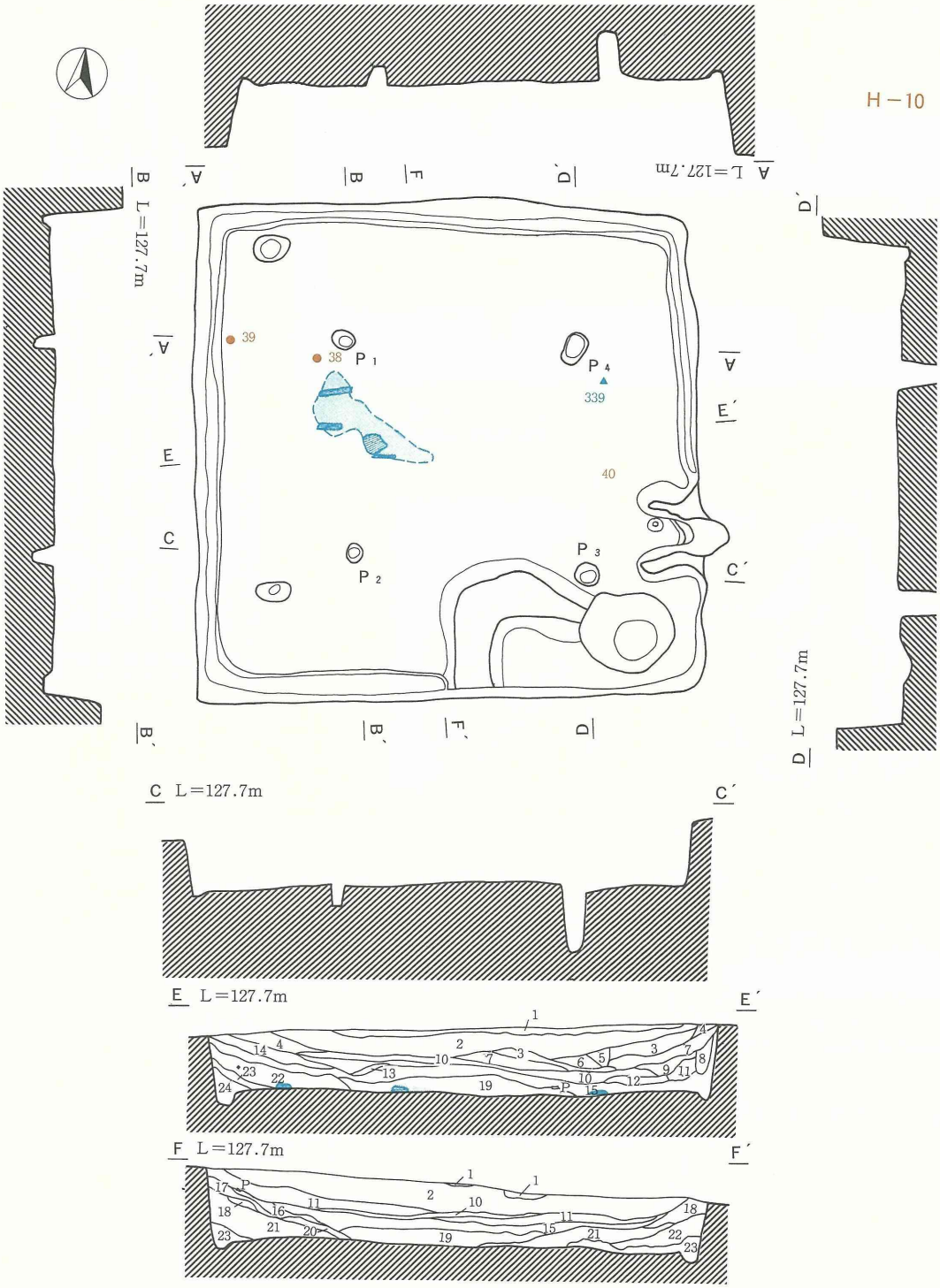
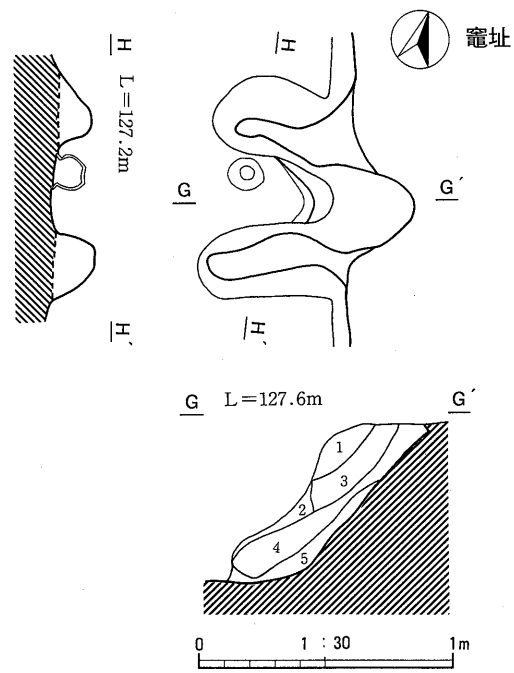


Fig. 19　A区　H－10号住居址



H－10号住居址竈址層序説明

1層　褐灰色微砂層。粘性・締まりあり。焼土粒子を３％、粘土ブロックを含む。

2層　褐灰色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土粒子を１％含む。

3層　にぶい黄褐色微砂層。粘性・締まりあり。鉄分凝結を３％、焼土粒子・粘土ブロックを１％含む。

4層　灰黄褐色微砂層。粘性・締まりあり。焼土粒子７％、粘土ブロックを３％含む。

5層　褐灰色粗砂層。粘性・締まりなし。灰主体。

H－９号住居址層序説明

1層　黒褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。Ａｓ－Ｃを７％、Ｈｒ－ＦＰを２％含む。

2層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。Ａｓ－Ｃを５％、Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。

3層　にぶい黄褐色微砂層。粘性あり、締まりなし。ローム粒子をわずかに含む。

H－９号住居址炉址層序説明

1層　暗赤褐色細砂層。粘性・締まりなし。焼土。

2層　暗褐色細砂層。粘性あり、締まり強い。焼土粒子をわずかに含む。

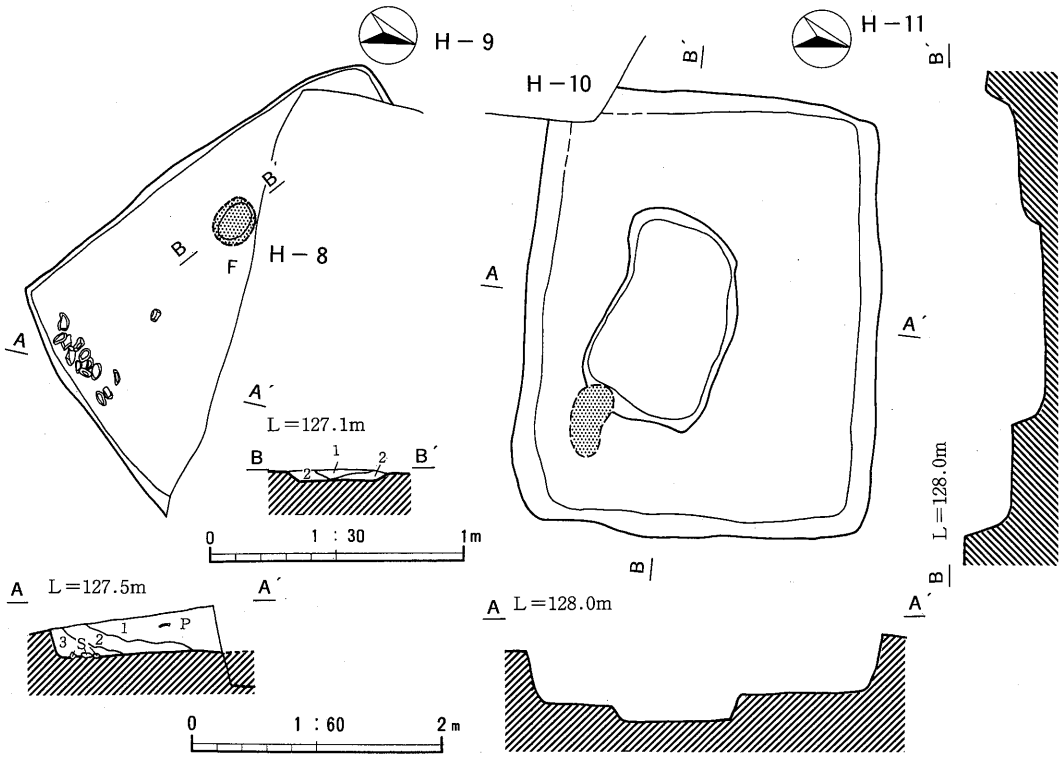
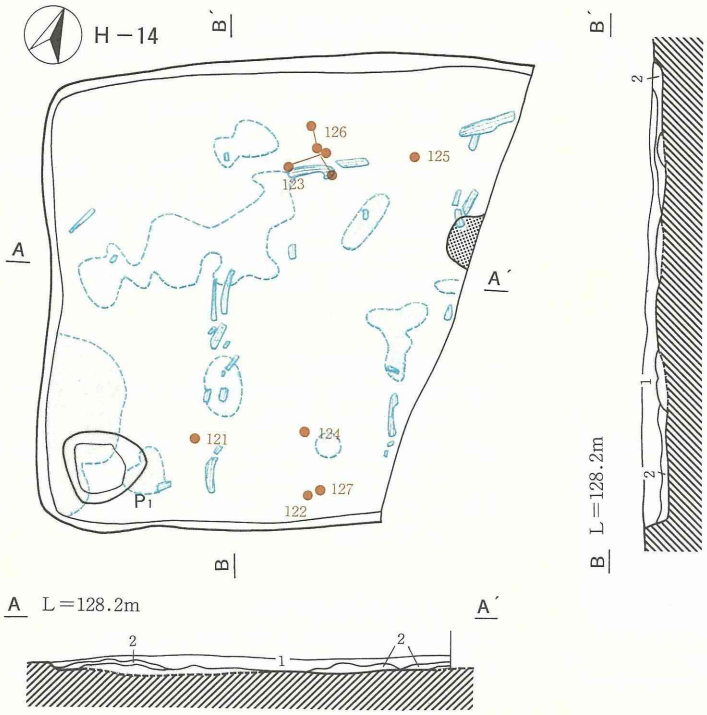
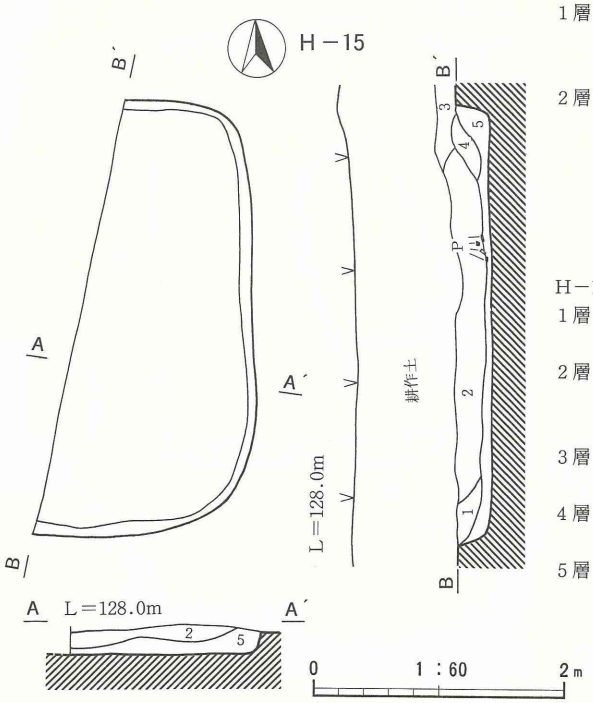


Fig. 20　A区　H－９・10・11号住居址





H－14号住居址層序説明

1層　暗褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。Ａｓ－Ｃを３％、径0.5～１cmのロームブロックを３％、炭化物・Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。

2層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。径１cm大のロームブロックを５％、　　炭化物を５％、焼土ブロックを１％含む。

H－15号住居址層序説明

1層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。Ａｓ－Ｃを２％含む。

2層　黒褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。Ａｓ－Ｃを２％、Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。部分的にローム土主体の土が入る。

3層　褐色細砂層。粘性・締まりあり。Ａｓ－Ｃをわずかに含む。

4層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。Ａｓ－Ｃ・ローム粒子をわずかに含む。

5層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。ローム土主体。

Fig. 21　Ａ区　Ｈ－14・15号住居址

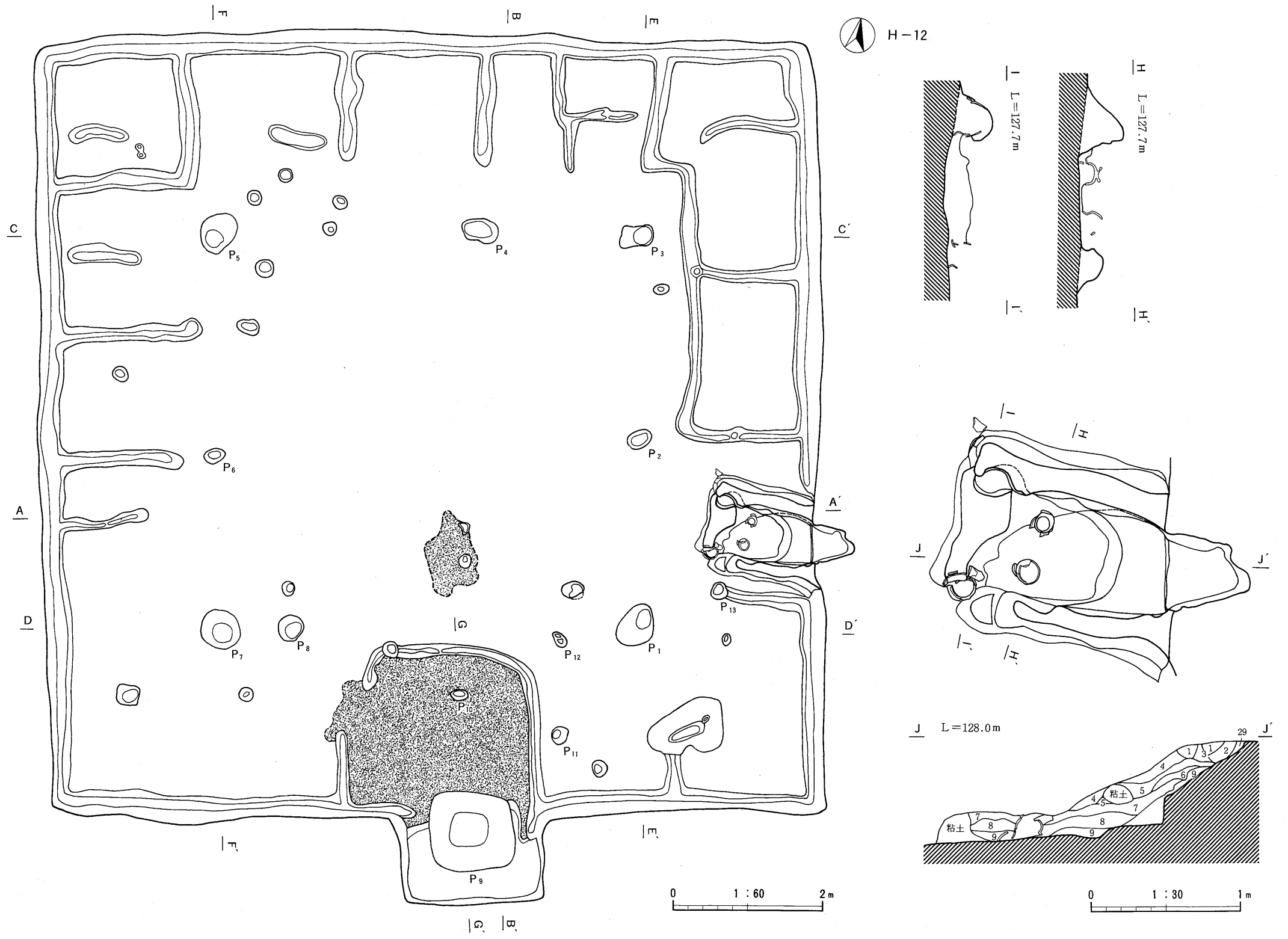


Fig.22 A区H－12号住居址

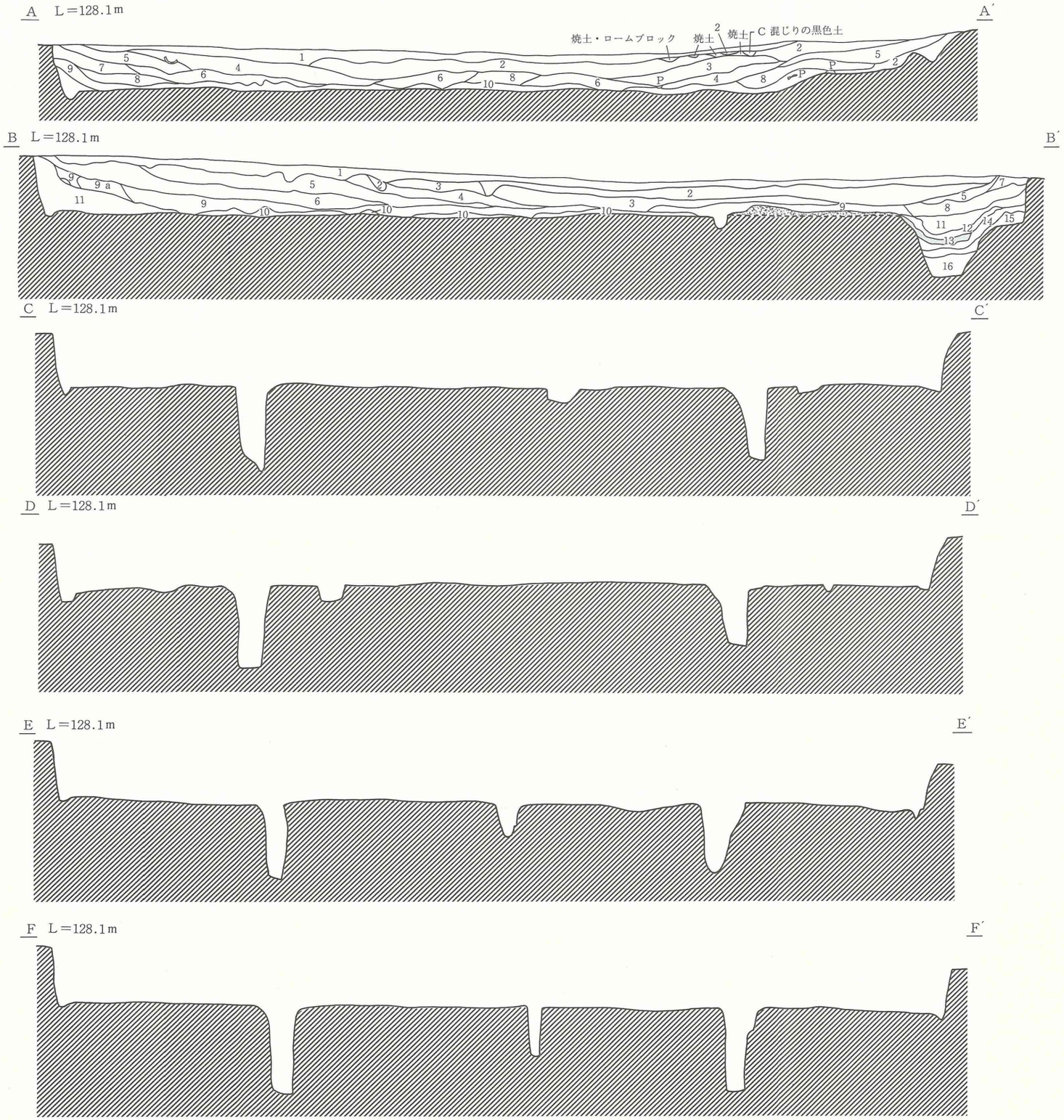
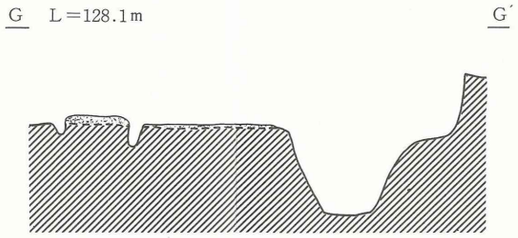


Fig.23 A区H－12号住居址



H－12号住居址層序説明

1層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりなし。As－Cを3％、Hr－FPを1％含む。

2層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりなし。Hr－FPをわずかに、ロームブロックを5％含む。

3層　にぶい褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ロームブロックを3％、焼土ブロックを1％含む。ローム主体の土がまだらに入る。

4層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ロームブロックを3％、Hr－FP・鉄分凝結をわずかに含む。

5層　にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。ロームブロックを5％含む。

6層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。焼土ブロックを3％、炭化物を多数含む。

7層　にぶい黄褐色細砂層。粘性あり、締まりなし。鉄分凝結・ローム粒子をわずかに含む。

8層　灰黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ロームブロックを2％、鉄分凝結をわずかに含む。

9層　灰黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。炭化物を5％、焼土をわずかに含む。

9a層　灰黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。ロームブロックを15％、炭化物を5％、焼土をわずかに含む

10層　褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。炭化物を20％、焼土を7％含む。

11層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。焼土粒子を含むローム土との漸移層。

12層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。11層よりロームブロックを多く含むローム土との漸移層。

13層　黒色　炭化物　カヤの層

14層　暗褐色細砂層。粘性・締まりなし。焼土ブロックを5％、炭化物を3％含む。

15層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ロームブロックを10％、鉄分凝結をわずかに含む。

16層　明褐灰色微砂層。粘性強く、締まりあり。白色粘土層。

H－12号住居址竈址層序説明

1層　橙色微砂層。粘性なし、締まり強い。焼けた粘土。

2層　明赤褐色微砂層。粘性なし、締まり強い。焼けた粘土。

2a層　明赤褐色微砂層。粘性なし、締まり強い。鉄分凝結を含む焼けた粘土。

3層　明赤褐色微砂層。粘性なし、締まり強い。白色粘土ブロックを含む焼けた粘土。

4層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Hr－FP粒子を1％、焼土粒子を3％含む。

5層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土粒子を7％、炭粒子を3％含む。

6層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロック・ロームブロック・炭化物を含む。

7層　灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土粒子を3％、炭化物を含む。

8層　にぶい赤褐色細砂層。粘性・締まりややあり。明赤褐色の焼土ブロックを多数含む。

9層　褐灰色細砂層。粘性・締まりなし。灰主体、明赤褐色の焼土ブロックを含む。

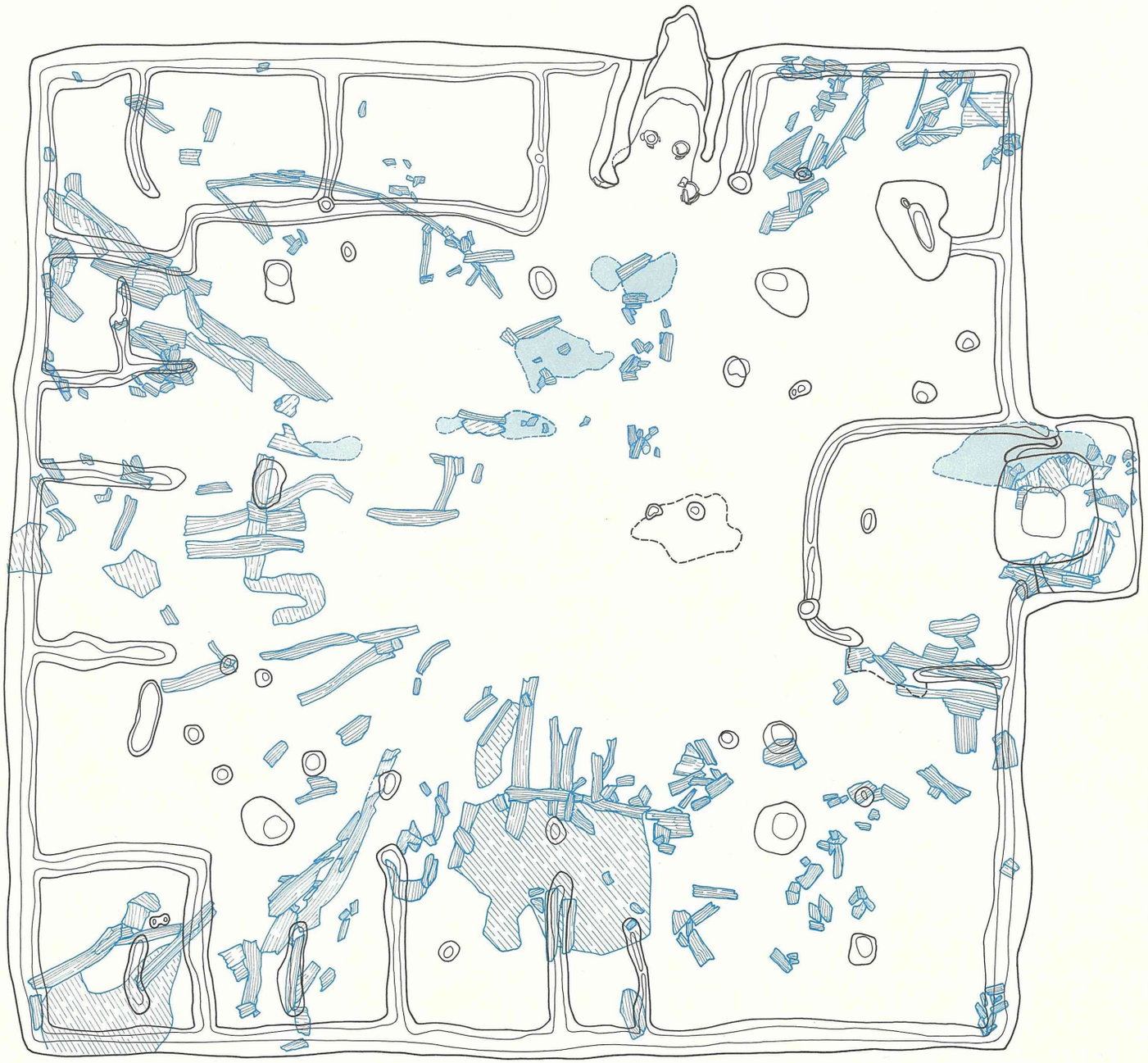


Fig.24 A区H－12号住居址　炭化物分布図

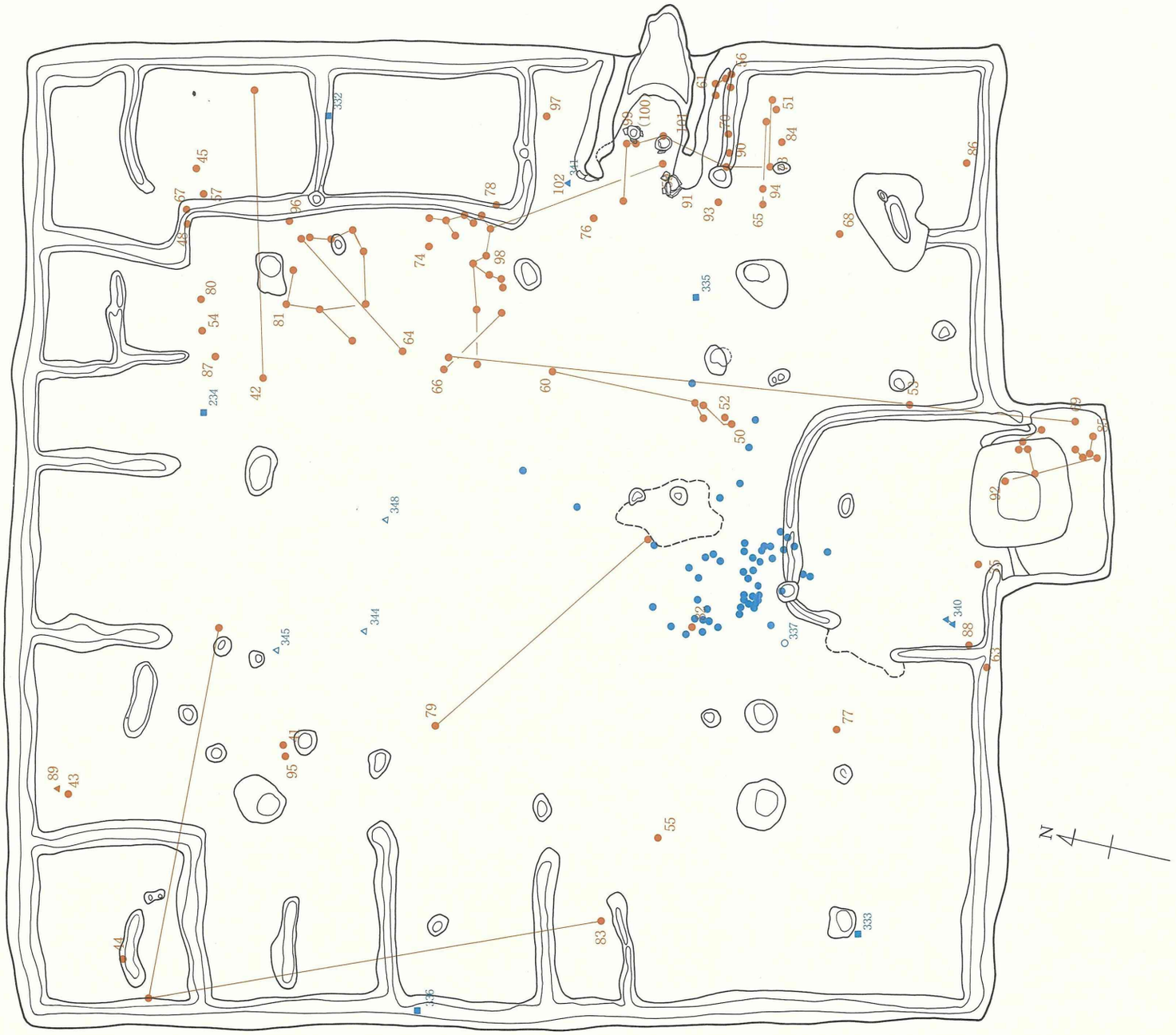


Fig.25 A区H－12号住居址　遺物分布図

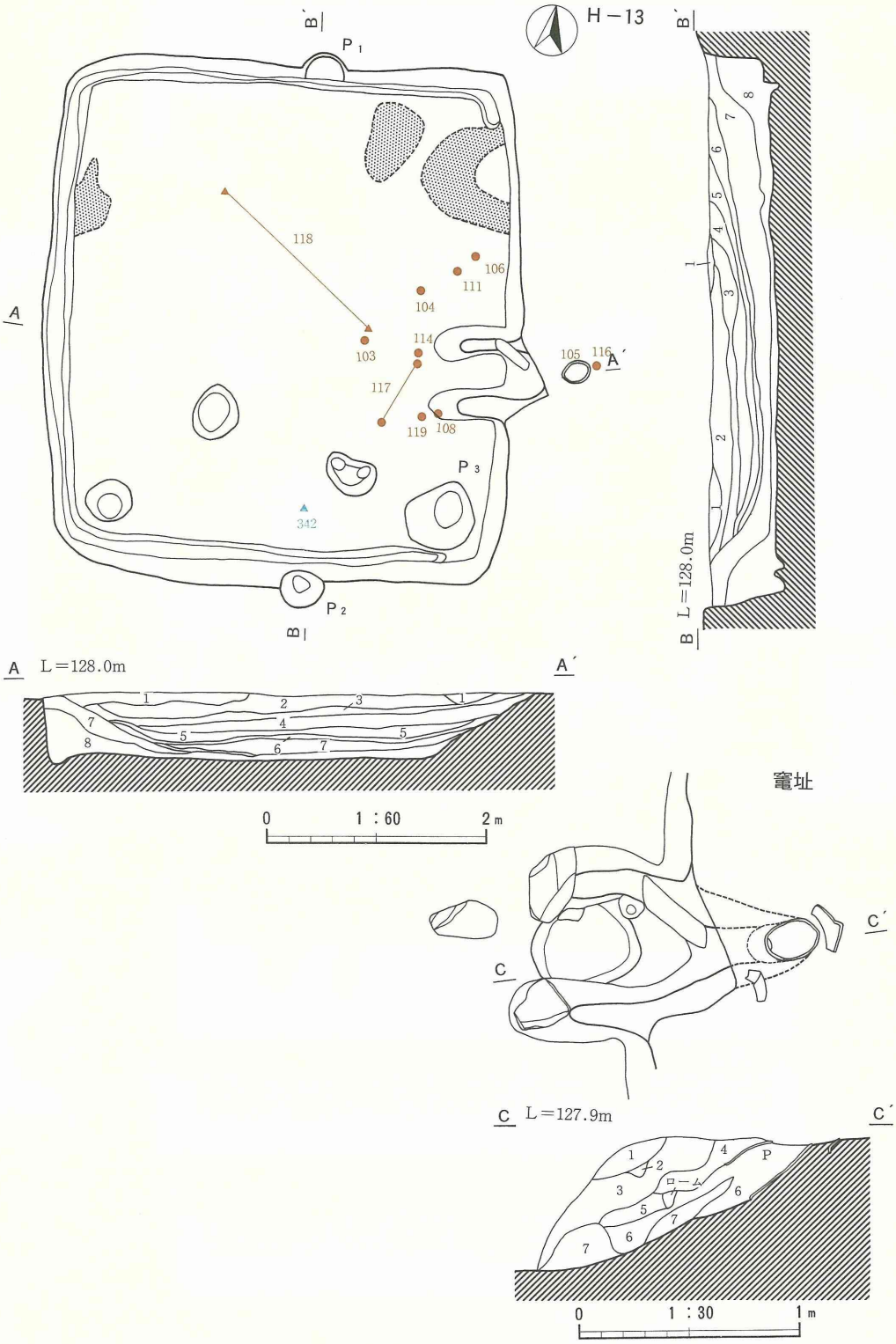


Fig. 26　A区　H－13号住居址

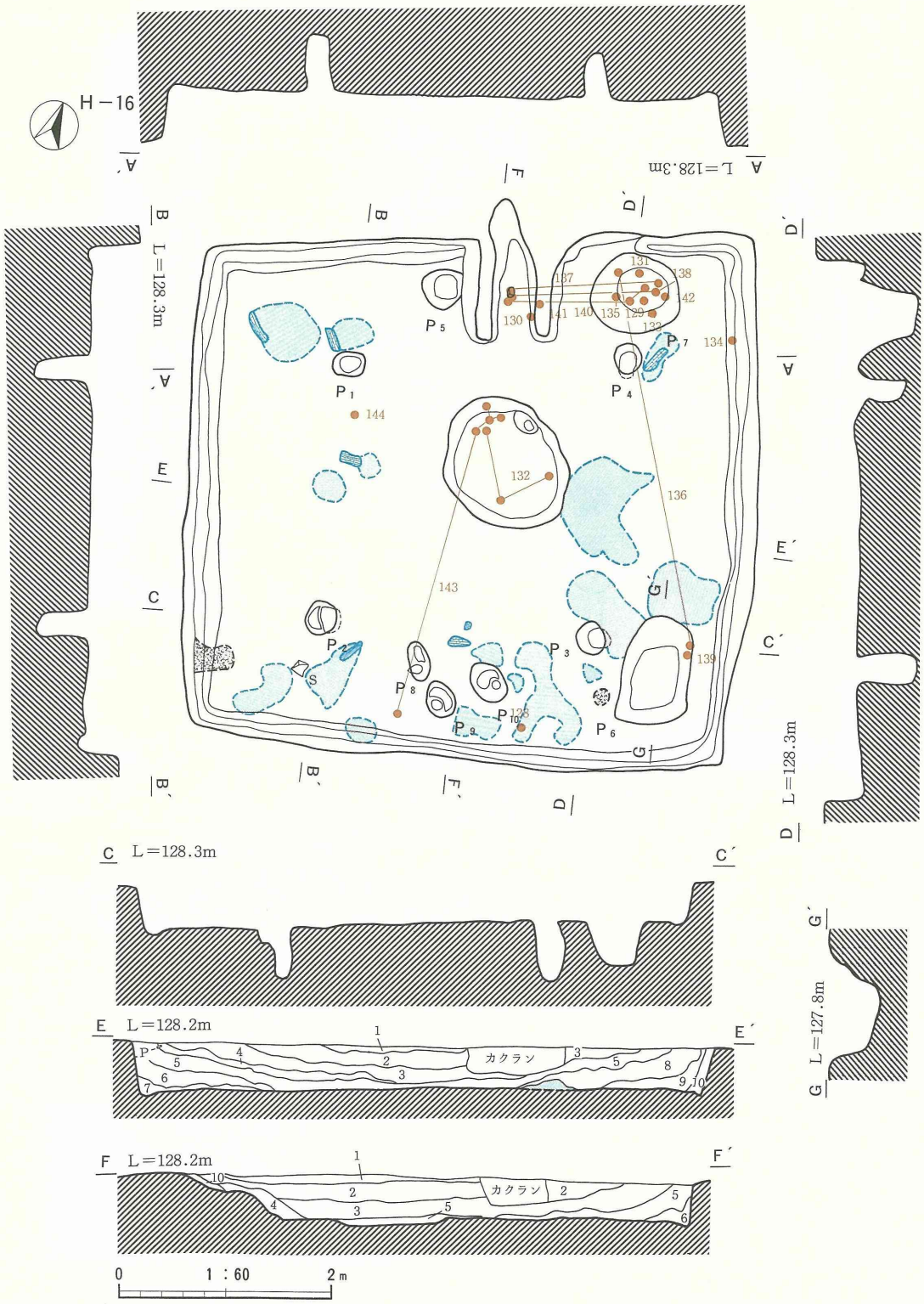
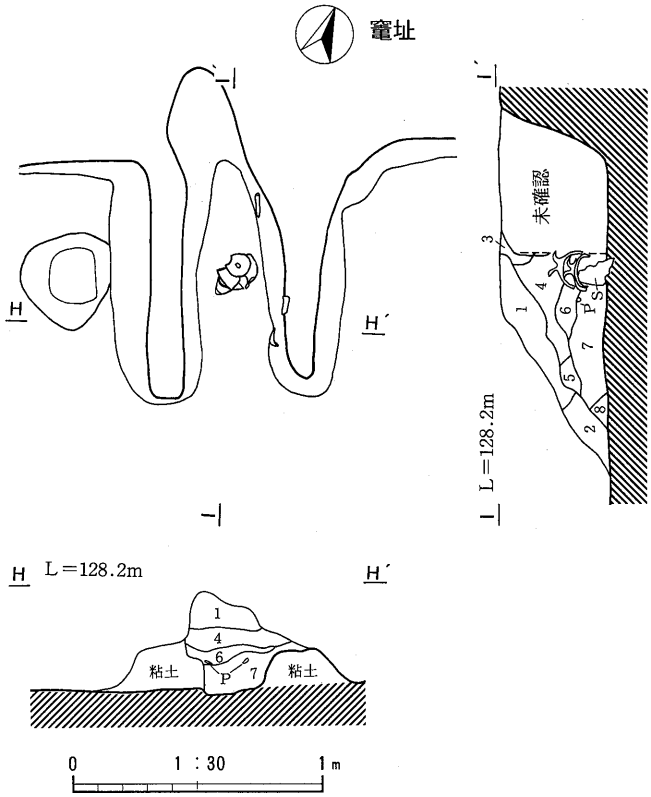


Fig. 27　A区　H－16号住居址



H－16号住居址層序説明

1層　褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。Ａｓ－Ｃ・ローム粒子を３％ふくむ。
2層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。Ａｓ－Ｃを２％、ローム粒子・Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。
3層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。Ａｓ－Ｃを１％、Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。
4層　黒褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。Ａｓ－Ｃを５％、Ｈｒ－ＦＰ・炭化物をわずかに含む。
5層　暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ｈｒ－ＦＰを２％、ロームブロックをわずかに含む。
6層　暗褐色細砂層。粘性あり、締まりなし。ローム粒子・焼土粒子をわずかに含む。
7層　にぶい黄褐色粗砂層。粘性・締まりなし。ロームブロックを７％含む。
8層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりなし。焼土粒子、ロームブロック、炭化物を３％含む。
9層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりなし。ロームブロックを１％、炭化物・焼土ブロックをわずかに含む。
10層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりなし。ロームブロックを10％、焼土ブロックをわずかに含む。

H－16号住居址竈址層序説明

1層　黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まりなし。焼土・ローム粒子を３％含む。
2層　にぶい褐色細砂層。粘性ややあり、締まりなし。焼土ブロック・ローム粒子を３％含む。
3層　明黄褐色微砂層。粘性・締まりあり。竈の天井部。
4層　にぶい褐色細砂層。粘性ややあり、締まりなし。焼土ブロック・ローム粒子を３％含む。
5層　にぶい赤褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。明赤褐色の焼土ブロックを10％含む。
6層　にぶい赤褐色細砂層。粘性・締まりややあり。明赤褐色の焼土ブロックを15％含む。
7層　にぶい橙色微砂層。粘性・締まりあり。鉄分凝結を10％、明赤褐色の焼土ブロックを15％含む。
8層　明黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム土主体。

Fig. 28　A区　H－16号住居址

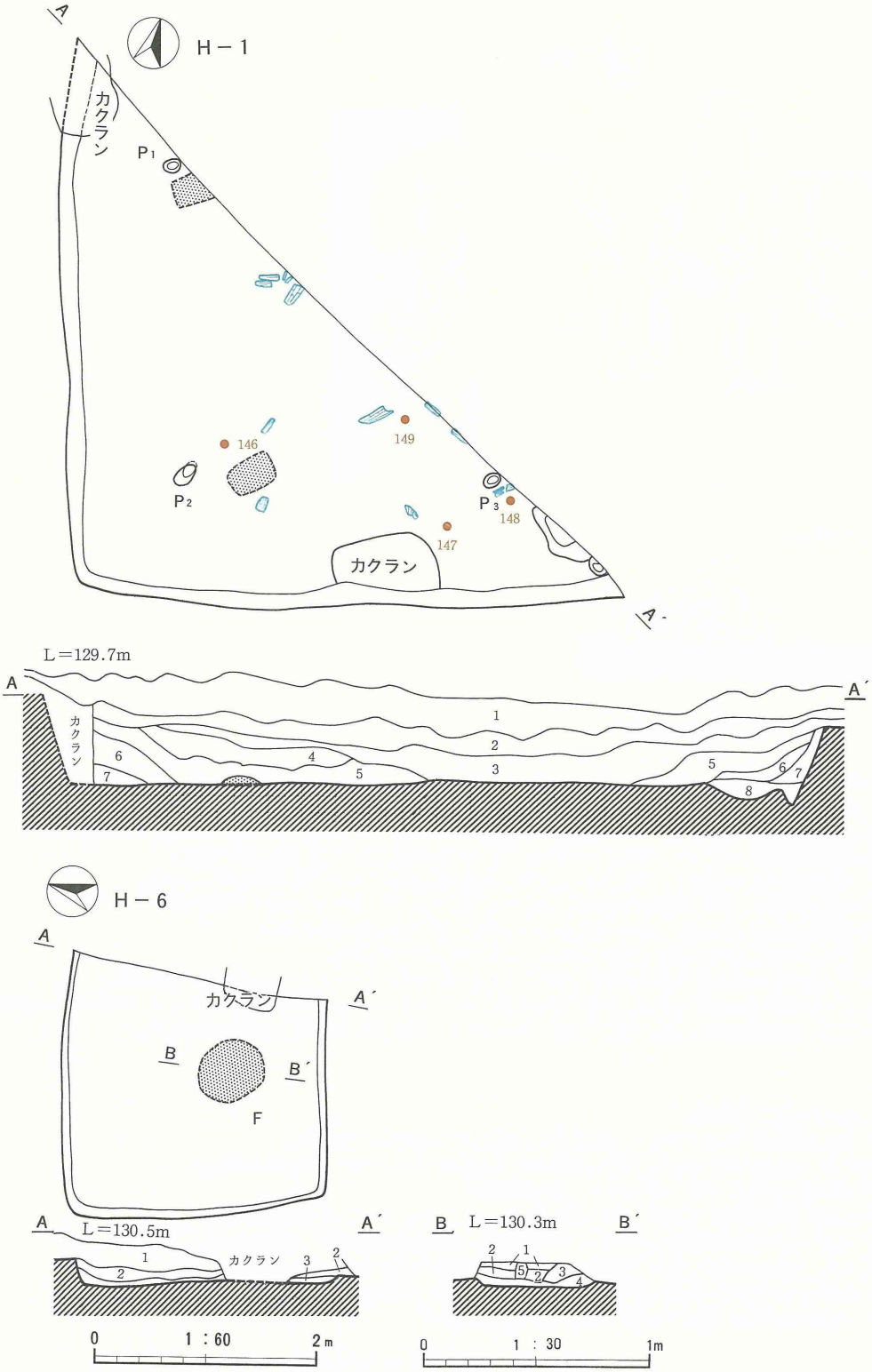


Fig. 29　D区　H－1・6号住居址

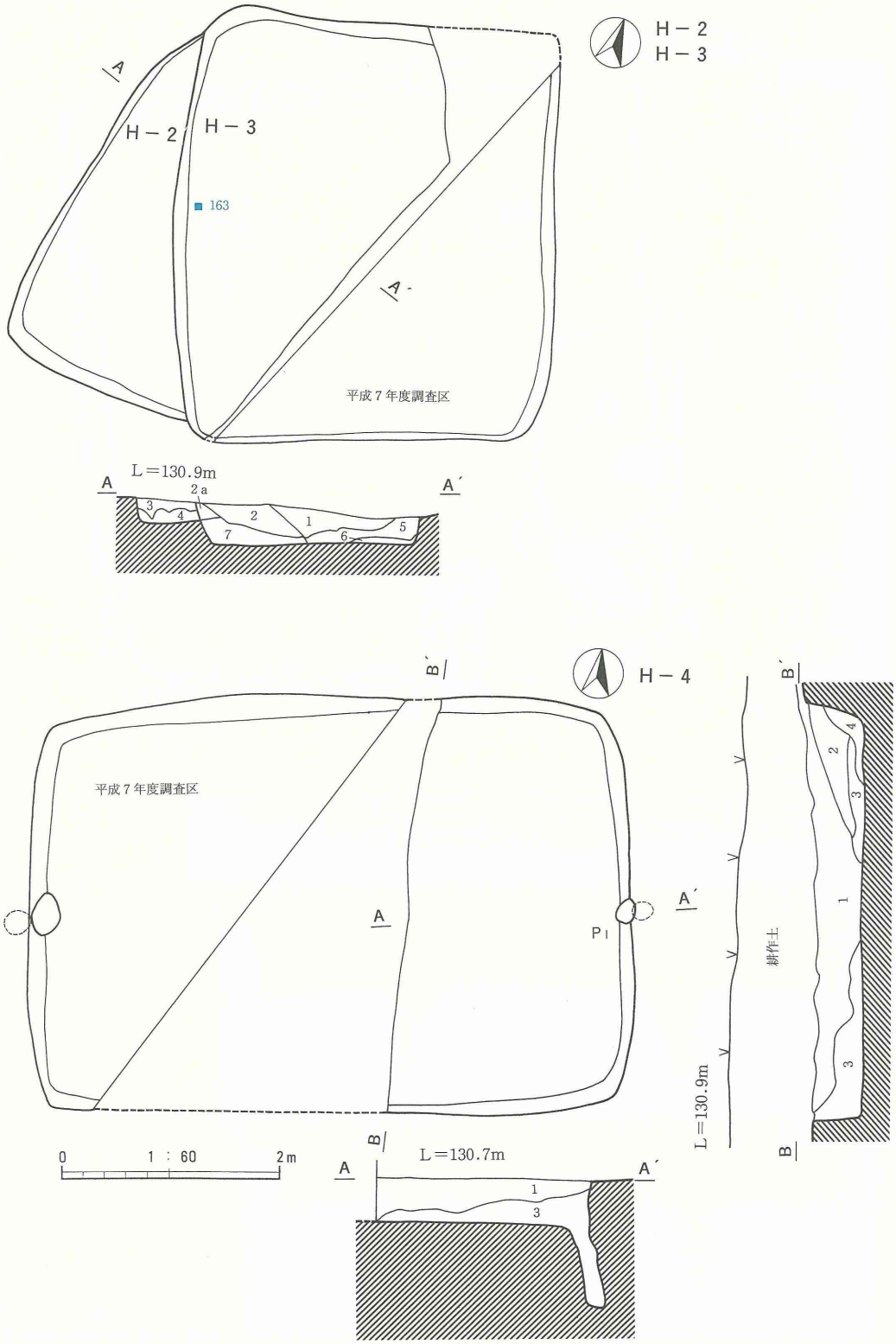


Fig. 30　D区　H－2・3・4　号住居址

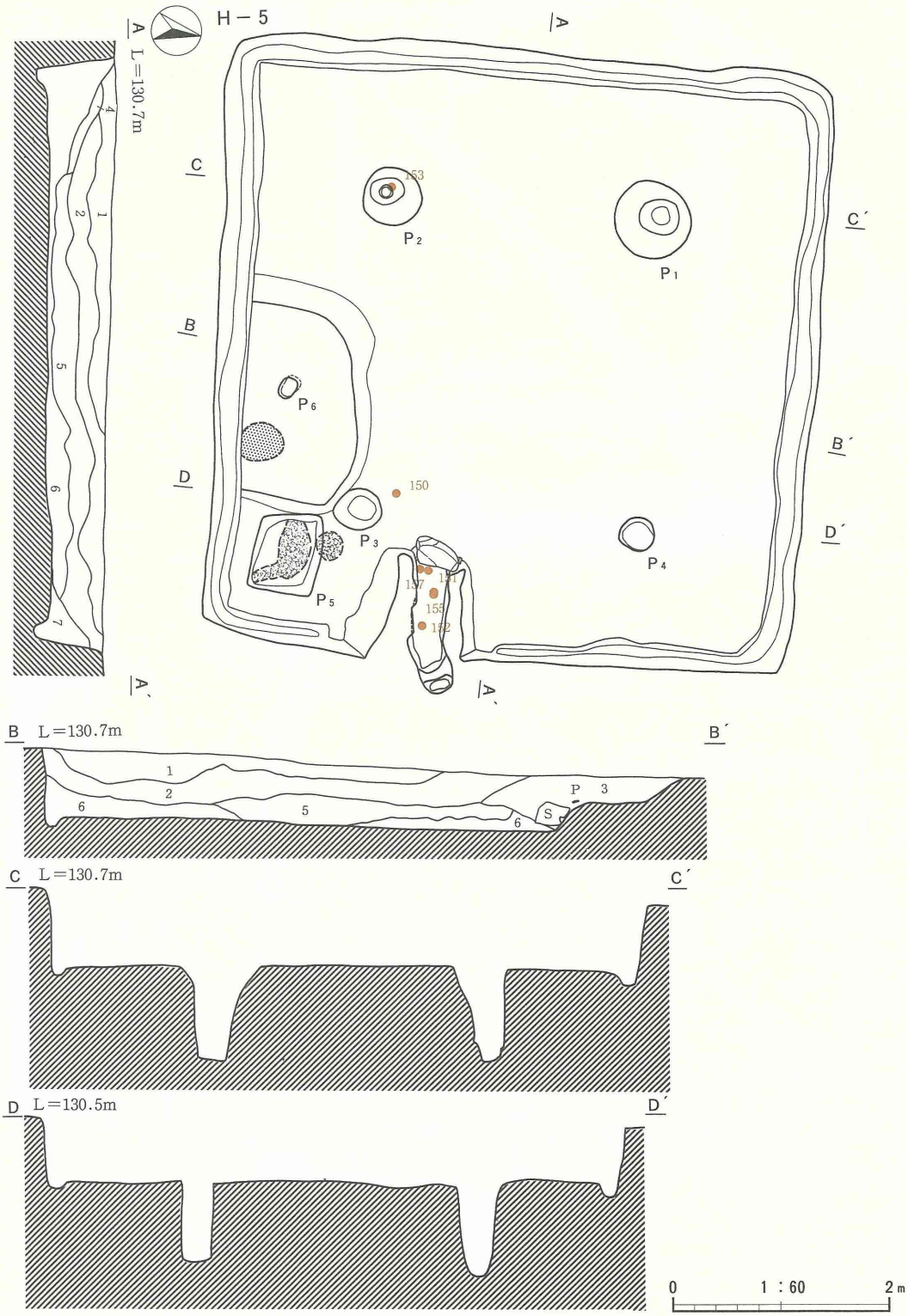


Fig. 31　D区　H－5号住居址

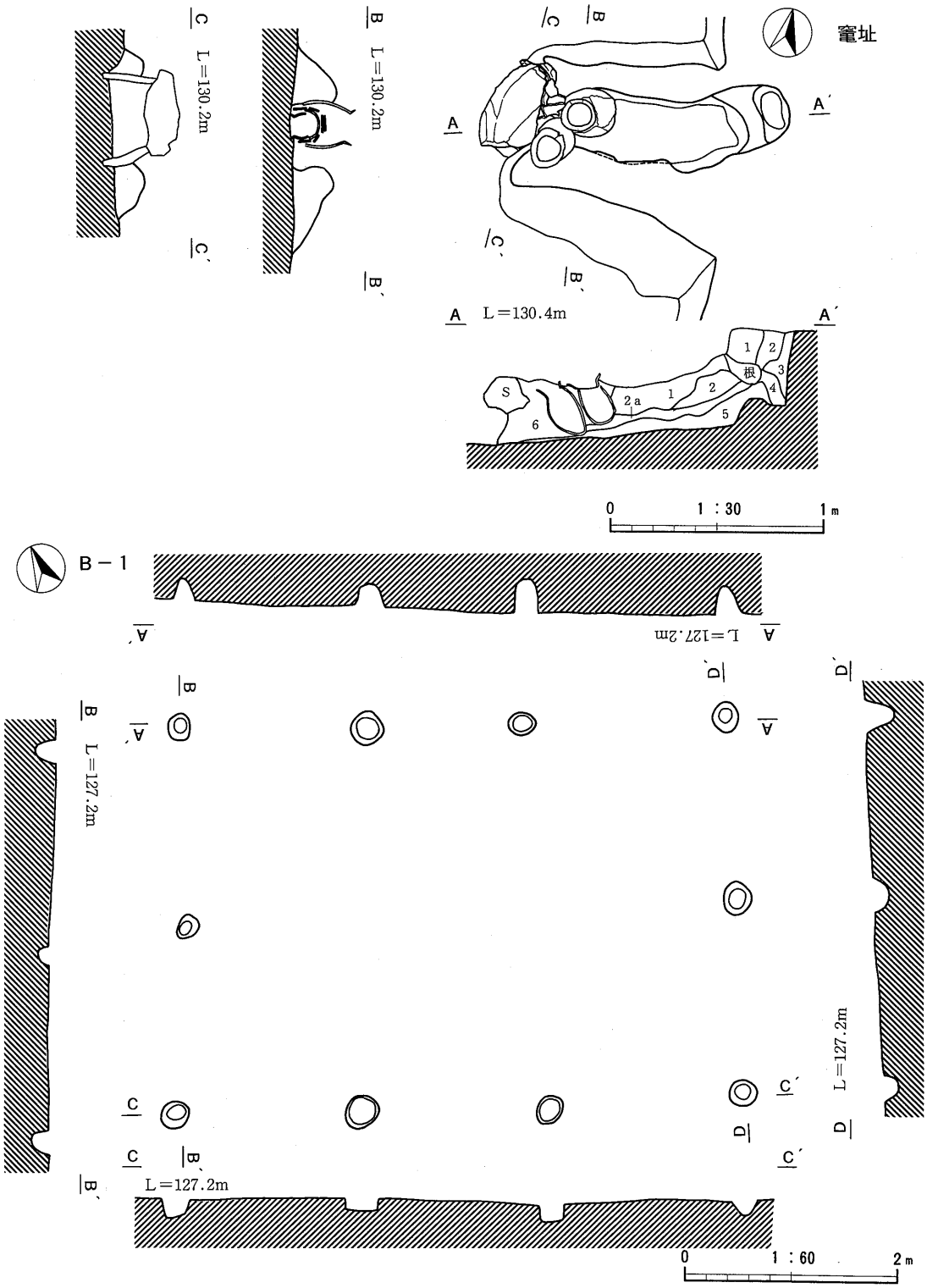


Fig. 32　D区　H－5号住居址　A区　B－1号掘立柱建物跡

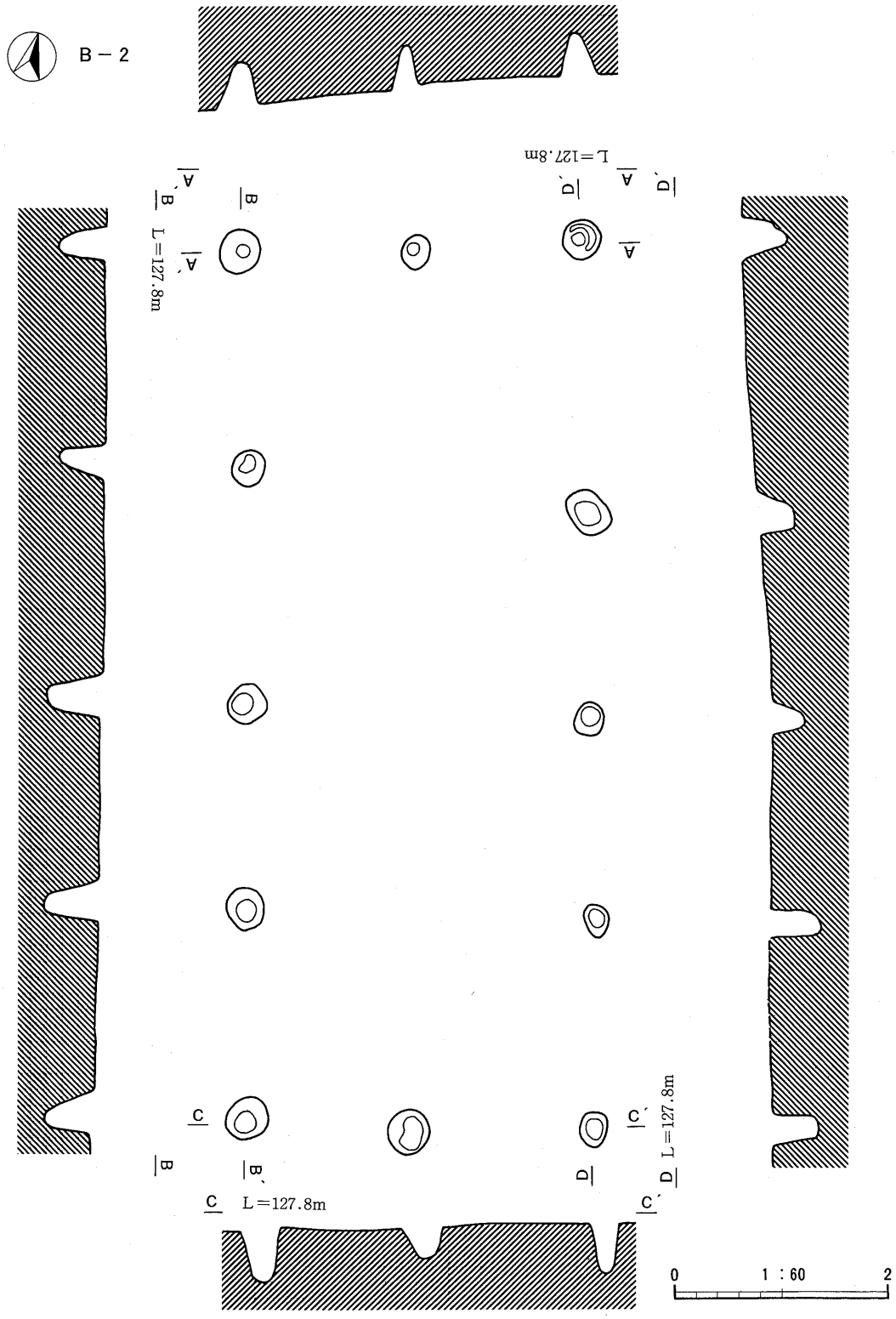


Fig. 33　A区　B－2号掘立柱建物跡

Ａ区　Ｈ－８号住居址層序説明

１層　にぶい褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。ローム粒子を２％含むＡｓ－Ｃまじりの褐色土

２層　にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。Ａｓ－Ｃを３％、径１～２㎝のロームブロックを２％、鉄分凝結を５％含む。

2a層　にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。Ａｓ－Ｃを３％、径１～２㎝のロームブロックを２％、鉄分凝結を15％含む。

３層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃ・ローム粒子をわずかに含む。

４層　黒褐色細砂層。粘性あり、締まりなし。炭化物・ローム粒子・焼土ブロックをわずかに含む。

５層　暗灰色細砂層。粘性・締まりあり。径２～５㎝のロームブロックを30%、焼土ブロックをわずかに含む。

６層　にぶい褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。Ａｓ－Ｃを２％、ローム粒子を１％、鉄分凝結を５％含む。

７層　にぶい黄褐色細砂層。粘性なし、締まりあり。ローム粒子を１％含む。Ａｓ－Ｃを７％含む黒色土がブロック状に入る。

８層　黒褐色細砂層。粘性なし、締まり強い。Ａｓ－Ｃを７％、Ｈｒ－ＦＰをわずかに含む。部分的にローム粒子が入った褐色土を含む。

９層　褐色細砂層。粘性ややあり、締まり強い。径１㎝前後のロームブロックを１％、焼土ブロックを３％含む。

10層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりなし。Ａｓ－Ｃ・ローム粒子をわずかに含む。

11層　黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まり強い。径１㎝大のロームブロックを３％、Ａｓ－Ｃを１％含む。

12層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。径１～２㎝のロームブロックを15％、炭化物をわずかに含む。

12a層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。径１～３㎝のロームブロックを７％、鉄分凝結を10％含む。

13層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。径１～２㎝のロームブロックを５％、焼土をわずかに含む。

14層　褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。径１～1.5㎝のロームブロックを５％ 、焼土ブロックを１％含む。

15層　暗褐色細砂層。粘性・締まりなし。径２～３㎝のロームブロックを15％、炭化物をわずかに含む。

16層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。径１～２㎝のロームブロックを５％、焼土ブロックを３％、粘土ブロックを１％含む竈の崩れた層。

Ａ区　Ｈ－10号住居址層序説明

１層　褐灰色細砂層。粘性・締まりややあり。Ｈｒ－ＦＰを１％含む。

２層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。鉄分凝結５％、Ｈｒ－ＦＰを３％、ローム粒子を５％含む。

３層　黒褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を３％、焼土粒子を５％含む。

４層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ｈｒ－ＦＰ粒子を３％、鉄分凝結を含む。

５層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム漸移層。

６層　灰黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を３％、焼土粒子を１％含む。

７層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子５％、粘土粒子を１％含むローム土と黒色土の混土層。

８層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を３％含む。

９層　灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土粒子を１％含むローム土と黒色土の混土層。

10層　黒褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土を含む炭化物主体。

11層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム土主体。焼土粒子を３％含む。

12層　黒褐色細砂層。粘性・締まりなし。焼土を含む炭化物主体。

13層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。ローム粒子を１％、白色粘土ブロックを５％含む。

14層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ｈｒ－ＦＰ粒子を５％、粘土ブロックを１％、焼土粒子を１％含む。

15層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を３％、Ｈｒ－ＦＰ粒子を１％、鉄分凝結を含む。

16層　褐灰色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子・Ｈｒ－ＦＰ粒子を１％含む。

17層　褐灰色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を１％、Ｈｒ－ＦＰ粒子を３％含む。

18層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ロームブロックを１％、ローム粒子を５％含む。

19層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を５％、粘土ブロックを１％含む。

20層　黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。炭化物を含む炭化物主体。

21層　灰黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を３％、鉄分凝結を含む。

22層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を５％含む。

23層　暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックを含む。

24層　褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり、焼土ブロックを含む。

A区　H－13号住居址層序説明
1層　灰褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。Ｈｒ－ＨＰ粒子を５％含む。
2層　明黄褐色粗砂層。粘性・締まりなし。Ｈｒ－ＨＰを多量に含む。
3層　褐灰色細砂層。粘性強く、締まりややあり。
4層　褐灰色粗砂層。粘性・締まりなし。Ｈｒ－ＨＰを15％、一部に火山灰を含む。
5層　褐色細砂層。粘性・締まりあり。
6層　にぶい褐色微砂層。粘性・締まりややあり。
7層　暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ｈｒ－ＦＰ粒子を５％含む。
8層　にぶい褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を５％含む。

A区　H－13号住居址竈址層序説明
1層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりあり。Ｈｒ－ＨＰを上部に、焼土ブロック・ローム粒子を２％含む。
2層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。ローム粒子を３％、Ｈｒ－ＦＰ・炭化物をわずかに含む。
3層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子を５％、Ｈｒ－ＦＰ・焼土粒子を２％、炭化物をわずかに含む。
4層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。炭化物を５％、ローム粒子・焼土粒子を２％含む。
5層　褐色細砂層。粘性あり、締まりなし。ロームブロックを１％、焼土・炭化物をわずかに含む。
6層　にぶい黄褐色細砂層。粘性強い、締まりあり。ロームブロックを５％、焼土ブロックを３％含む。
7層　暗褐色細砂層。粘性・締まりなし。焼土を多量に含む。

H－１号住居址層序説明
1層　黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まり強い。Ａｓ－Ｃを７％、Ｈｒ－ＦＰを１％含む。
2層　暗褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。Ａｓ－Ｃを５％、ローム粒子をわずかに含む。
3層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを１％含む。
4層　黒褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを３％、ロームブロックをわずかに含む。
5層　褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ロームブロックを３％、焼土ブロックを１％含む。
6層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム土主体。
7層　黒褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。ロームブロックを１％含むローム土と黒色土の混土層。
8層　にぶい黄褐色細砂層。粘性あり、締まり強い。径10cm大のロームブロックを10％含む。

H－２・３号住居址層序説明
1層　黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。Ａｓ－Ｃを10％含む。
2層　黒色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。Ａｓ－Ｃを15％含む。
2a層　灰褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。Ａｓ－Ｃを５％含む。
3層　灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを３％含む。
4層　灰黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム土と黒色土の混土層。
5層　褐灰色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。Ａｓ－Ｃを５％含む。
6層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム土と黒色土の混土層。
7層　にぶい黄褐色粗砂層。粘性・締まりなし。Ａｓ－Ｃ純層。

D区　H－４号住居址層序説明
1層　暗褐色細砂層。粘性ややあり、しまりあり。Ａｓ－Ｃを10％含む。
2層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを10％含む。
3層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ロームと黒色土の混土層。
4層　灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを３％含む黒色土主体のローム混土層。

D区　H－５号住居址層序説明
１層　黒褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを15％含む。
２層　灰褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを７％含む。
３層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックをわずかに含むローム土と黒色土の混土層。
４層　褐灰色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを３％、径0.5～１cmロームブロックを３％含む。
５層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを１％、径１cmのロームブロックを３％含む。
６層　灰黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。径１cmのロームブロックを１％含む黒色土主体のローム混土層。
７層　黒褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃを１％、径0.5cmのロームブロックを１％含む黒色土主体の層。

D区　H－５号住居址竈址層序説明
１層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。径８mmのロームブロックを２％含む。
２層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム粒子・焼土粒子を２％含む。
2b層　にぶい黄褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ロームブロックをわずかに含む。
３層　暗褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。ローム粒子をわずかに含む。
４層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりなし。ロームブロックを10％含む。
５層　にぶい赤褐色細砂層。粘性なし、締まりややあり。径10mmの焼土ブロックを７％、ロームブロックをわずかに含む。
６層　にぶい赤褐色細砂層。粘性あり、締まりややあり。ローム粒子をわずかに含む。

D区　H－６号住居址層序説明
１層　黒褐色細砂層。粘性ややあり、締まり強い。Ａｓ－Ｃを５％、ローム粒子をわずかに含む。
２層　暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。Ａｓ－Ｃをわずかに含むローム土混じりの褐色土。
３層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム土主体。

D区　H－６号住居址炉址層序説明
１層　暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックを10％、炭化物をわずかに含む。
２層　暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。焼土ブロックをわずかに含むローム土と褐色土の混じり。
３層　暗褐色細砂層。粘性・締まりややあり。ローム土と褐色土の混じり。
４層　にぶい黄褐色細砂層。粘性ややあり、締まりあり。ローム土主体。ロームブロックをわずかに含む。
５層　黒褐色細砂層。粘性・締まりなし。根の痕か。

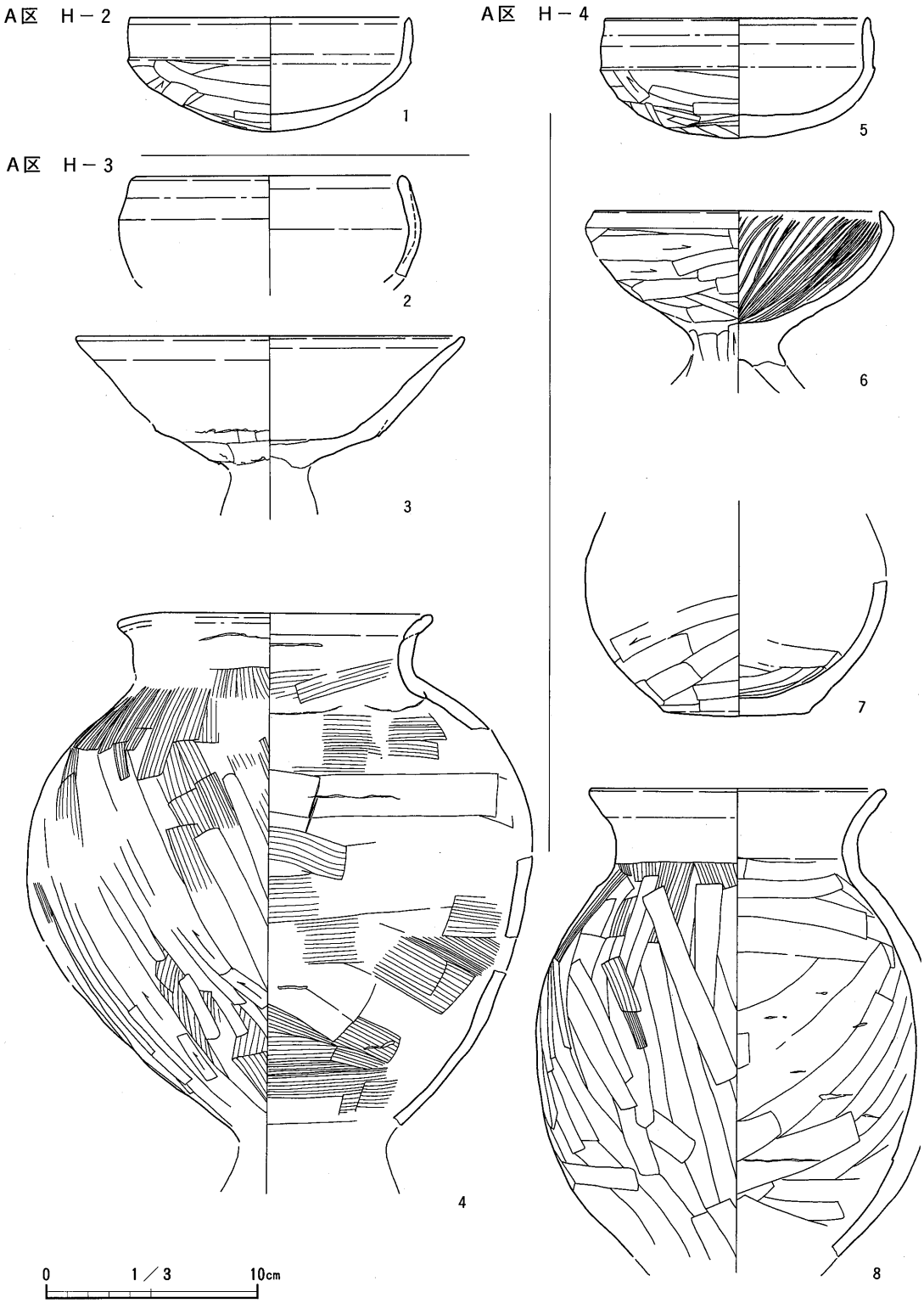


Fig. 34　A区　H－2～4号住居址出土の土器

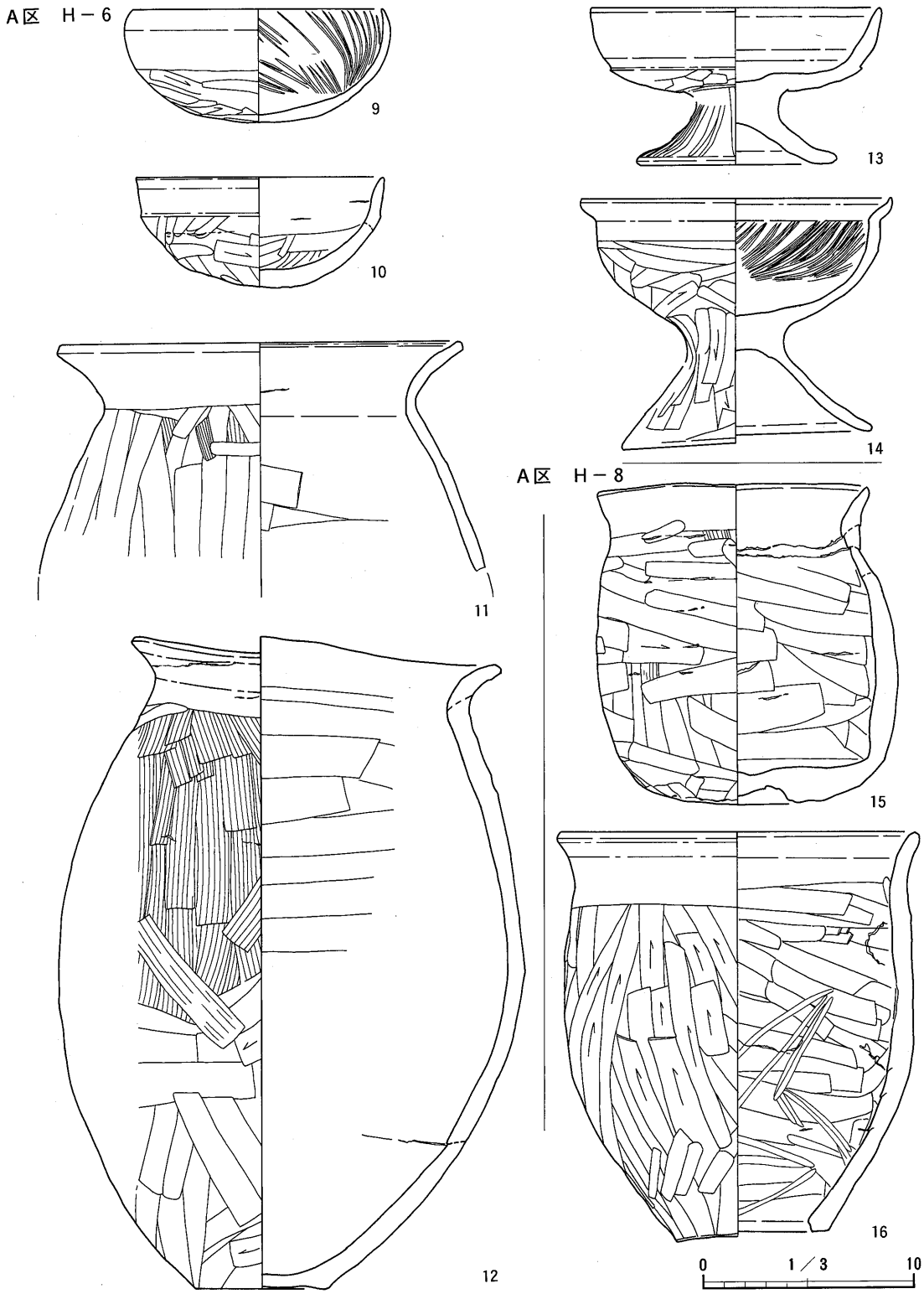
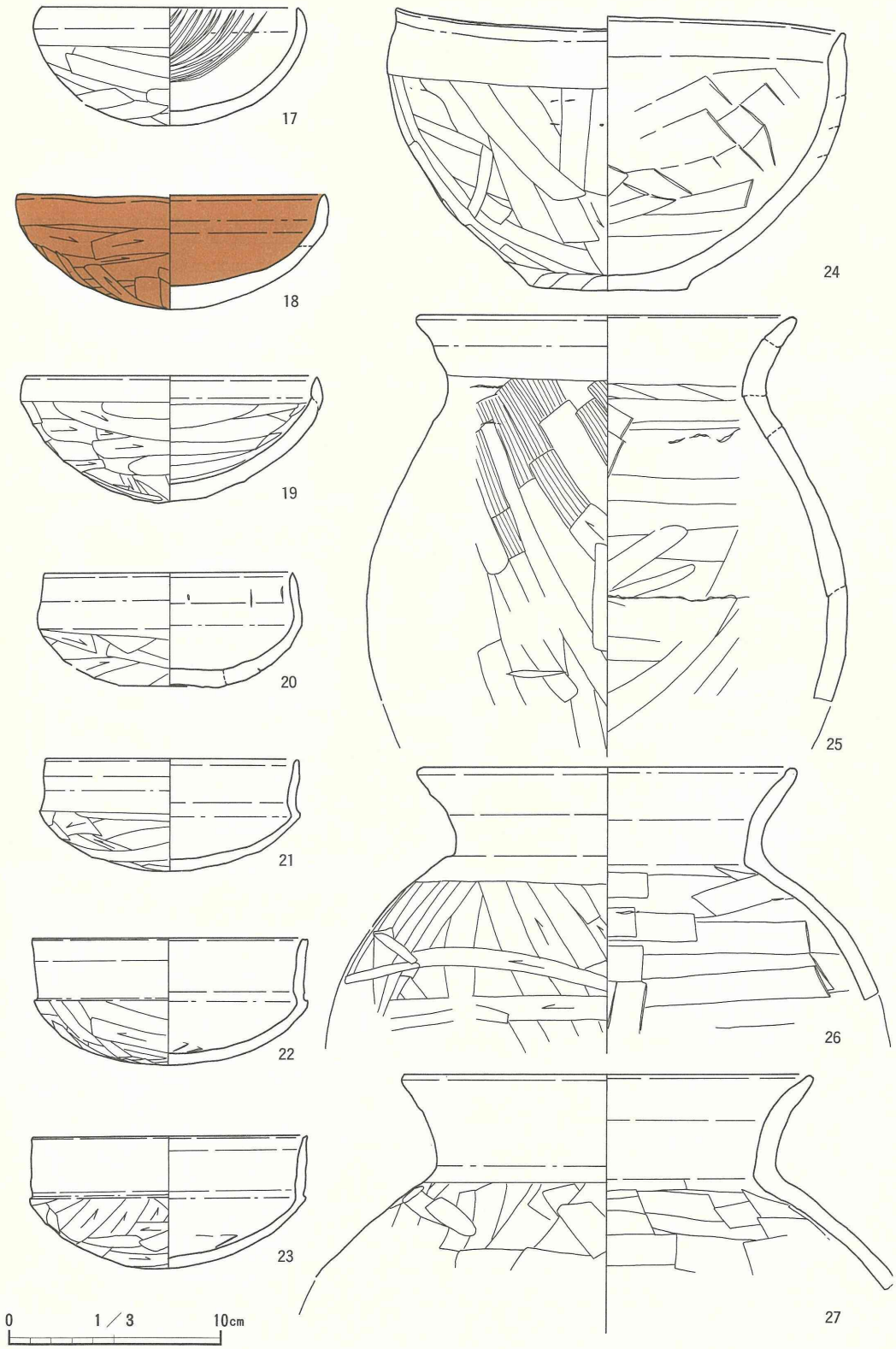


Fig. 35　A区　H－6・8住居址出土の土器



1Fig. 36　A区　H－8号住居址出土の土器

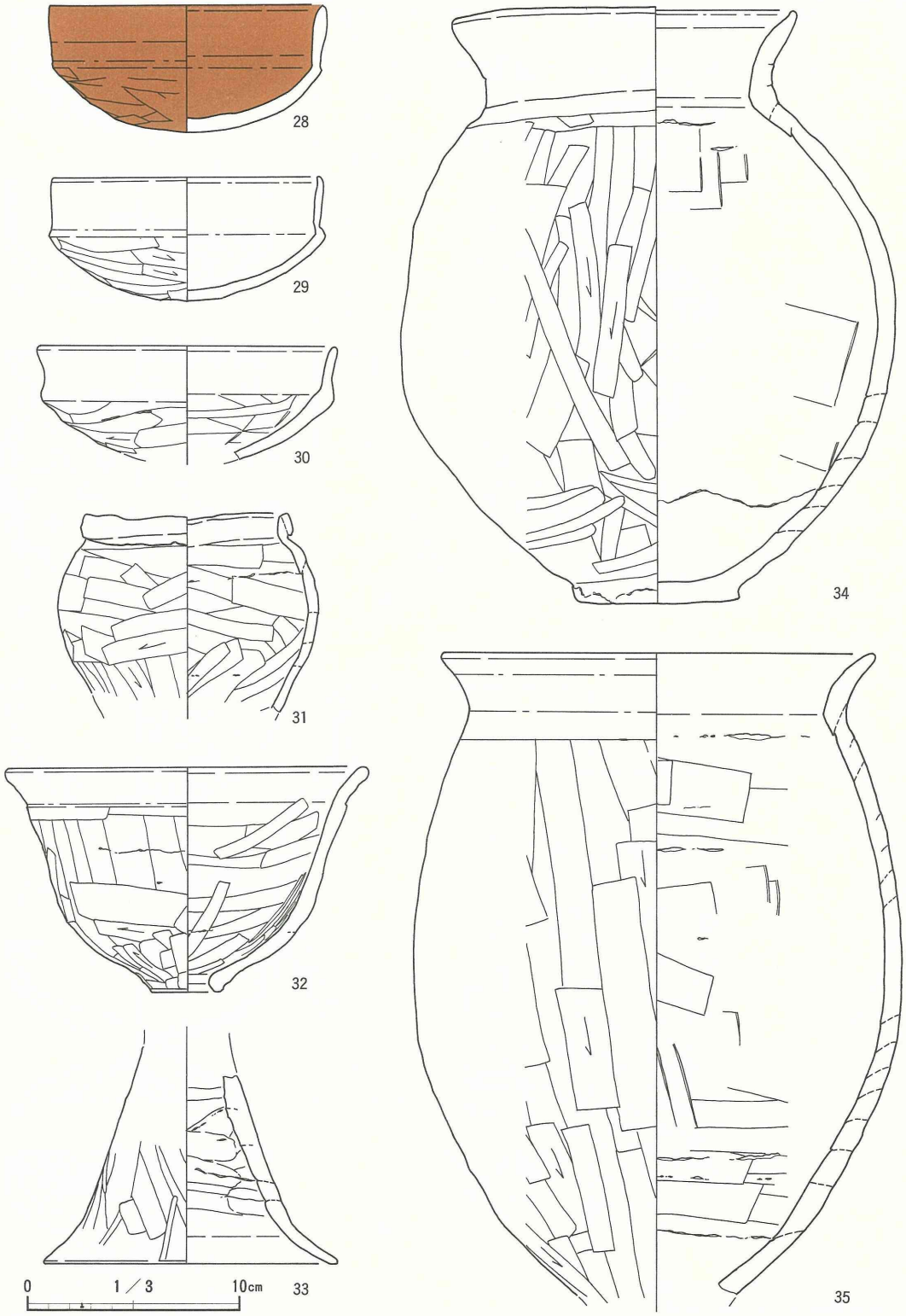


Fig. 37　A区　H－8号住居址出土の土器

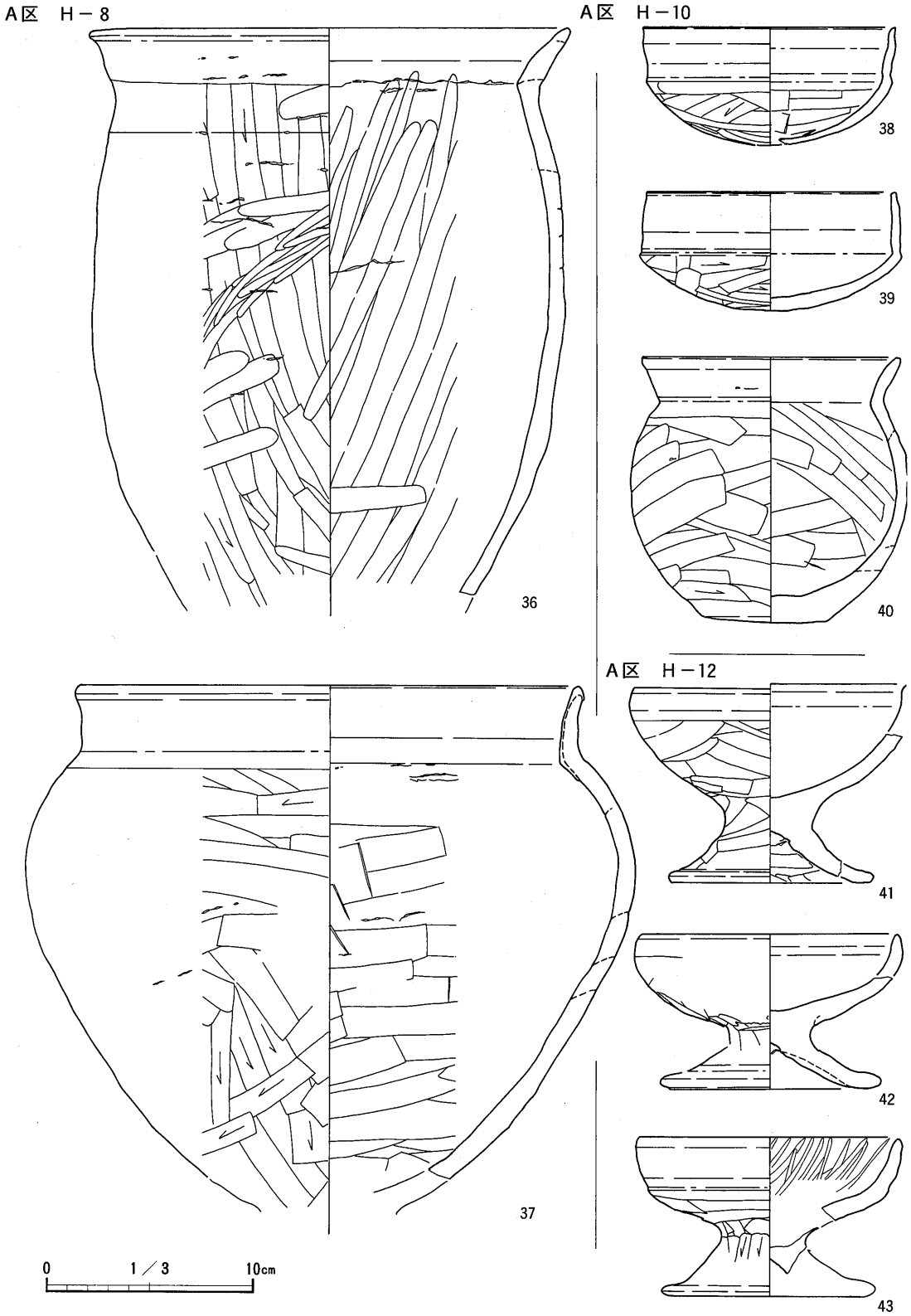


Fig. 38　A区　H－8・10・11・12号住居址出土の土器

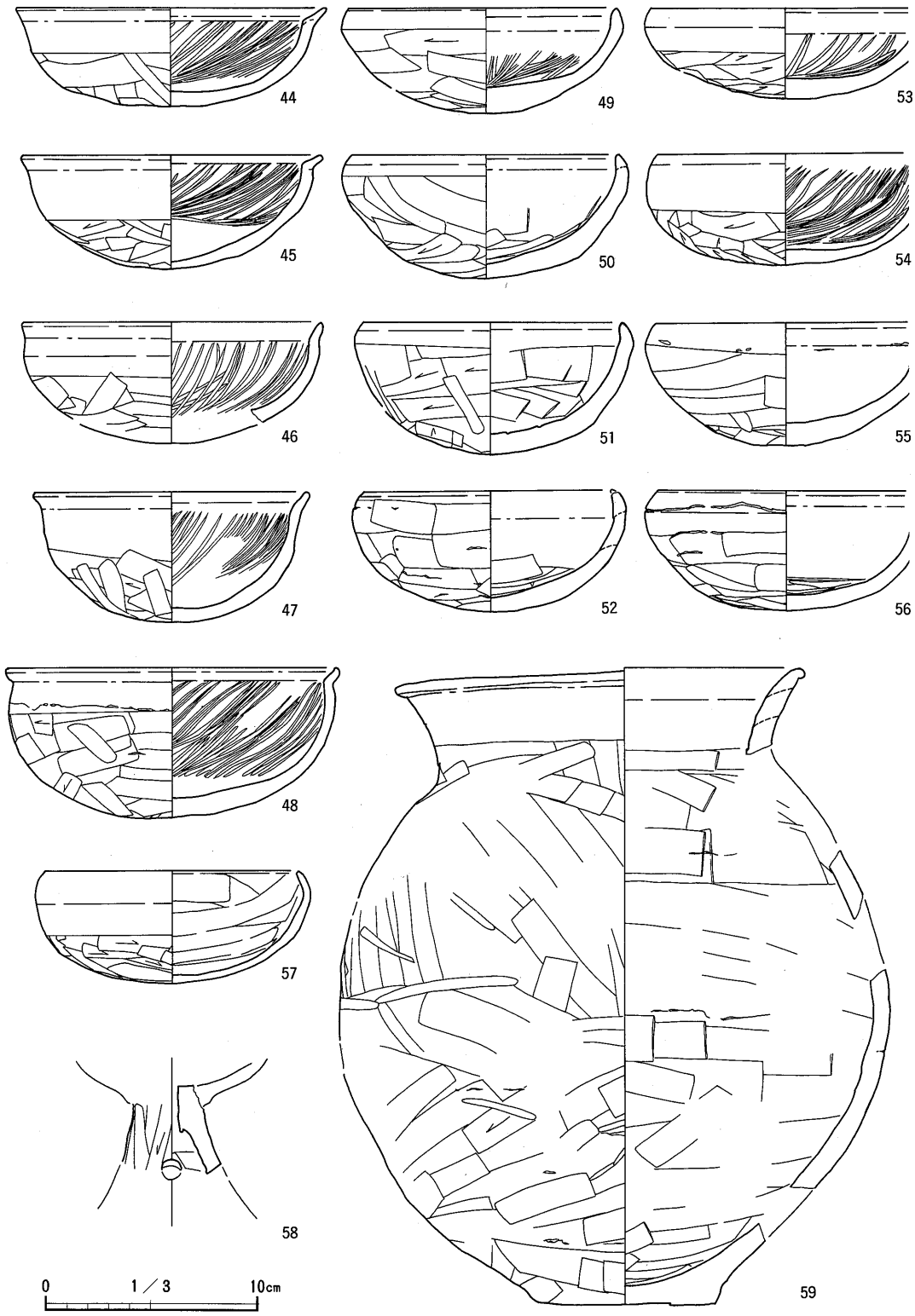


Fig. 39　A区　H－12号住居址出土の土器

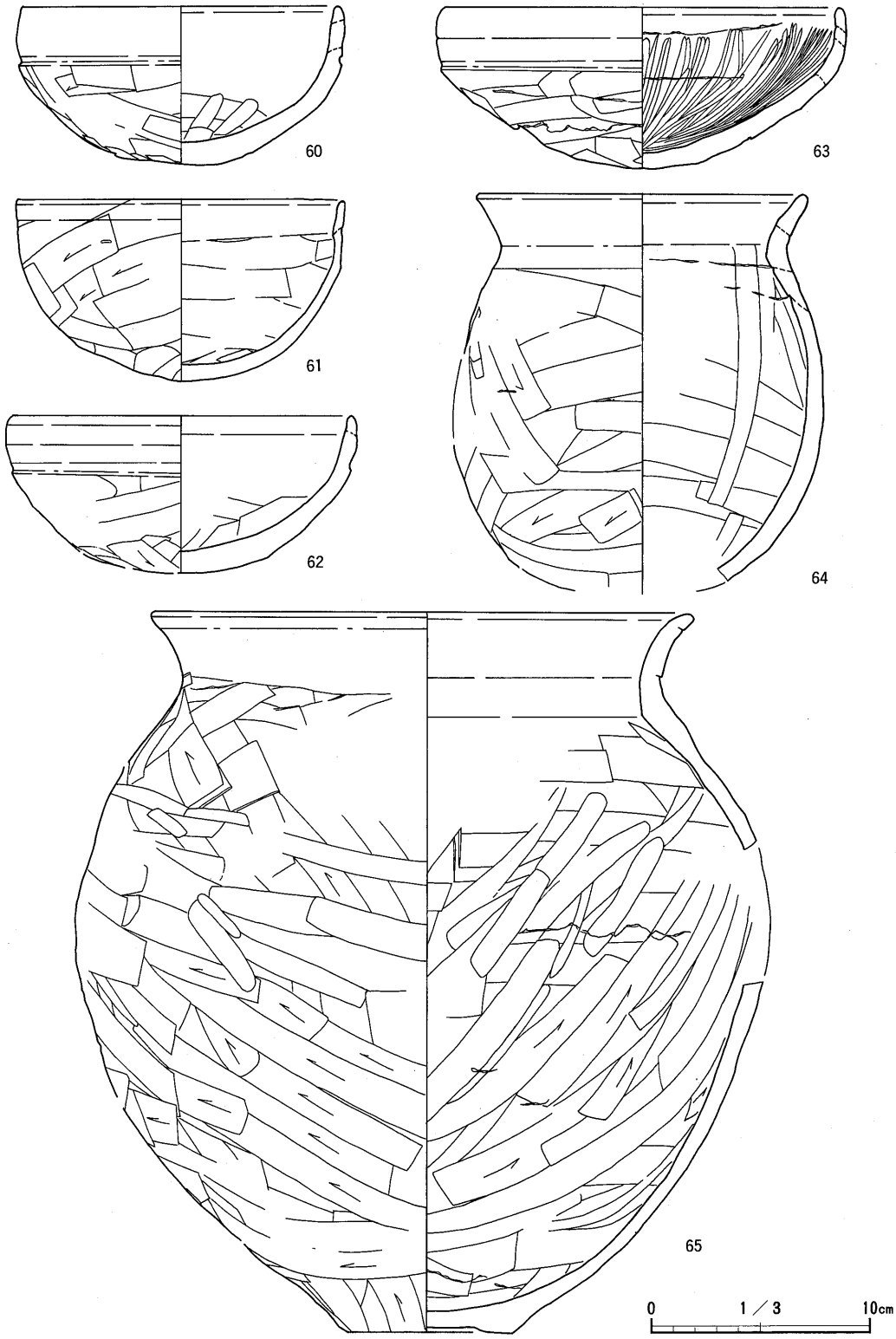


Fig. 40　A区　H－12号住居址出土の土器

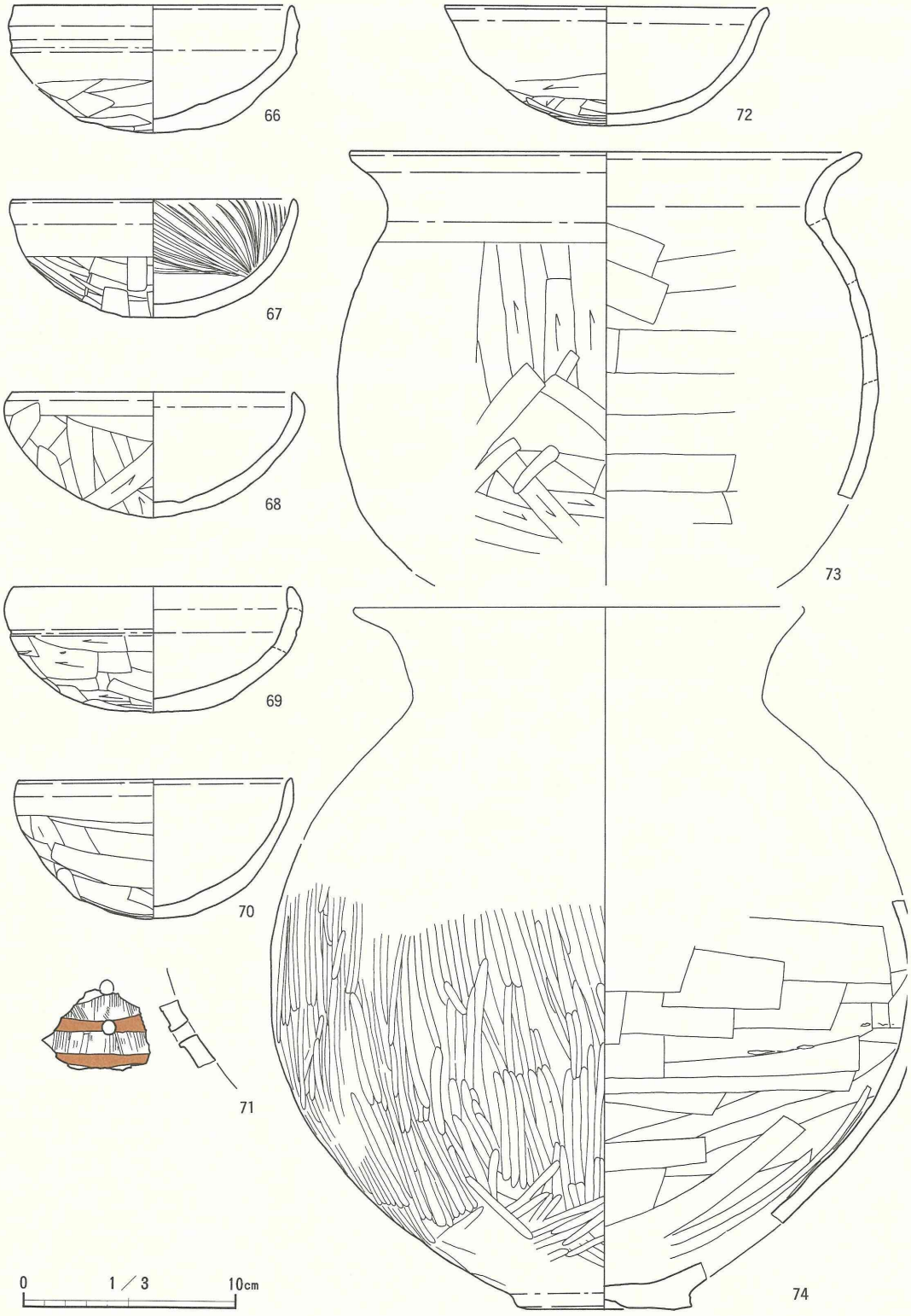


Fig. 41　A区　H－12号住居址出土の土器

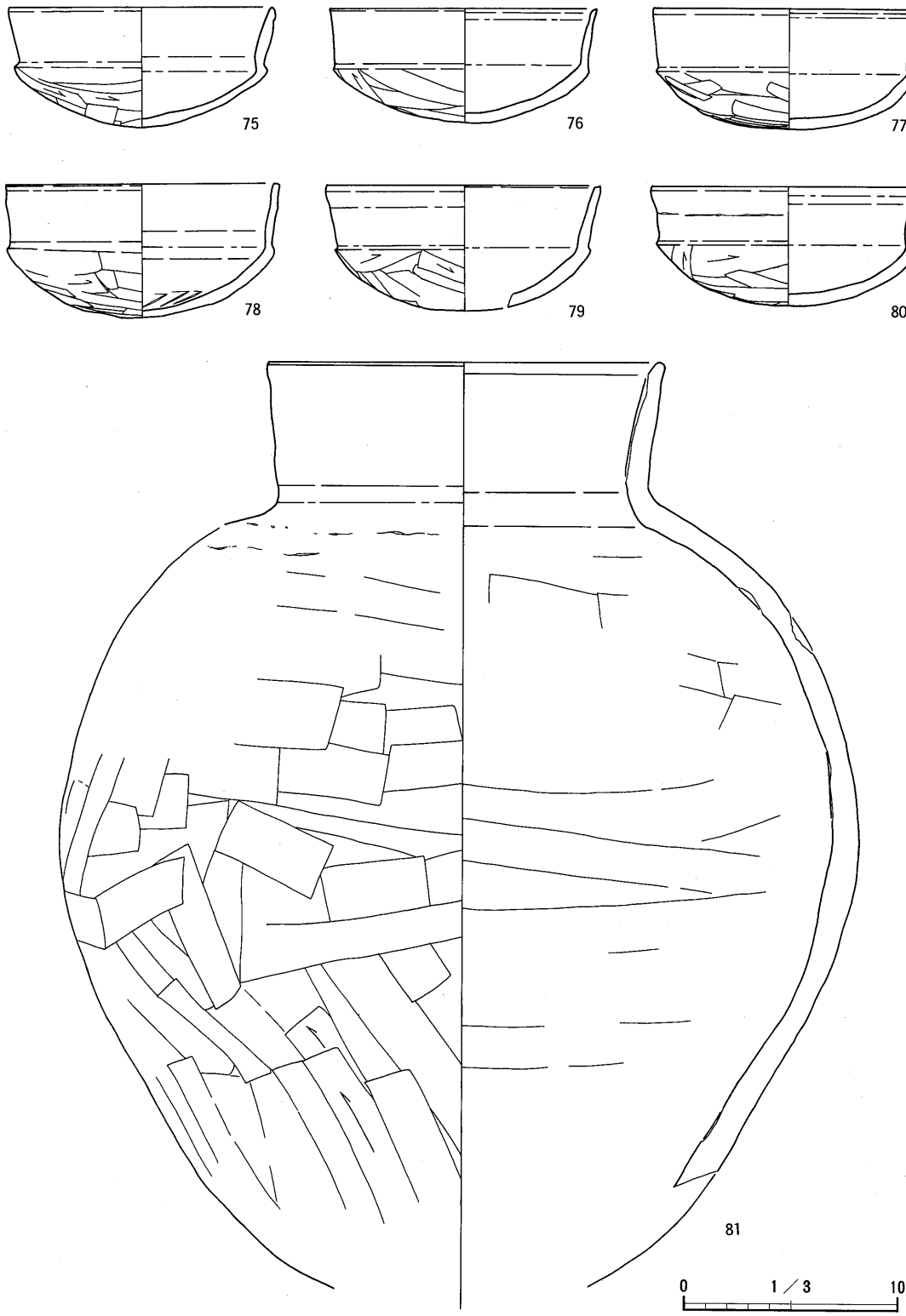


Fig. 42　A区　H－12号住居址出土の土器

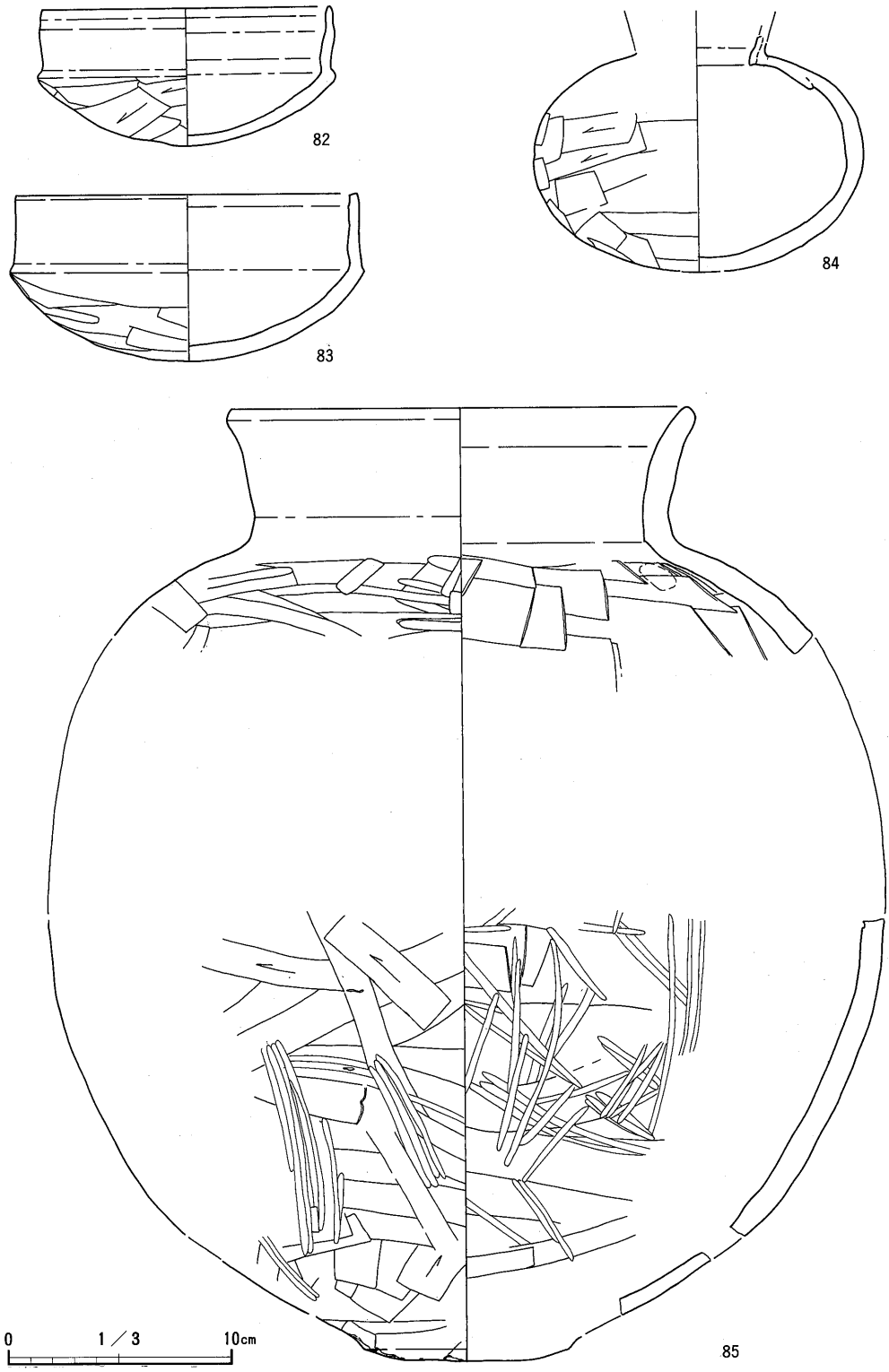


Fig. 43　A区　H－12号住居址出土の土器

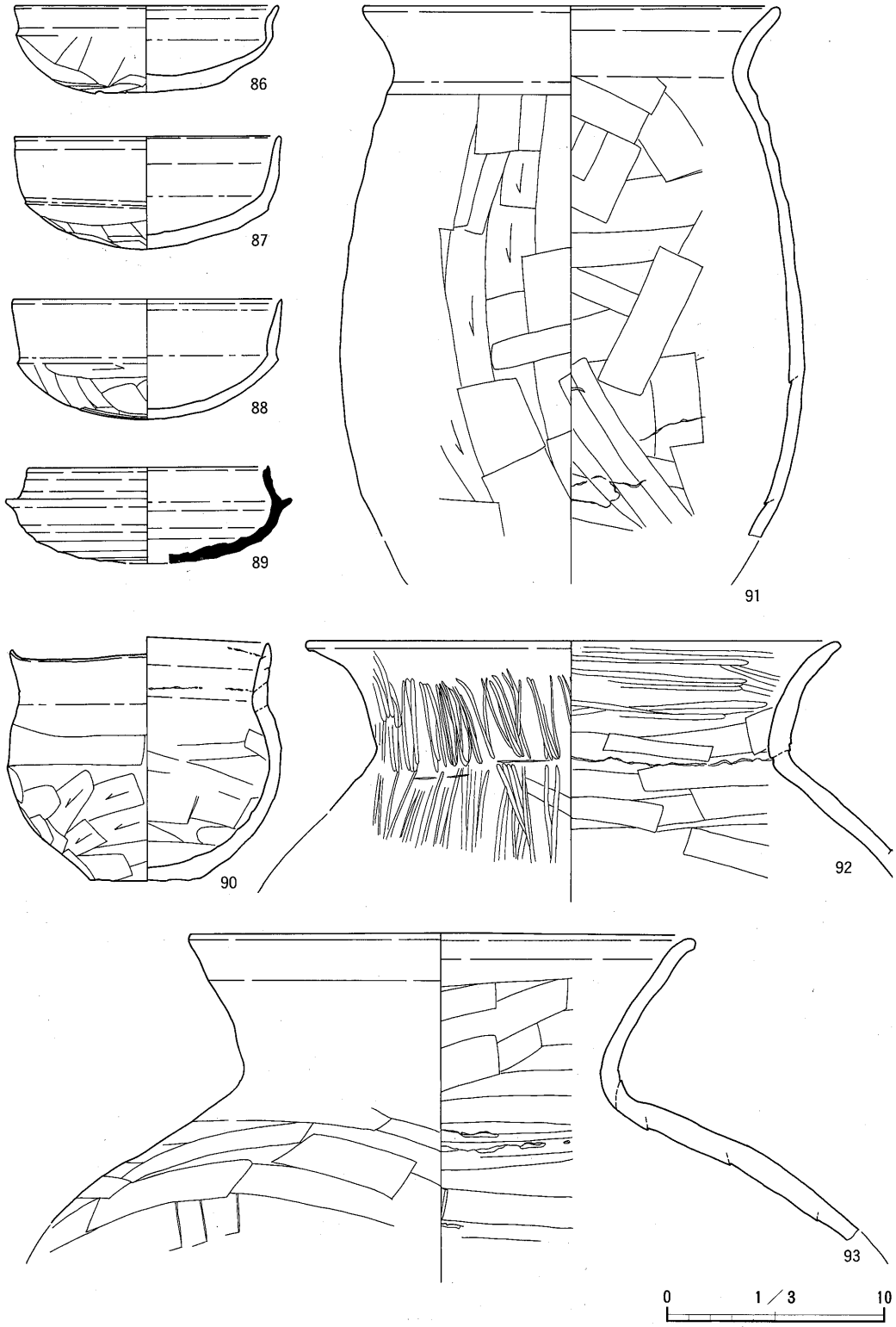


Fig. 44　A区　H－12号住居址出土の土器

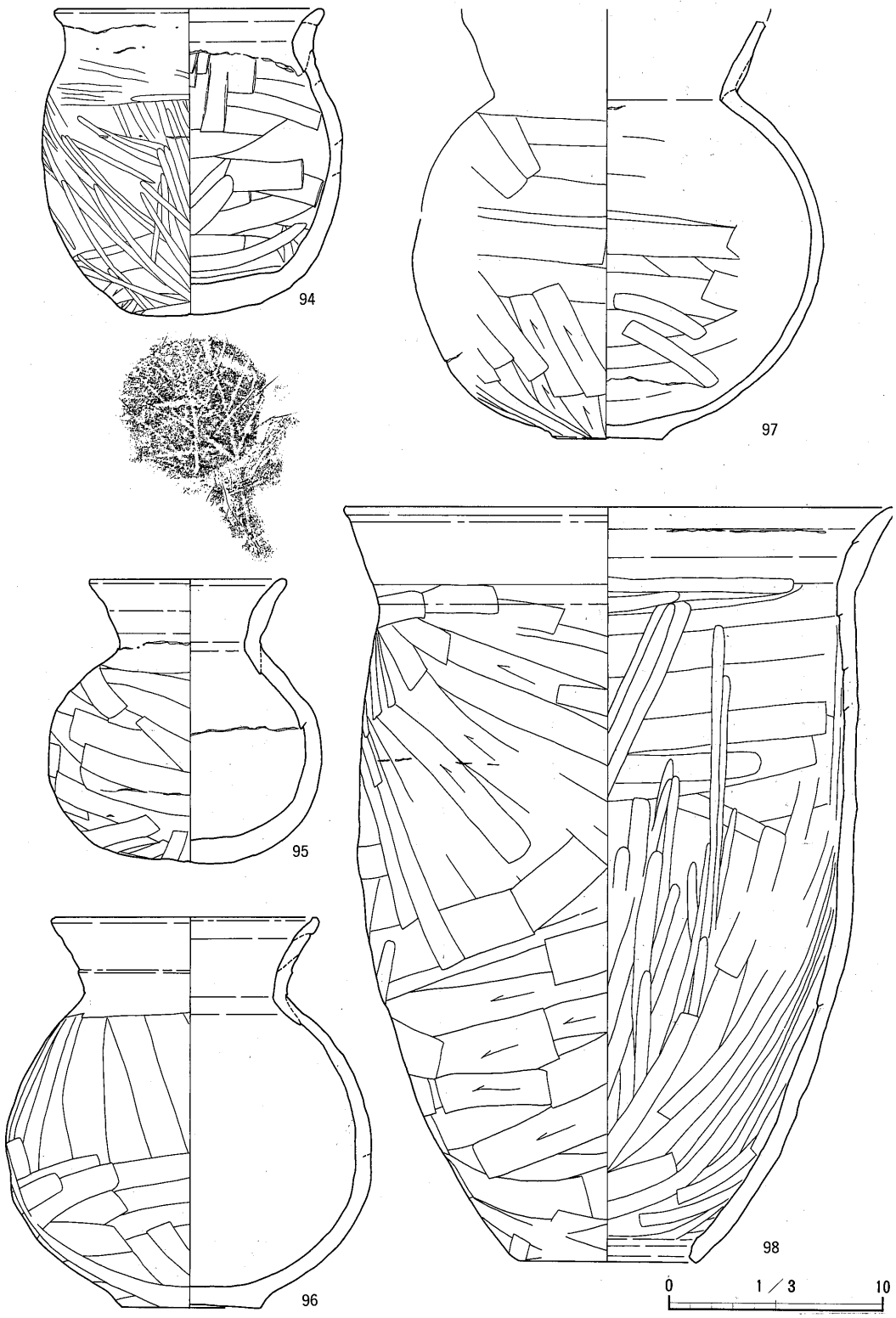


Fig. 45　A区　H－12号住居址出土の土器

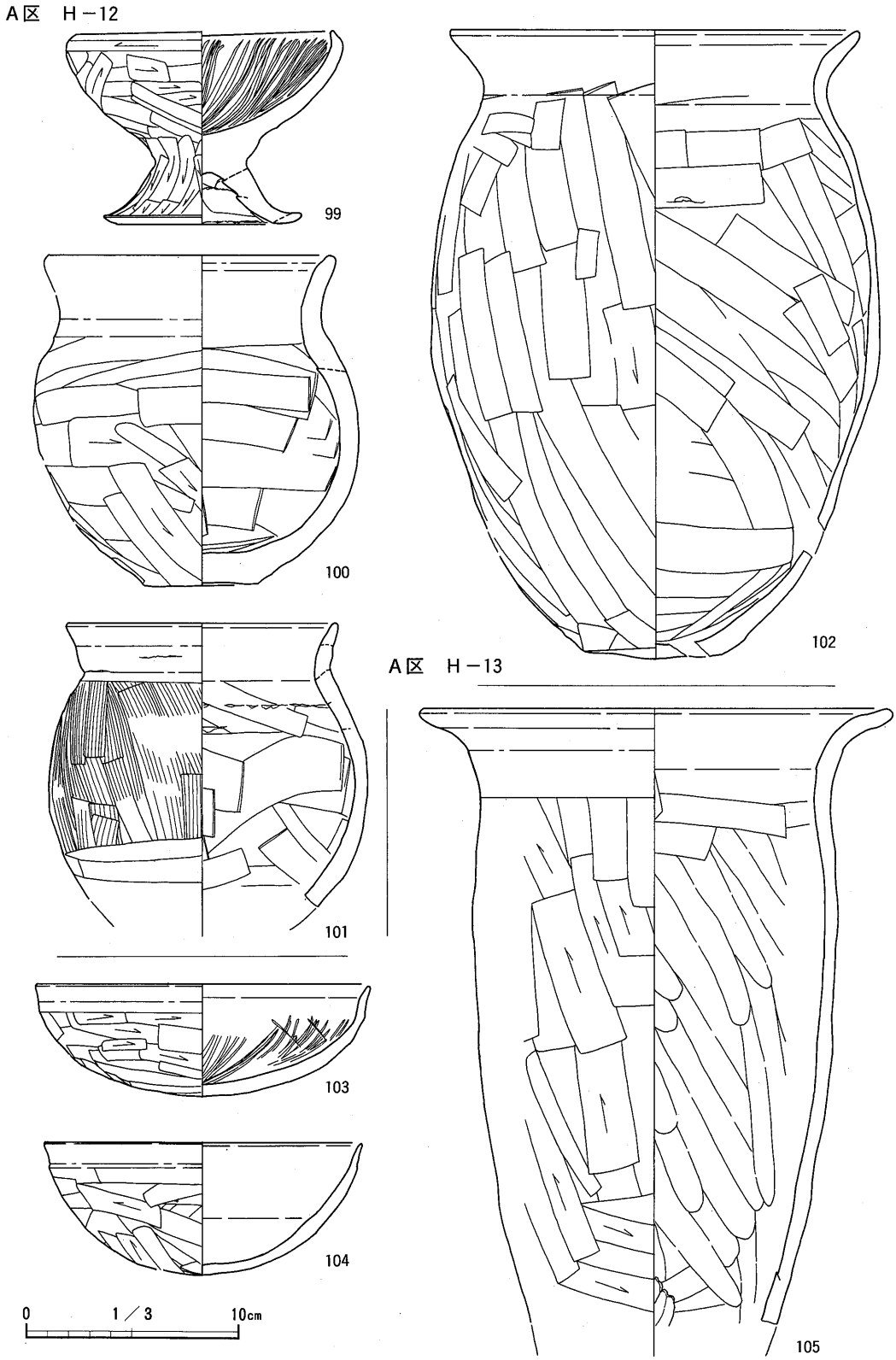


Fig. 46　A区　H－12・13号住居址出土の土器

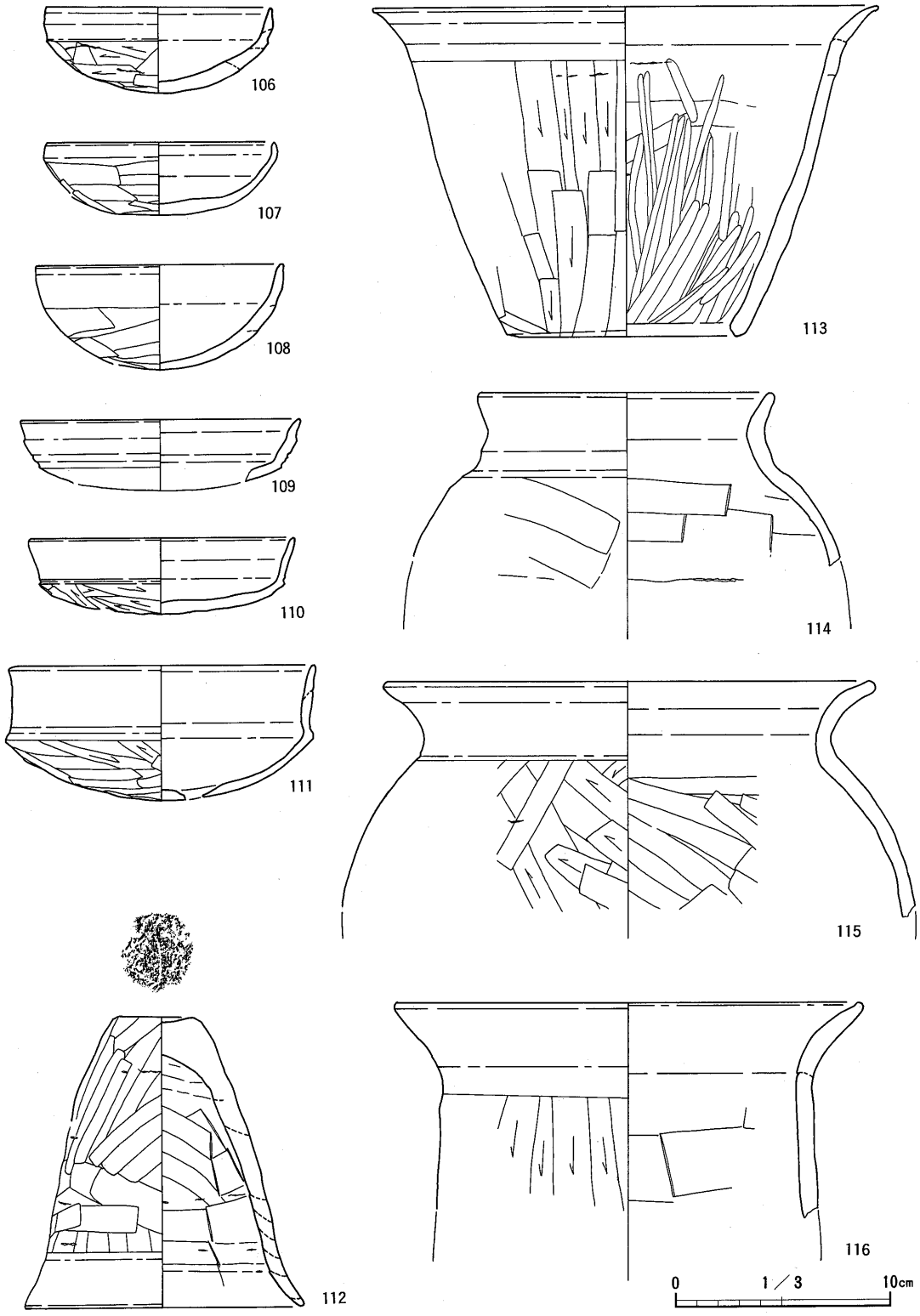


Fig. 47　A区　H－13号住居址出土の土器

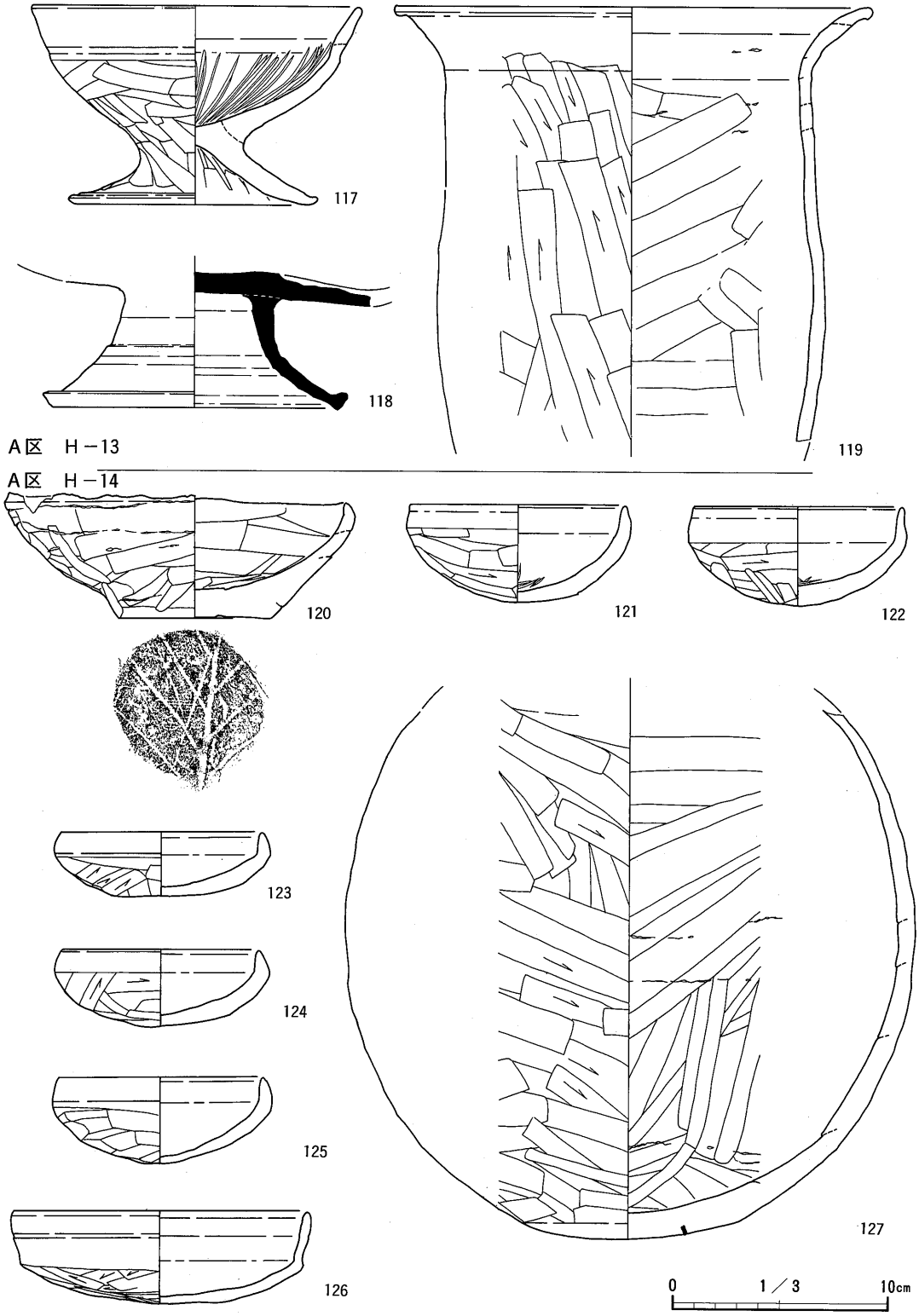


Fig. 48　A区　H－13・14号住居址出土の土器

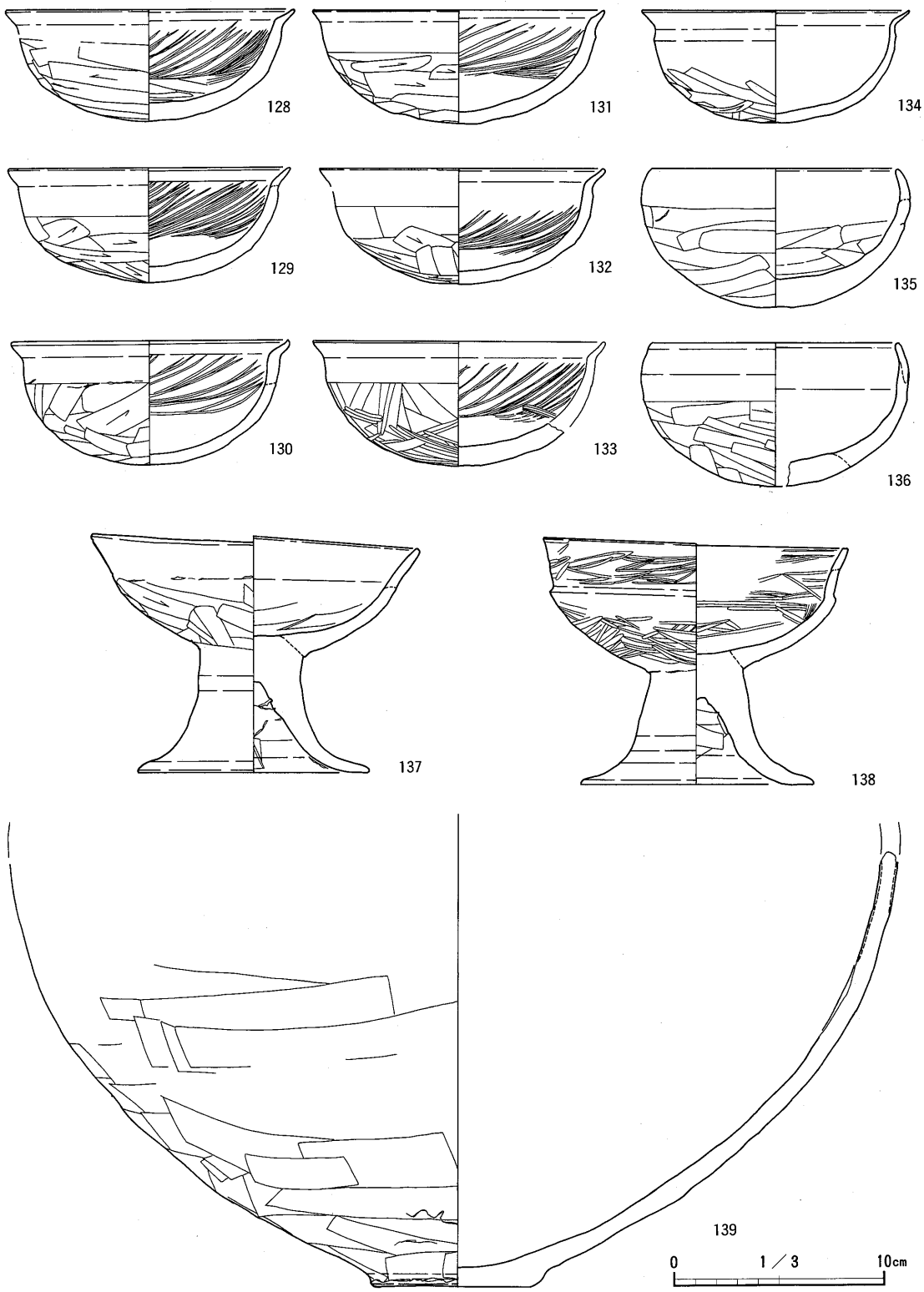


Fig. 49　A区　H－16号住居址出土の土器

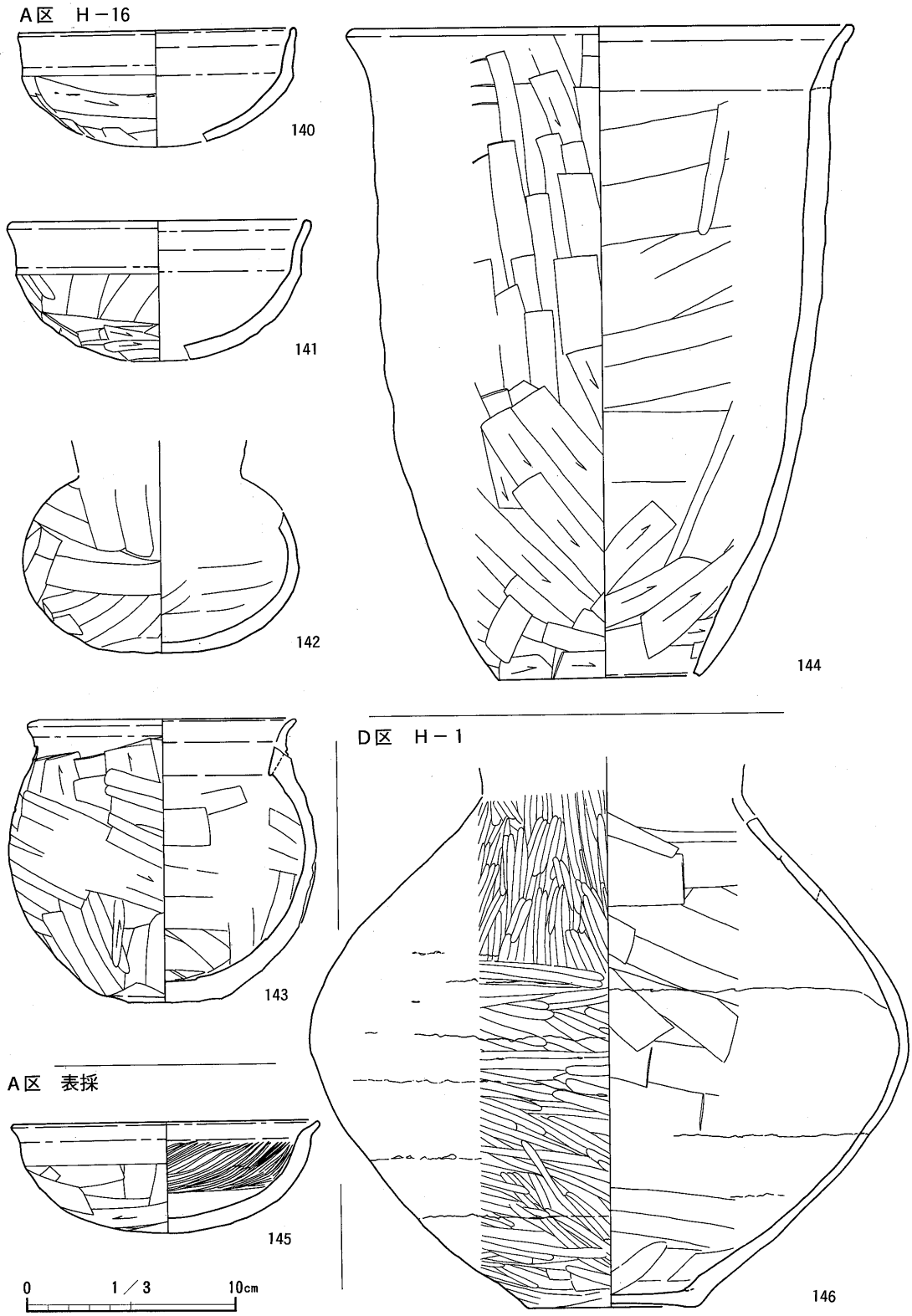


Fig. 50　A区　H－16号住居址、表採、D区　H－1号住居址出土の土器

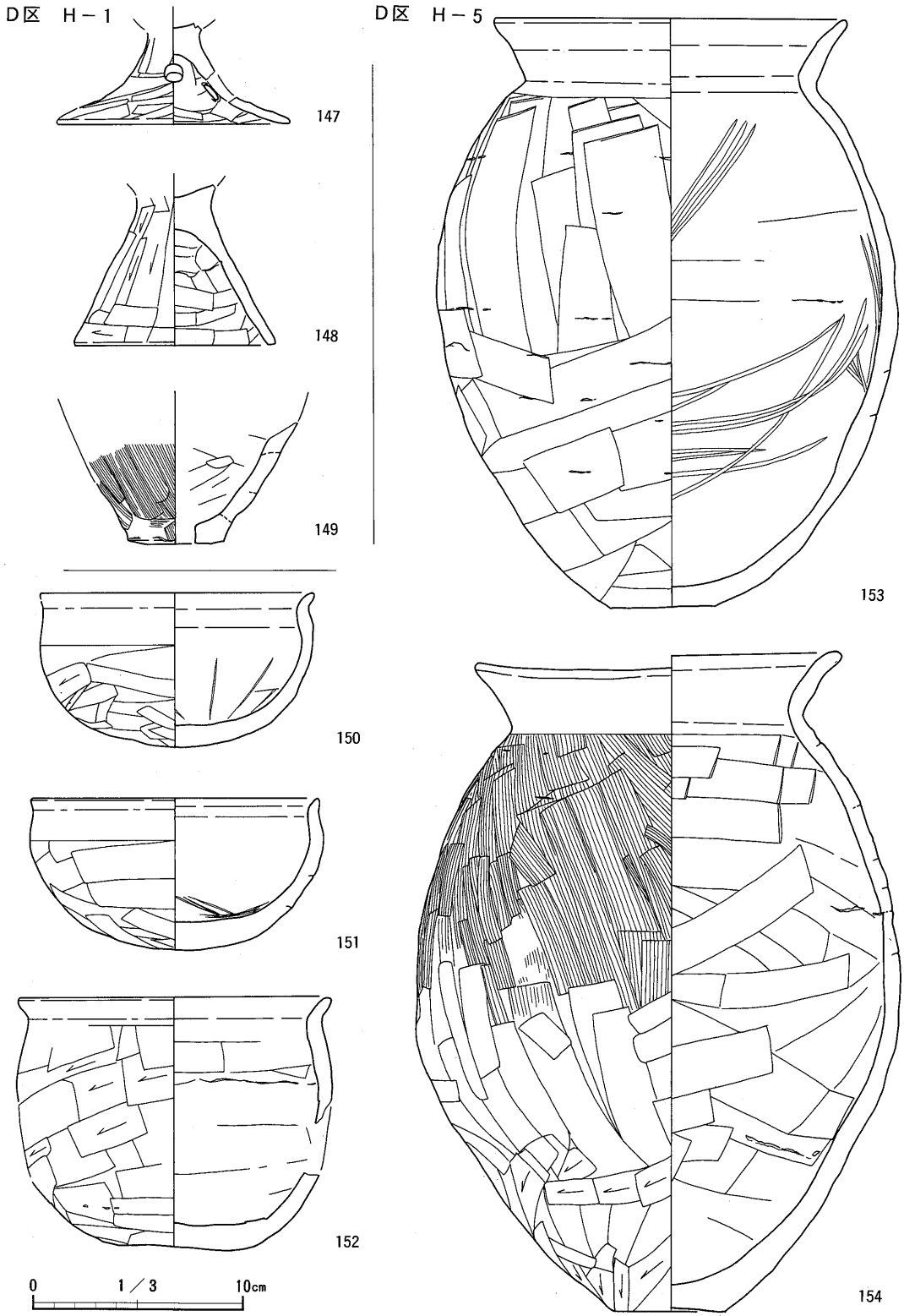


Fig. 51　D区　H－1・5号住居址出土の土器

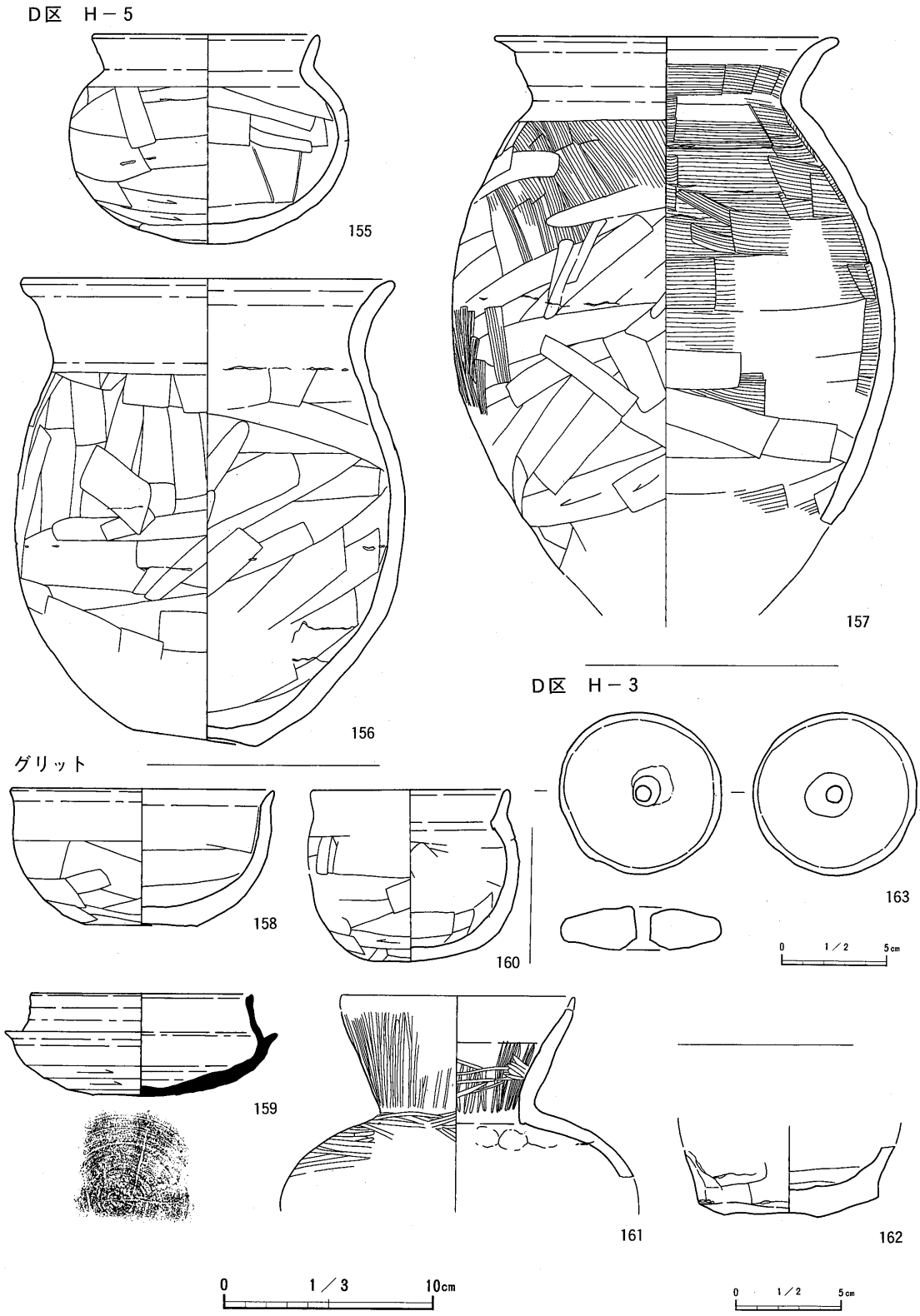


Fig. 52　D区　H－3・5号住居址、グリット出土の土器と土製品

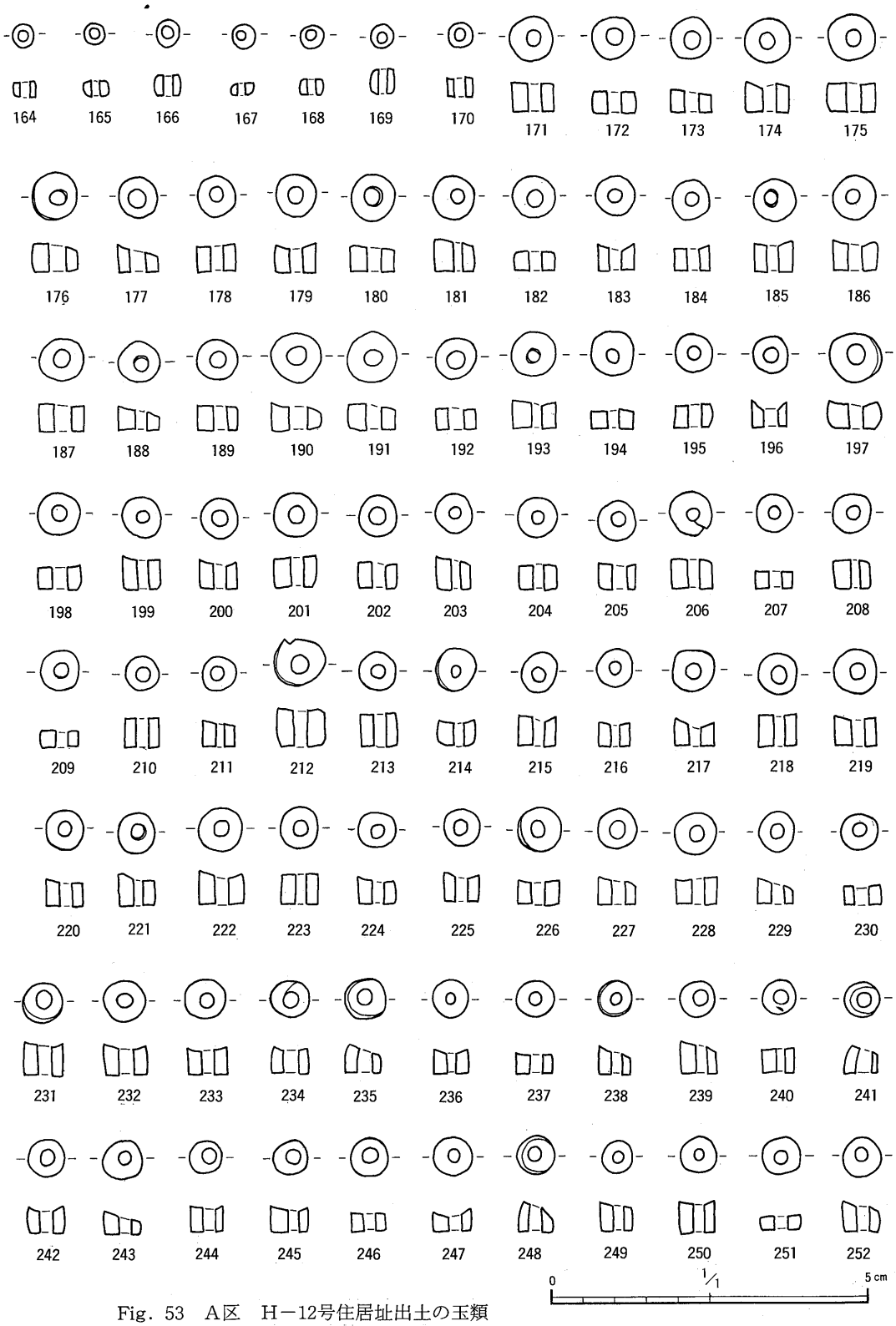


Fig. 53　A区　H－12号住居址出土の玉類

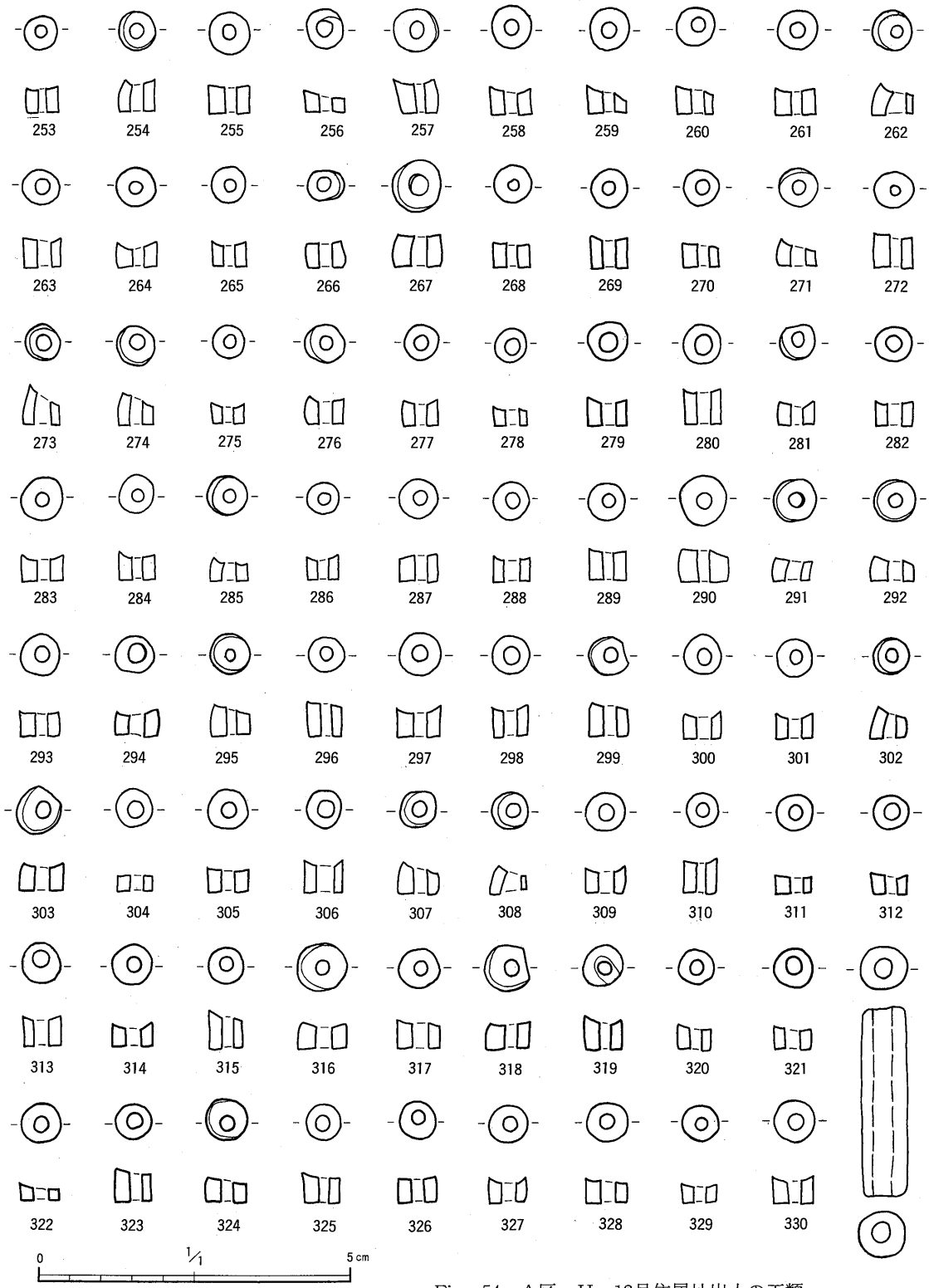


Fig. 54　A区　H－12号住居址出土の玉類

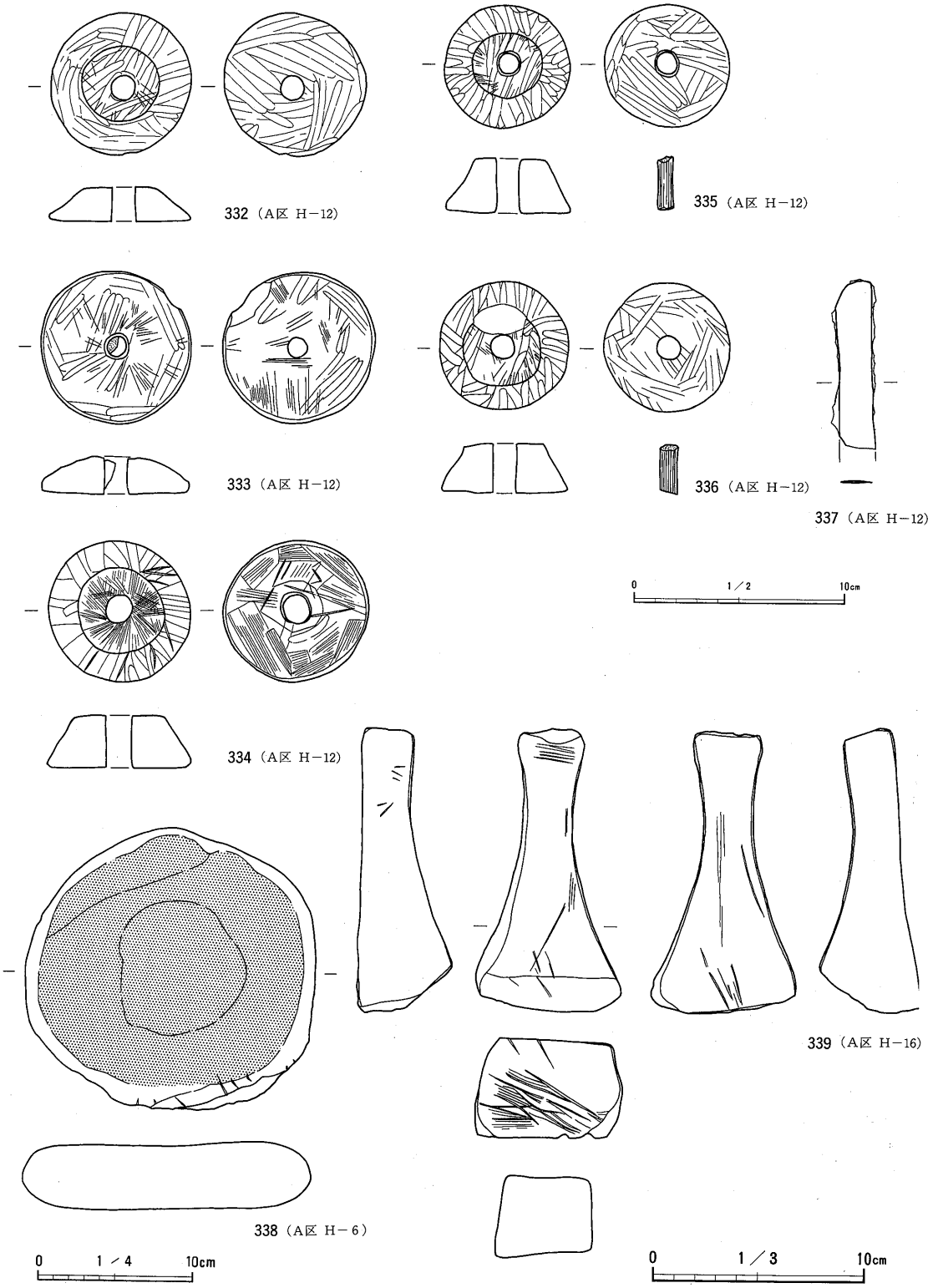


Fig. 55　A区　H−6・12・16号住居址出土の石製品と鉄製品

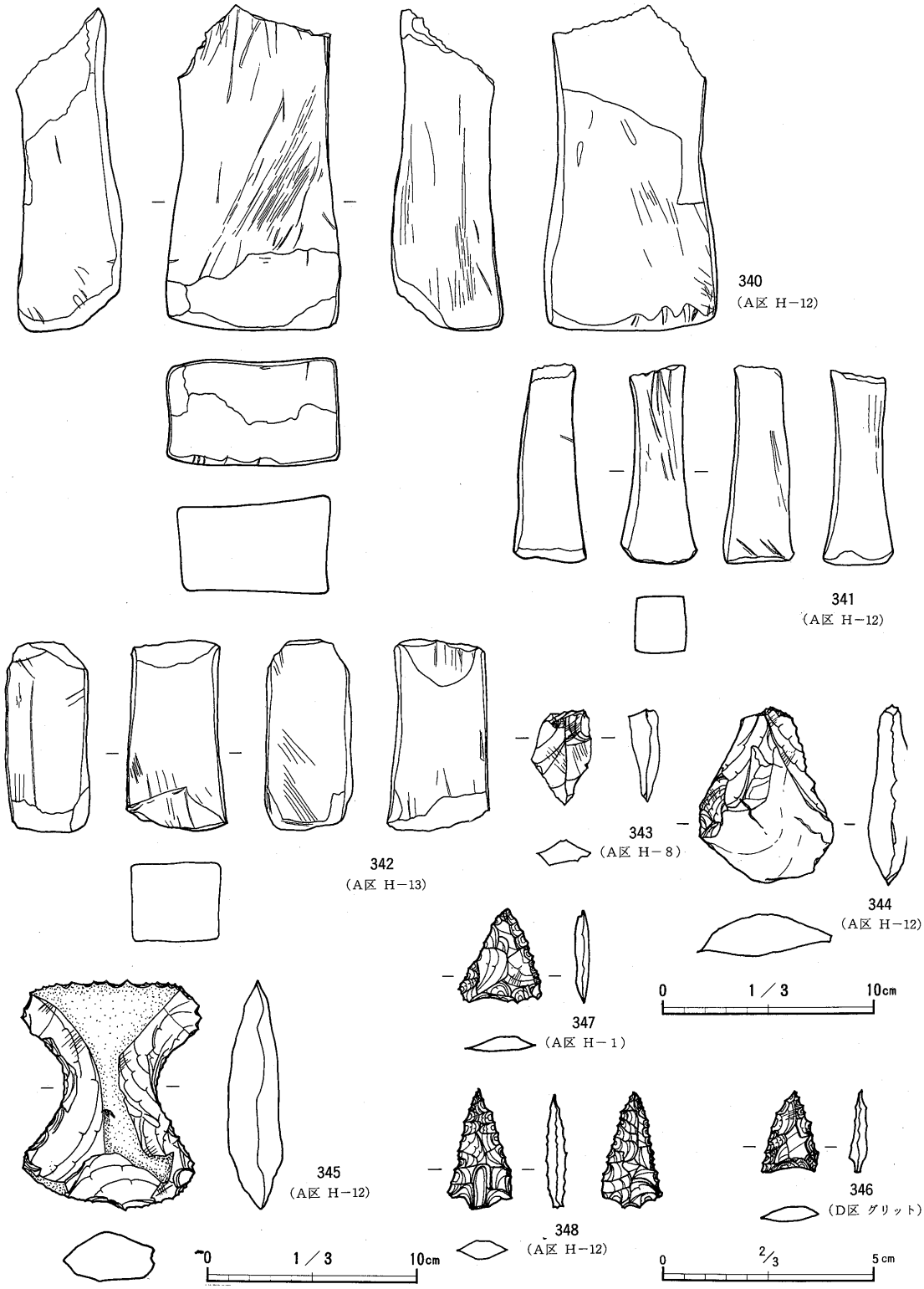
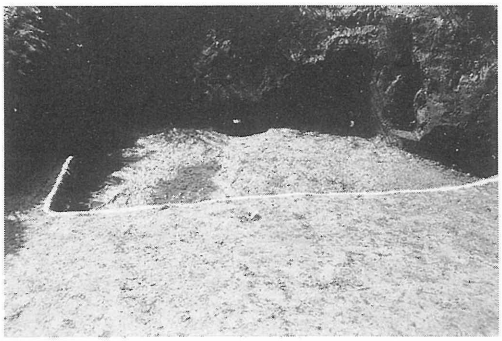
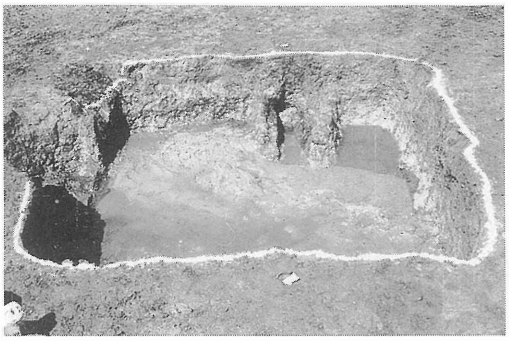


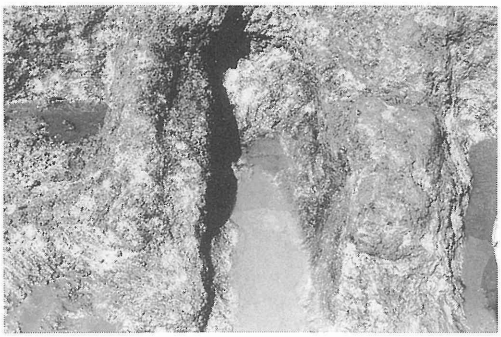
Fig. 56　A区　H−1・8・12・13号住居址・D区　グリットの石器



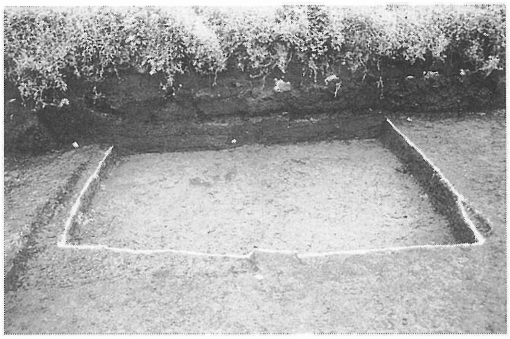
１．Ａ区 Ｈ－１号住居址（北から）



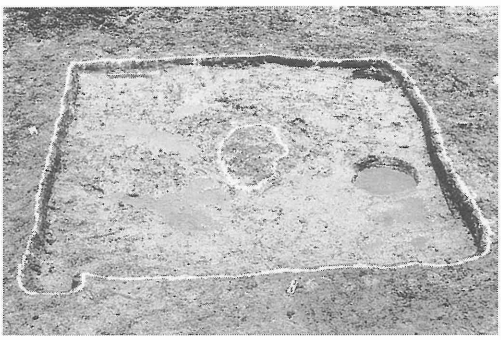
２．Ａ区 Ｈ－２号住居址（西から）



３．Ａ区 Ｈ－２号住居址竈（西から）

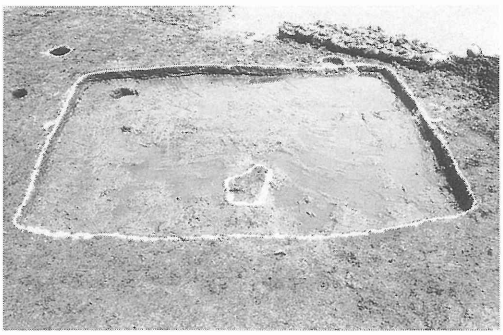


４．Ａ区 Ｈ－３号住居址（東から）

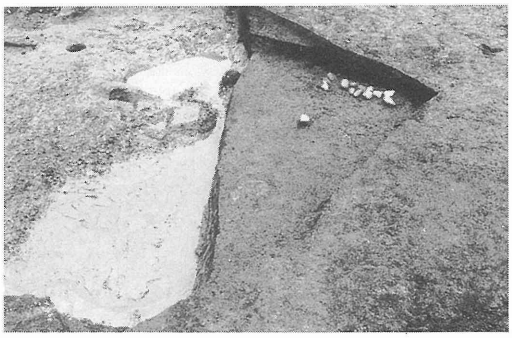


５．Ａ区 Ｈ－４号住居址（北から）

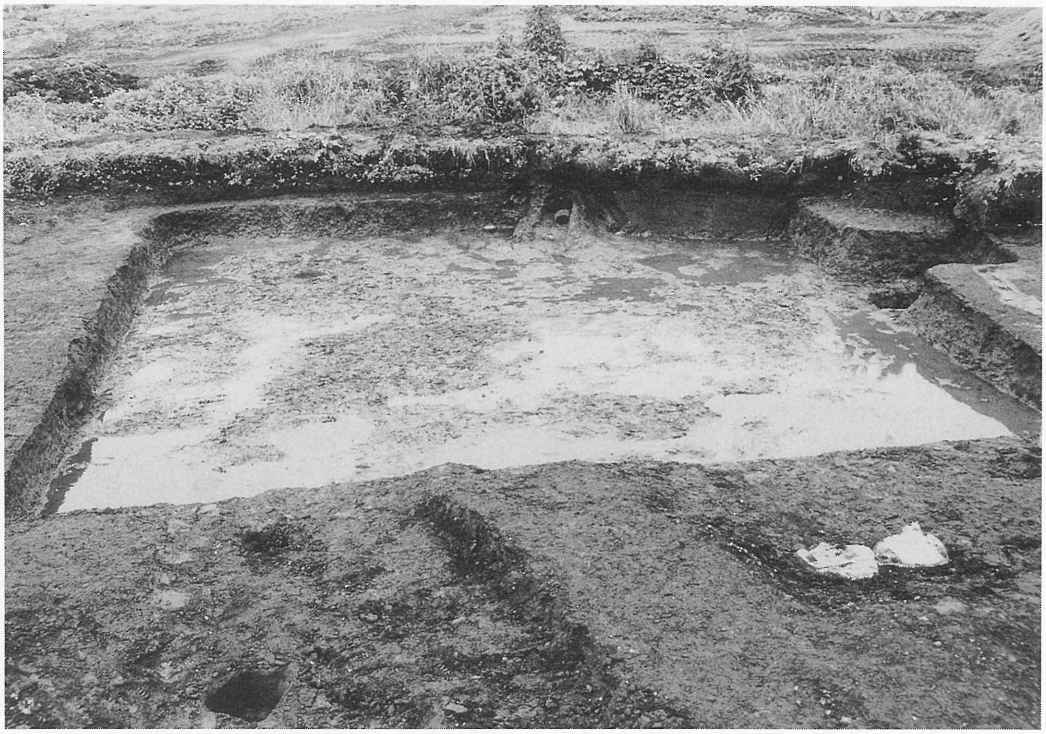
６．Ａ区 Ｈ－４号住居址遺物出土状態（東から）



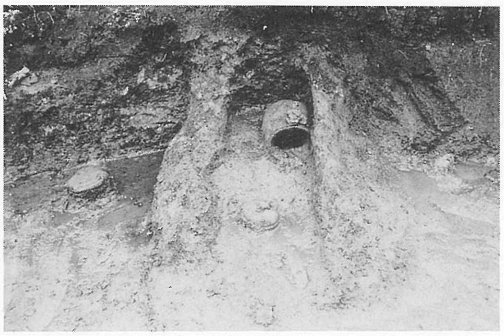
７．Ａ区 Ｈ－５号住居址（北から）



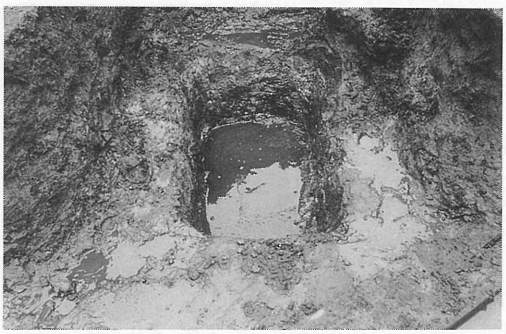
８．Ａ区 Ｈ－９号住居址（西から）



9．Ａ区 Ｈ－６号住居址（西から）

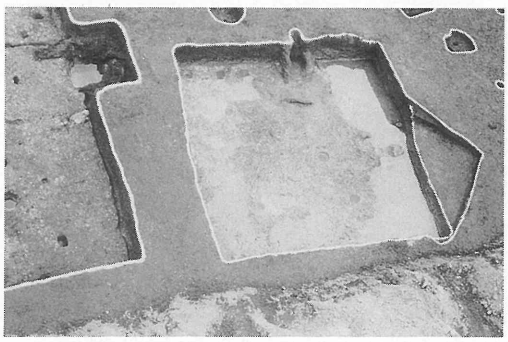


10. Ａ区 Ｈ－６号住居址竈（西から）



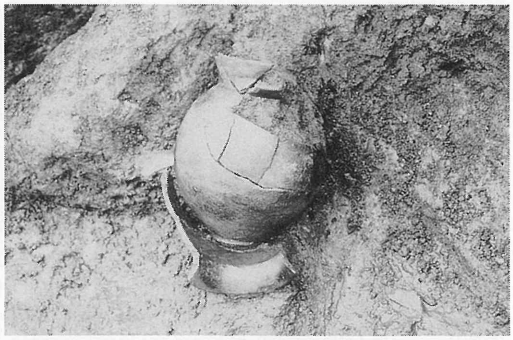
11. Ａ区 Ｈ－６号住居址張り出しピット(北から)

12. Ａ区 Ｈ－８号住居址（西から）

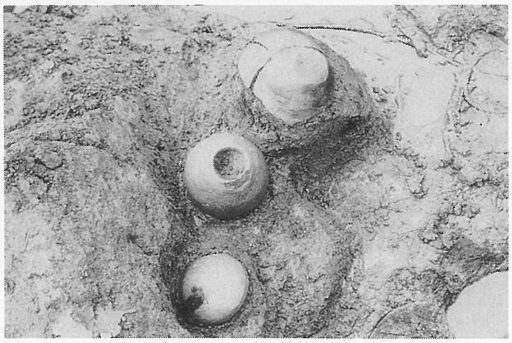


13. Ａ区 Ｈ－８、９号住居址（上空西から）

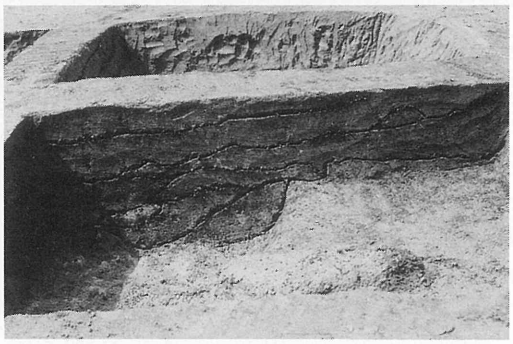
14. A区 H－8号住居址竈（西から）



15. A区 H－8号住居址遺物出土状態（西から）



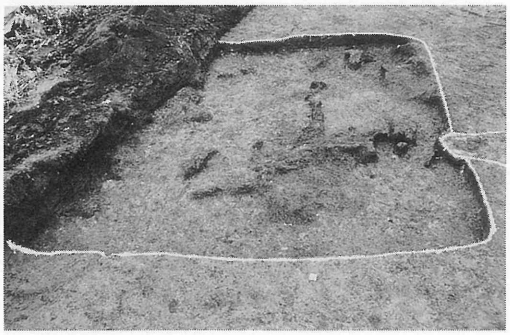
16. A区 H－8号住居址遺物出土状態（北から）



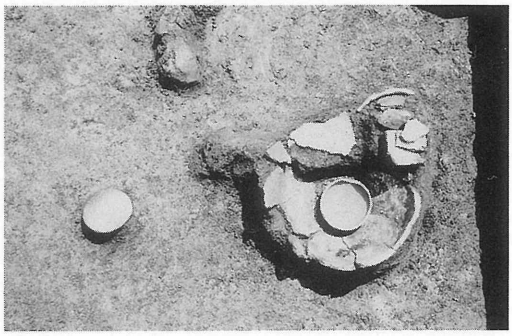
17. A区 H－11号住居址東西セクション（南から）

18. A区 H－10号住居址（西から）

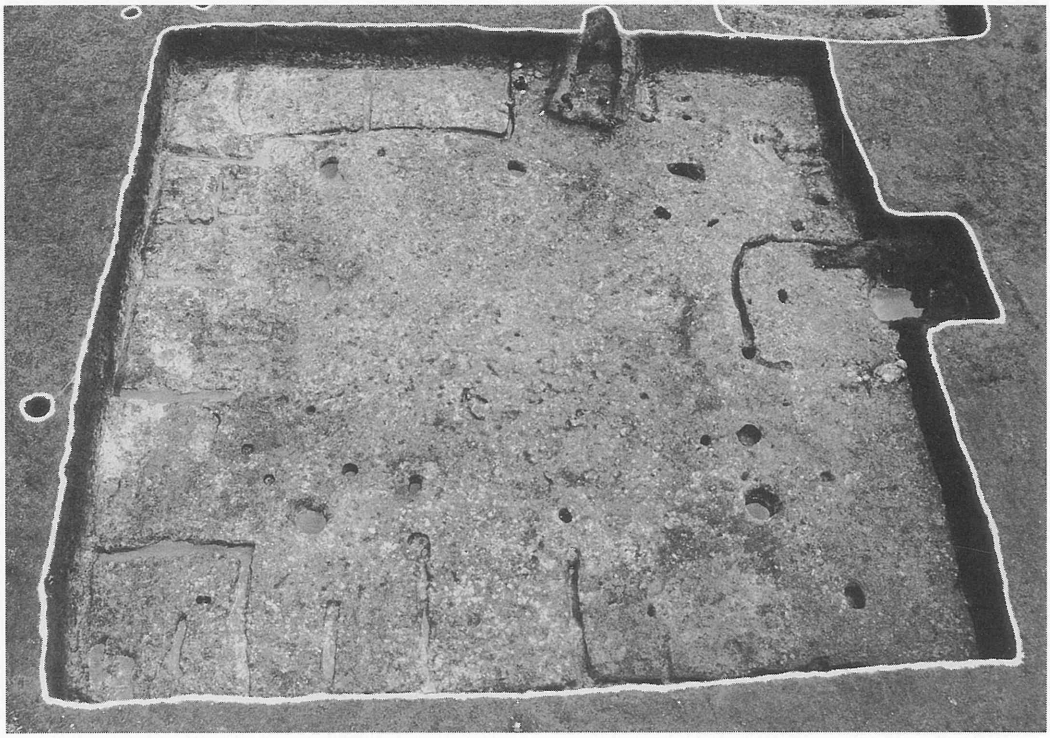
19. A区 H－10号住居址竈（西から）



20. A区 H－14号住居址（北から）

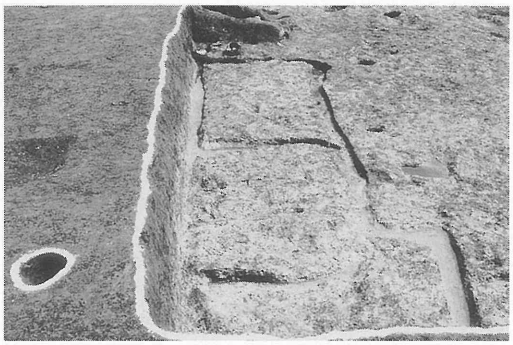


21. A区 H－14号住居址遺物出土状態（北から）

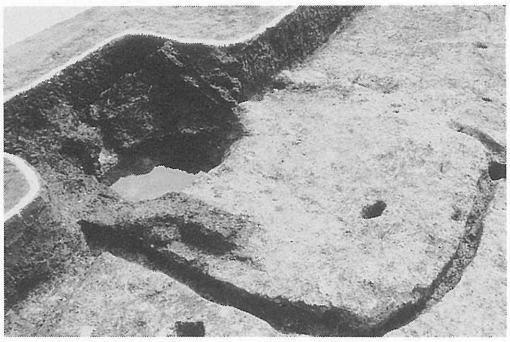


22. Ａ区 Ｈ－12号住居址（上空西から）

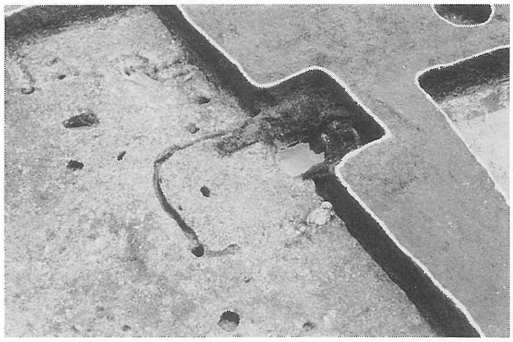
23. Ａ区 Ｈ－12号住居址間仕切り溝（北から）



24. Ａ区 Ｈ－12号住居址間仕切り溝（北から）

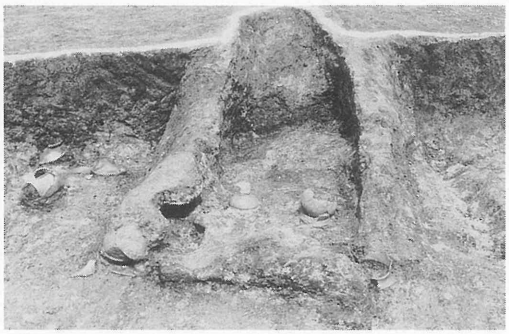


25. Ａ区 Ｈ－12号住居址張り出し部（北東から）



26. Ａ区 Ｈ－12号住居址張り出し部（上空北西から）

27. A区 H－12号住居址竈（北西から）



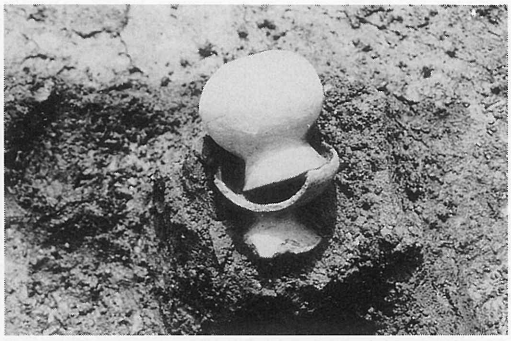
28. A区 H－12号住居址竈（西から）

29. A区 H－12号住居址竈付近炭化物（西から）

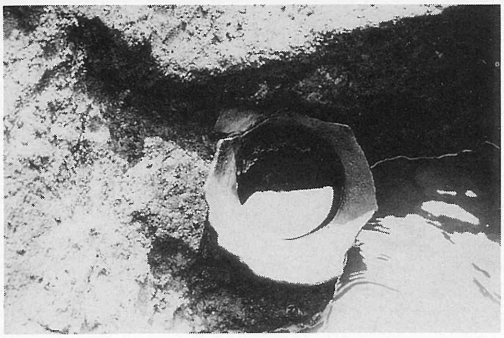
30. A区 H－12号住居址炭化物（北西から）

31. A区 H－12号住居址炭化物（西から）

32. A区 H－12号住居址遺物出土状態（南西から）



33. A区 H－12号住居址遺物出土状態（東から）

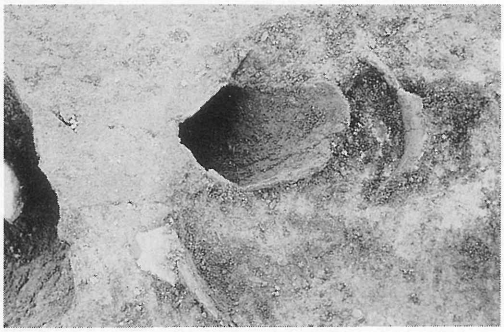


34. A区 H－12号住居址遺物出土状態（西から）

35. A区 H－12号住居址遺物出土状態（西から）

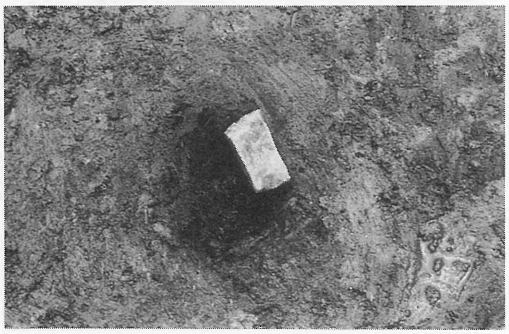
36. A区 H－13号住居址（西から）

37. A区 H－13号住居址竈（西から）

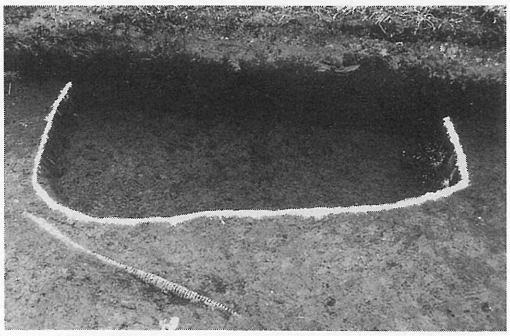


38. A区 H－13号住居址煙出し部（北から）

39. A区 H－13号住居址遺物出土状態（北から）

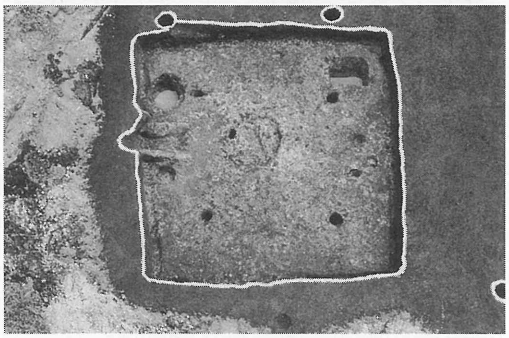


40. A区 H－13号住居址遺物出土状態（西から）



41. A区 H－15号住居址（東から）

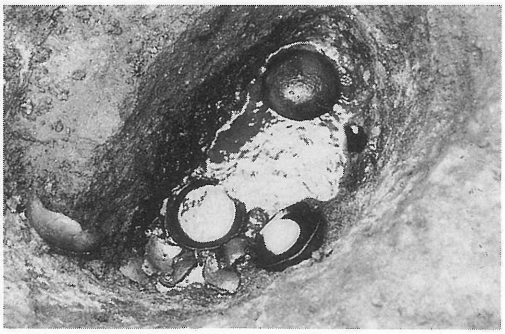
42. A区 H－16号住居址（南東から）



43. A区 H－16号住居址（上空から）

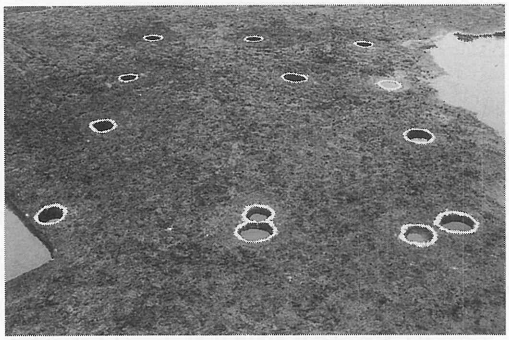
44. A区 H－16号住居址竈（南から）

45. A区 H－16号住居址竈遺物出土状態（南から）

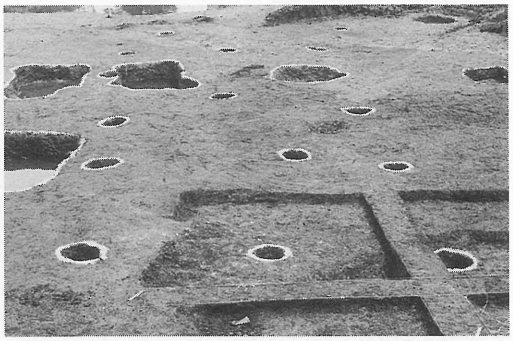


46. A区 H－16号住居址貯蔵穴遺物出土状態（南から）

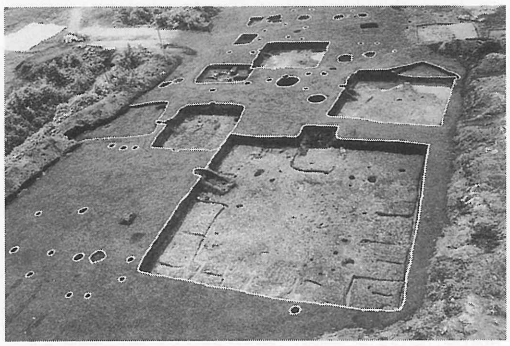
47. A区 H－16号住居址遺物出土状態（上から）



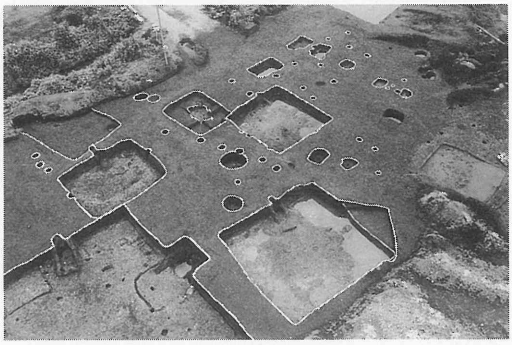
48. A区 B－1号掘立柱建物跡（西から）



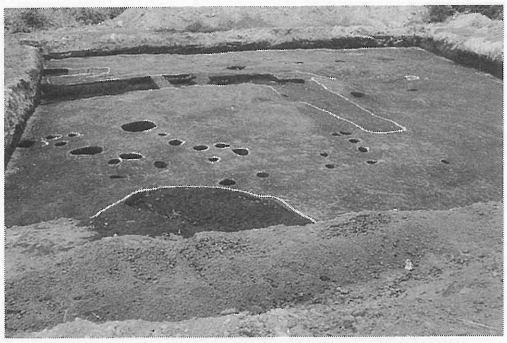
49. A区 B－2号掘立柱建物跡（北から）



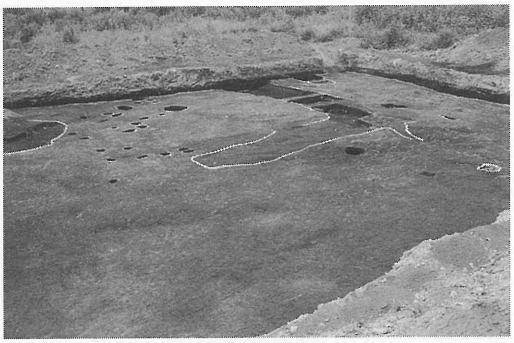
50. A区 全景（上空北から）



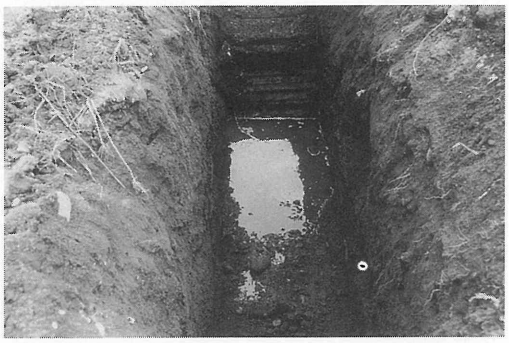
51. A区 全景（上空西から）



52. B区 全景（南から）



53. B区 全景（東から）



54. C区 トレンチ（北から）

55. C区 トレンチ（北から）

56. D区全景（南から）

57. D区 全景（北から）

58. D区 東部（西から）

59. D区 西部（東から）

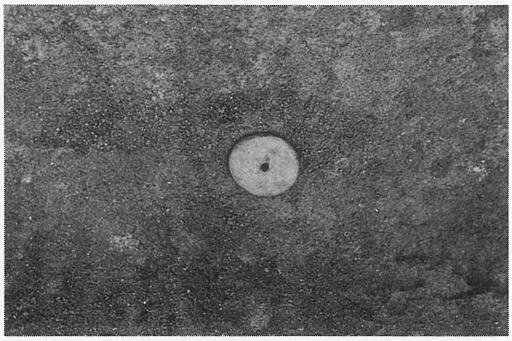
60. D区 南部（西から）

61. D区 中央部（南から）

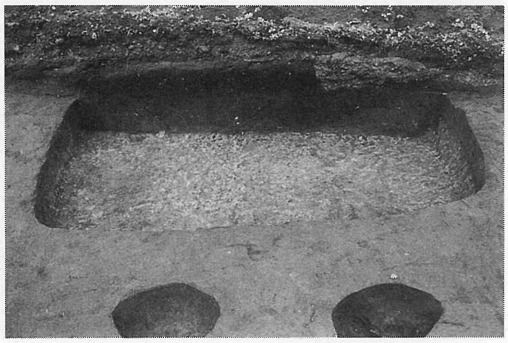
62. D区 H－1号住居址（南から）

63. D区 H－1号住居址遺物出土状態（北から）

64. Ｄ区 Ｈ－２、３号住居址（東から）



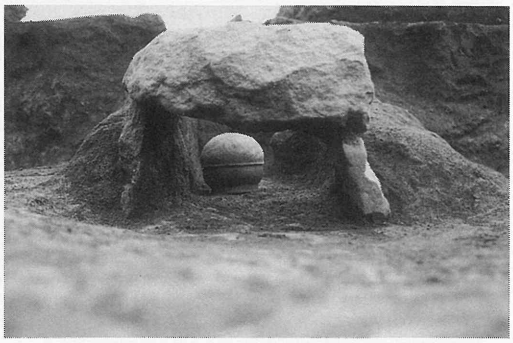
65. Ｄ区 Ｈ－３号住居址（西から）



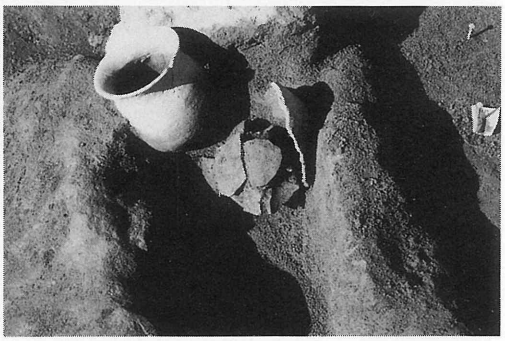
66. Ｄ区 Ｈ－４号住居址（東から）

67. Ｄ区 Ｈ－５号住居址（西から）

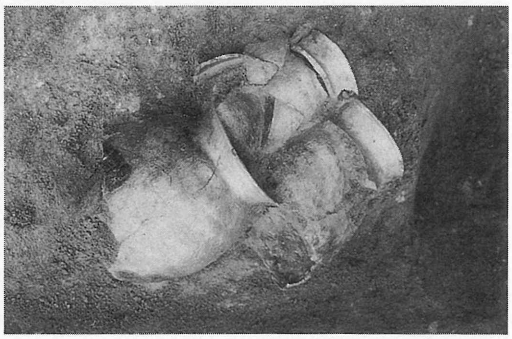
68. Ｄ区 Ｈ－５号住居址竈遺物出土状態（西から）



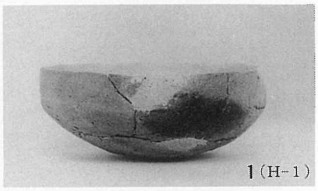
69. Ｄ区 Ｈ－５号住居址竈（西から）

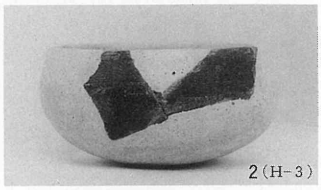


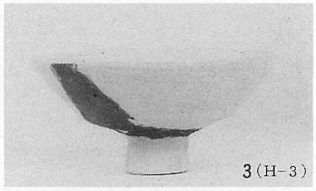
70. Ｄ区 Ｈ－５号住居址竈遺物出土状態（東から）



71. Ｄ区 Ｈ－５号住居址遺物出土状態（南から）

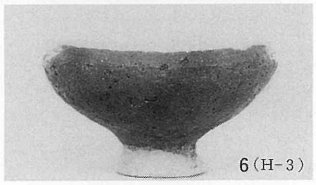

1(H-1)

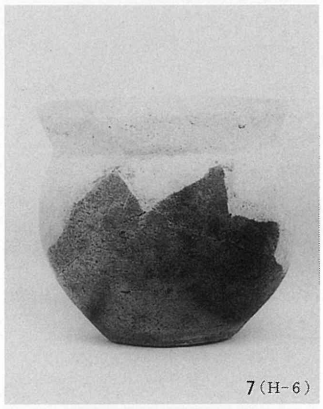

2(H-3)


3(H-3)

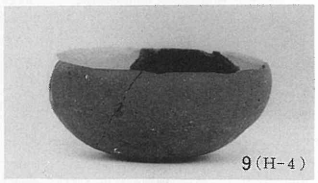
4(H-4)

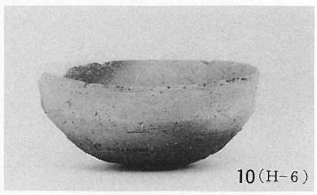
5(H-4)

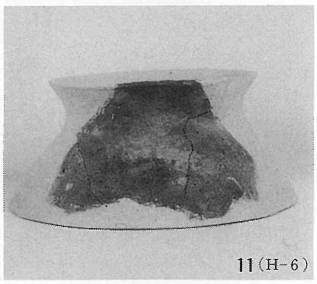

6(H-3)

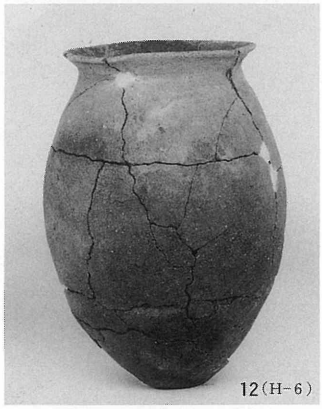

7(H-6)

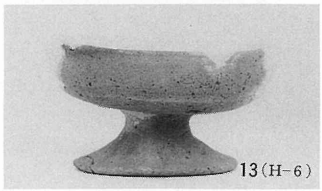
8(H-4)


9(H-4)


10(H-6)


11(H-6)

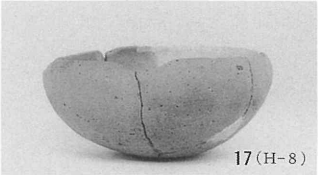

12(H-6)

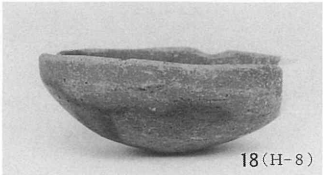

13(H-6)

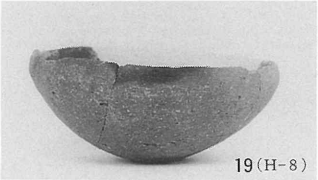
14(H-6)

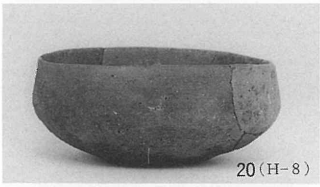
15(H-8)

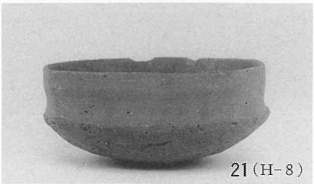
16(H-8)


17(H-8)

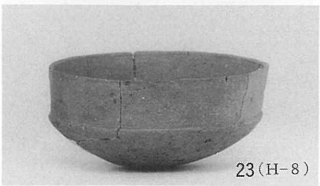

18(H-8)


19(H-8)


20(H-8)


21(H-8)

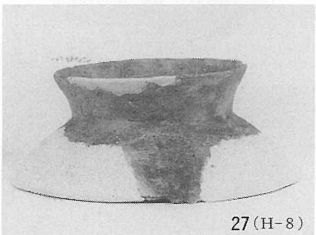
22(H-8)

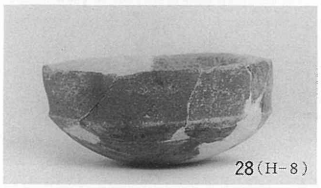

23(H-8)

24(H-8)

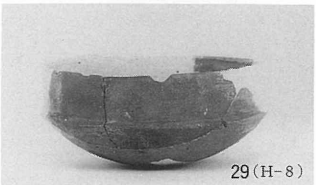
25(H-8)

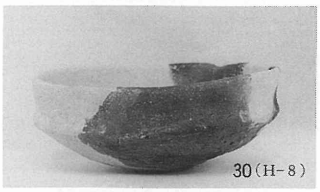
26(H-8)


27(H-8)

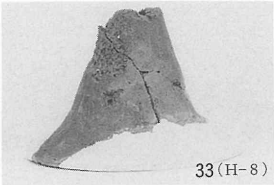

28(H-8)

31(H-8)


29(H-8)


30(H-8)

32(H-8)

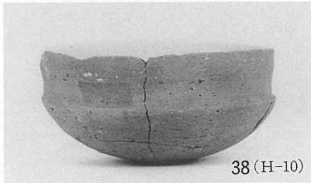

33 (H-8)

34 (H-8)

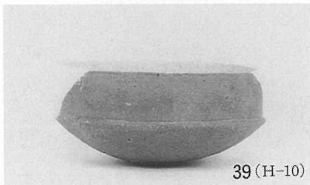
35 (H-8)

36 (H-8)

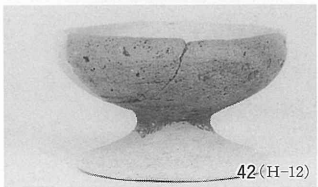
37 (H-8)

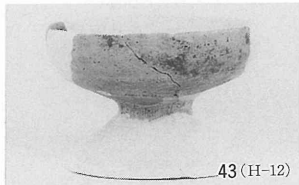

38 (H-10)

40 (H-10)


39 (H-10)

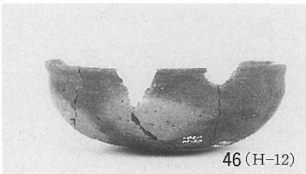
41 (H-12)

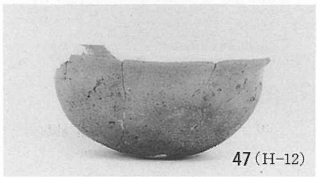

42 (H-12)


43 (H-12)

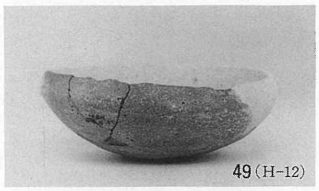
44 (H-12)

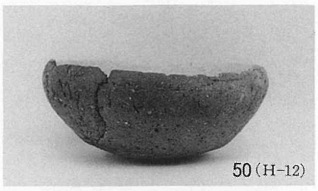
45 (H-12)

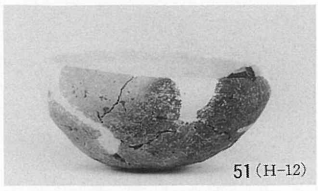

46 (H-12)

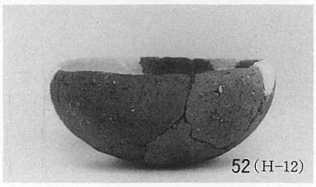

47 (H-12)

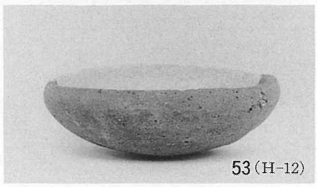
48 (H-12)


49 (H-12)

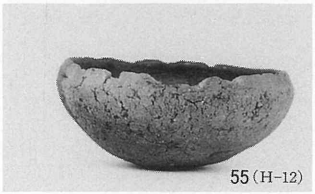

50 (H-12)

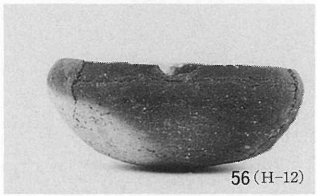

51 (H-12)


52 (H-12)

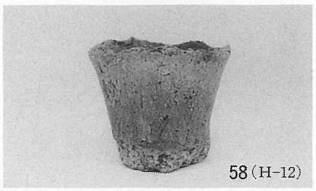

53 (H-12)

54 (H-12)

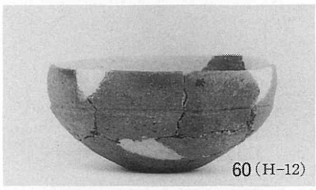

55 (H-12)


56 (H-12)

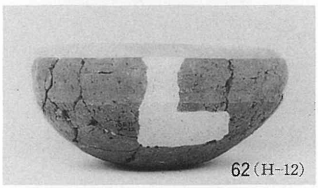
57 (H-12)


58 (H-12)

59 (H-12)

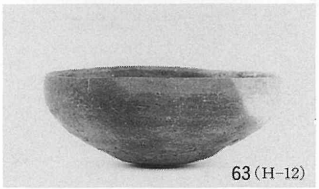

60 (H-12)

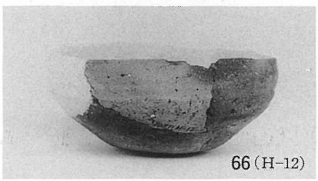
61 (H-12)


62 (H-12)

64 (H-12)

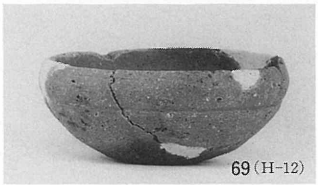
65 (H-12)

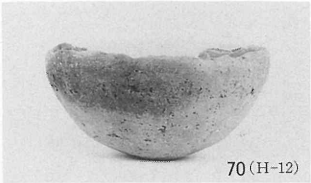

63 (H-12)

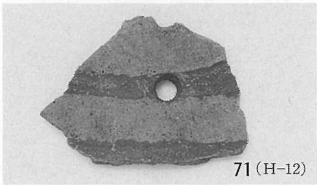

66 (H-12)

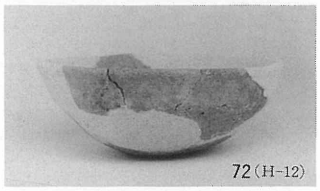
67 (H-12)

68 (H-12)

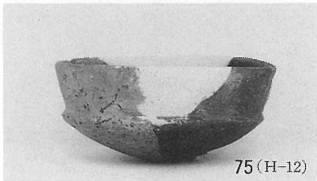

69 (H-12)


70 (H-12)


71 (H-12)


72 (H-12)

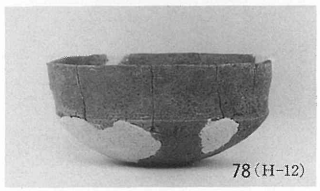
73 (H-12)

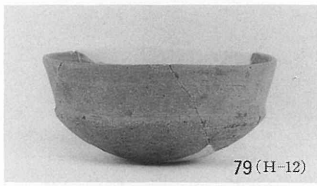

75 (H-12)

76 (H-12)

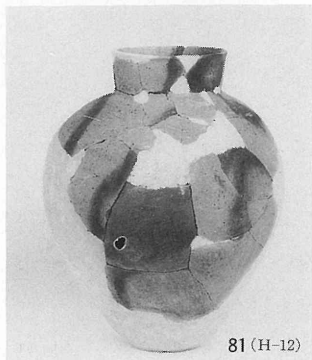
74 (H-12)

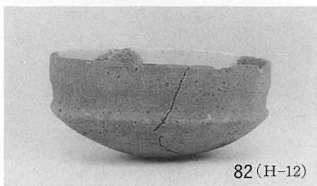
77 (H-12)

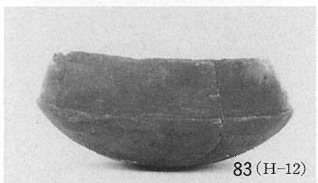

78 (H-12)

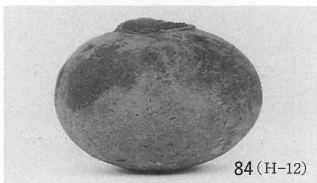

79 (H-12)

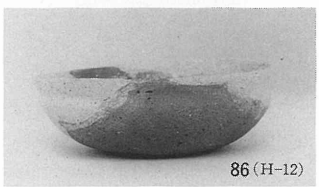
80 (H-12)


81 (H-12)


82 (H-12)


83 (H-12)


84 (H-12)


86 (H-12)

85 (H-12)

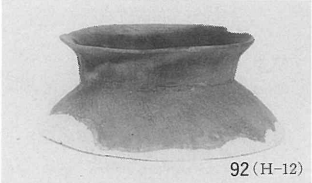
87 (H-12)

88 (H-12)

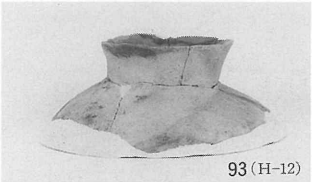
89 (H-12)

90 (H-12)

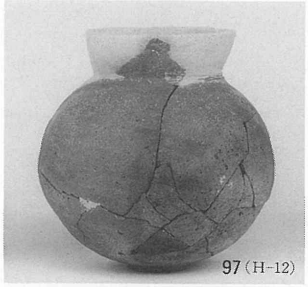
91 (H-12)


92 (H-12)

94 (H-12)

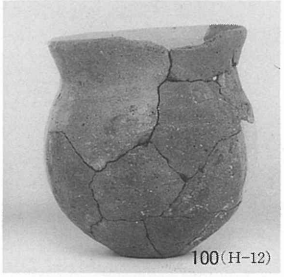

93 (H-12)

95 (H-12)

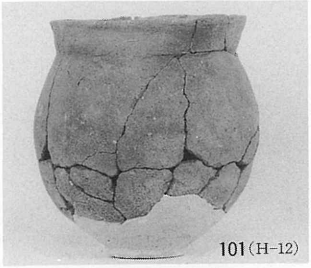

97 (H-12)

98 (H-12)

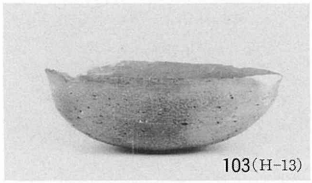
96 (H-12)

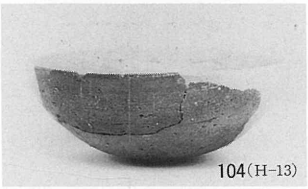

100 (H-12)

99 (H-12)

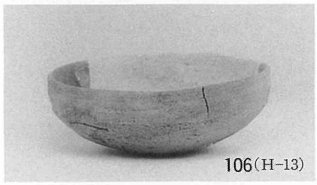

101(H-12)

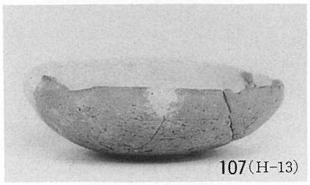
102(H-12)

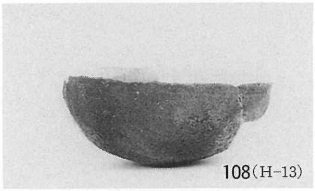

103(H-13)

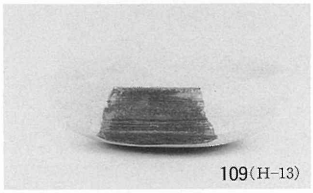

104(H-13)

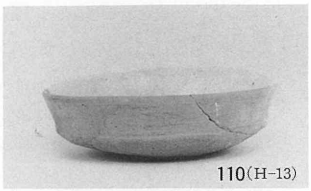
105(H-13)


106(H-13)

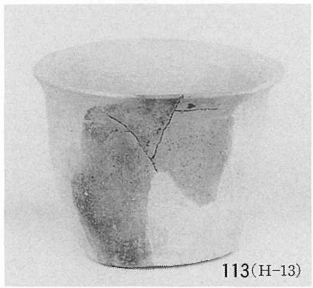

107(H-13)


108(H-13)

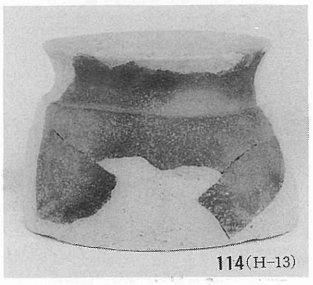

109(H-13)

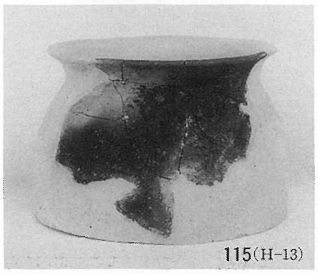

110(H-13)

112(H-13)

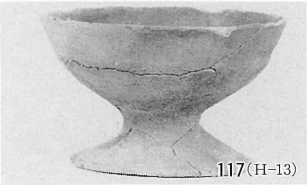

113(H-13)

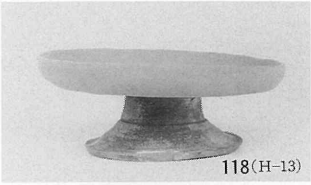
111(H-13)


114(H-13)

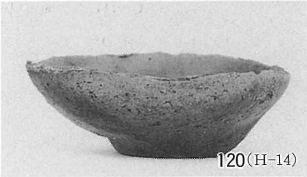

115(H-13)

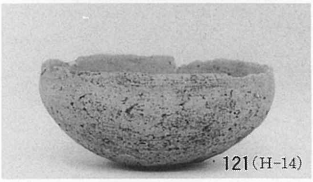
116(H-13)

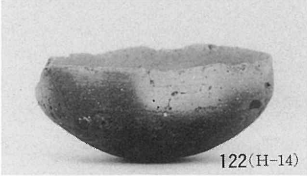

117(H-13)

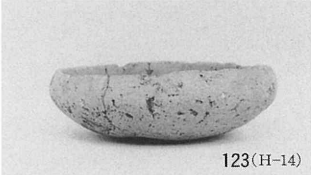

118(H-13)

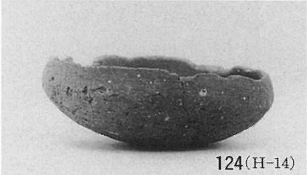
119(H-13)

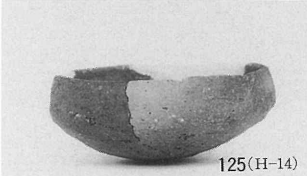

120(H-14)

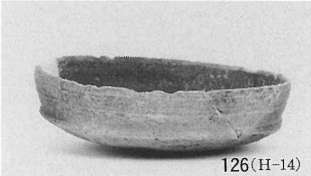

121(H-14)


122(H-14)

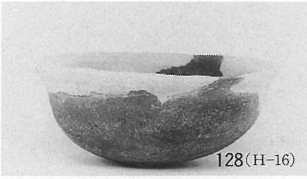

123(H-14)

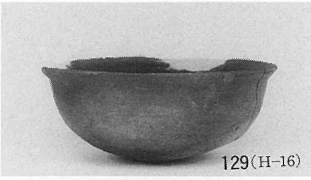

124(H-14)


125(H-14)

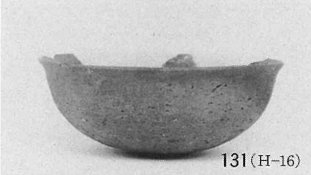

126(H-14)

127(H-14)


128(H-16)


129(H-16)

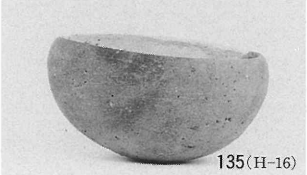
130(H-16)

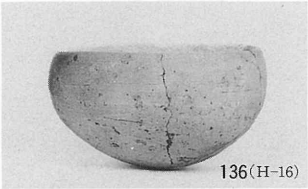

131(H-16)

132(H-16)

133(H-16)

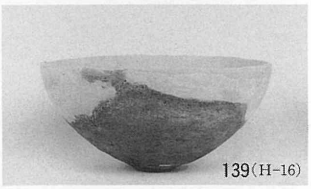
134(H-16)


135(H-16)


136(H-16)

137(H-16)

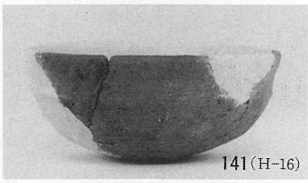
138(H-16)


139(H-16)

142(H-16)

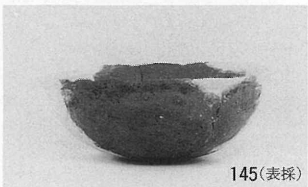
143(H-16)

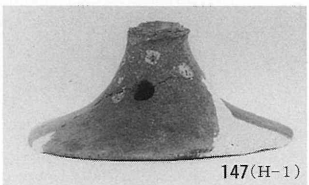
140(H-16)

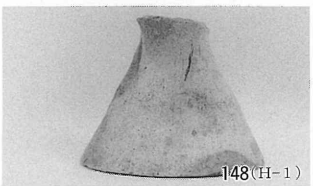

141(H-16)

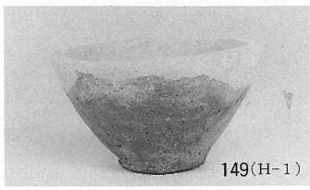
144(H-16)

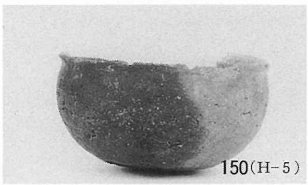
146(H-1)


145(表採)

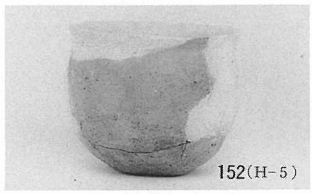

147(H-1)


148(H-1)

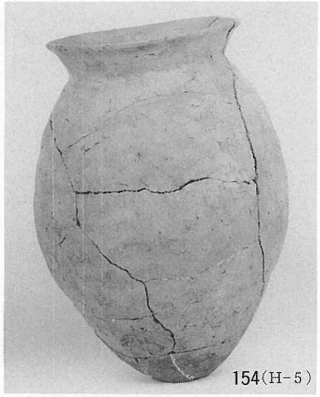

149(H-1)


150(H-5)

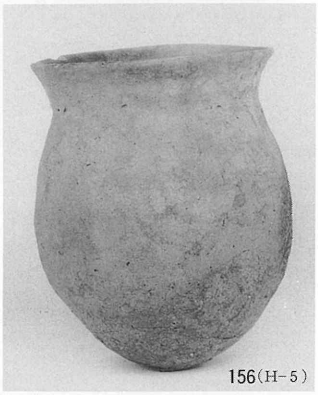
151(H-5)


152(H-5)

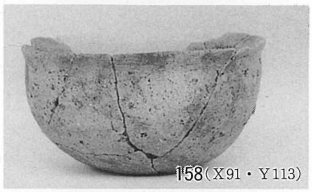
153(H-5)


154(H-5)

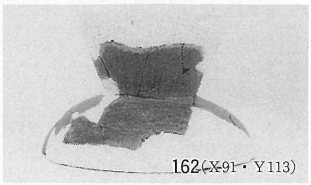
155(H-5)

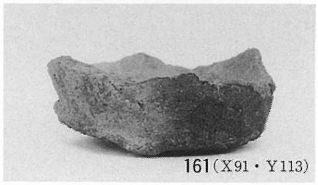

156(H-5)

157(H-5)

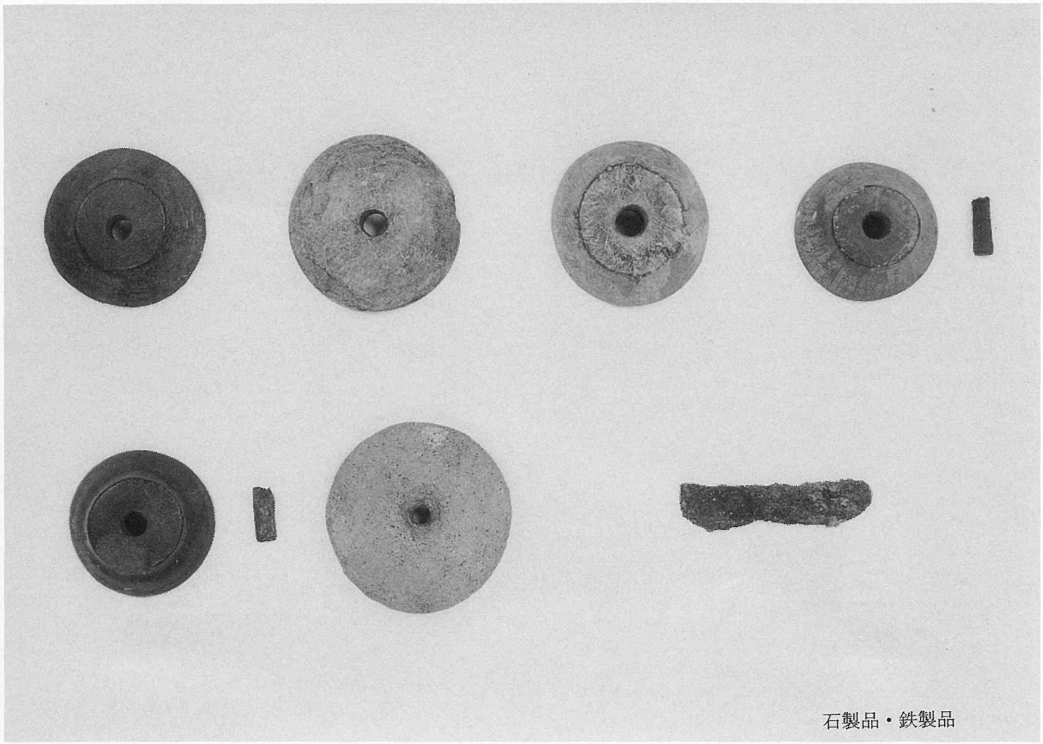

158(X91・Y113)

159(X91・Y113)

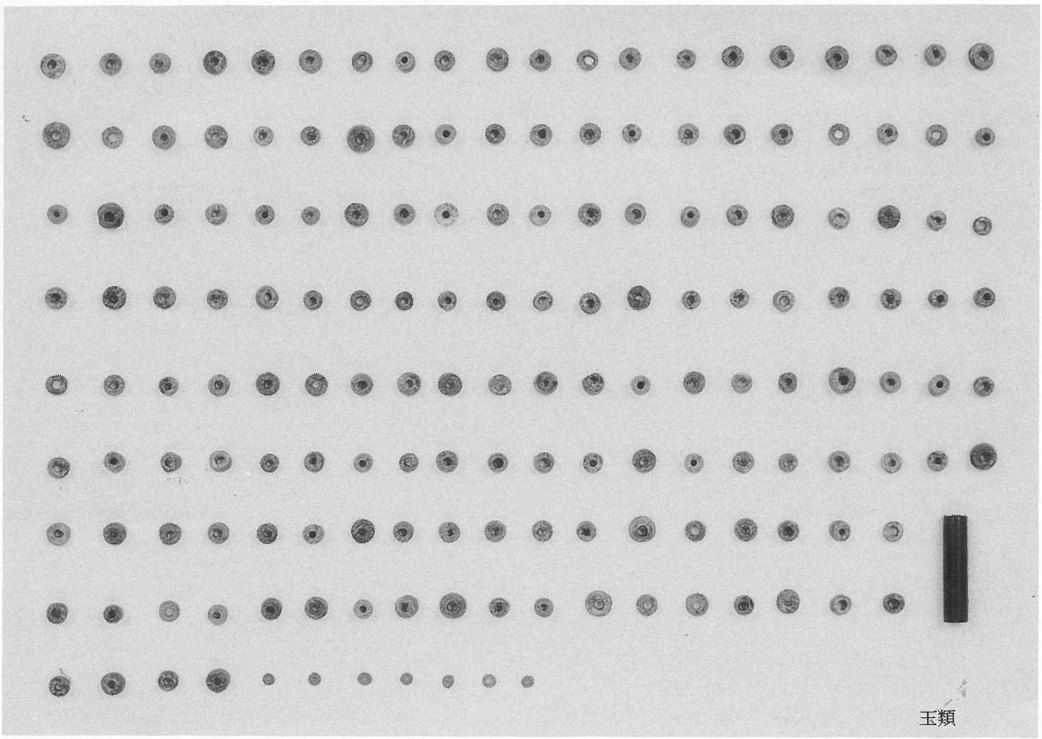

162(X91・Y113)


161(X91・Y113)

160(X91・Y113)



石製品・鉄製品



玉類

石器

内 堀 遺 跡 群 XI

平成11年３月19日　印　刷
平成11年３月26日　発　行

編集発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371-0007　前橋市上泉町664－４
ＴＥＬ　027－231－9531
印　　刷　上毎印刷工業株式会社